

湖 南 市

男女共同参画社会づくりに向けての
市民意識調査

男女共同参画社会づくりに関する
事業所実態調査

結 果 報 告 書

平成 28 年（2016 年）5 月
湖 南 市

目次

男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査	1
第1章 アンケート調査の概要.....	2
1. 調査の目的.....	2
2. 調査概要.....	2
3. 調査結果の見方.....	2
第2章 アンケート調査結果.....	3
1. 回答者の属性.....	3
2. 男女の地位に関する意識について.....	6
3. 働きかたについて.....	50
4. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について.....	77
5. 女性に対する暴力について.....	86
6. 男女共同参画社会について.....	94
男女共同参画社会づくりに関する事業所実態調査	97
第1章 アンケート調査の概要.....	98
1. 調査の目的.....	98
2. 調査概要.....	98
3. 調査結果の見方.....	98
第2章 アンケート調査結果.....	99
1. 回答者の属性.....	99
2. 女性活躍推進のための取組について.....	103
3. 従業員の休業制度について.....	108
4. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進について.....	112
5. セクシュアル・ハラスメントおよびパワーハラスメント対策について.....	115

男女共同参画社会づくりに向けての
市民意識調査

第1章 アンケート調査の概要

1. 調査の目的

「湖南省男女共同参画アクション2007計画」を改定するにあたり、その基礎となる住民の男女共同参画に関する意識を把握するために実施しました。

2. 調査概要

〈調査地域〉 湖南省全域

〈調査対象者〉 湖南省に在住する、20歳以上の方2,000人

〈抽出方法〉 住民基本台帳より無作為抽出

〈調査期間〉 平成27年（2015年）11月17日～12月2日

〈調査方法〉 郵便調査法（調査票を郵便にて配布・回収）

配布数	回収数	回収率
2,000	766 (778)	38.3% (38.9%)

()内は、無効票含む

3. 調査結果の見方

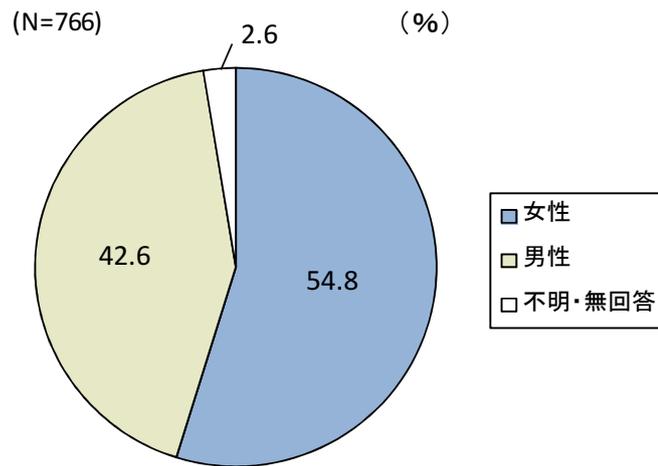
- グラフおよび表のN数（number of case）は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- 回答結果は、有効標本数に対して、それぞれの回答の占める割合を示しています。小数第2位を四捨五入しているため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合も、有効標本数に対して、それぞれの回答の占める割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 本文中の設問や選択肢の表記は簡略化している場合があります。

第2章 アンケート調査結果

1. 回答者の属性

【1. 性別】

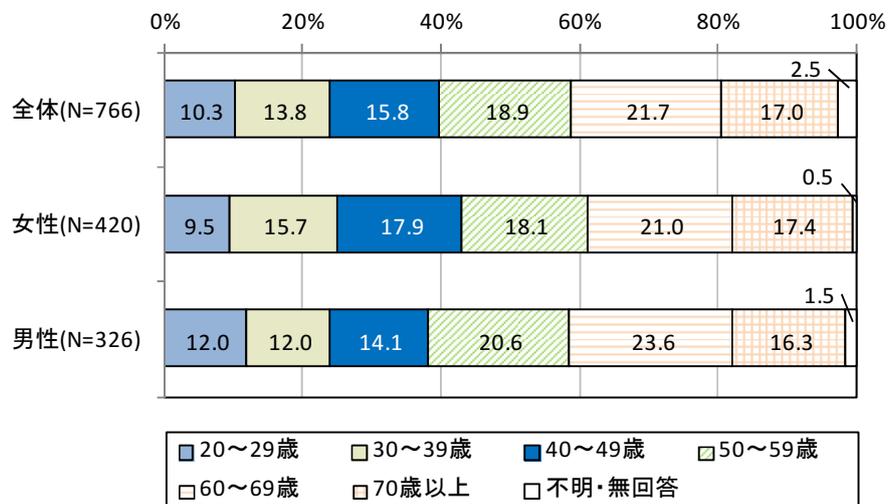
「女性」54.8%、「男性」42.6%、「不明・無回答」2.6%でした。



【2. 年代】

全体では、「20～29歳」10.3%、「30～39歳」13.8%、「40～49歳」15.8%、「50～59歳」18.9%、「60～69歳」21.7%、「70歳以上」17.0%、「不明・無回答」2.5%でした。

「60～69歳」と「70歳以上」を合わせた割合が女性では38.4%、男性では39.9%と、いずれも4割近くを占めています。

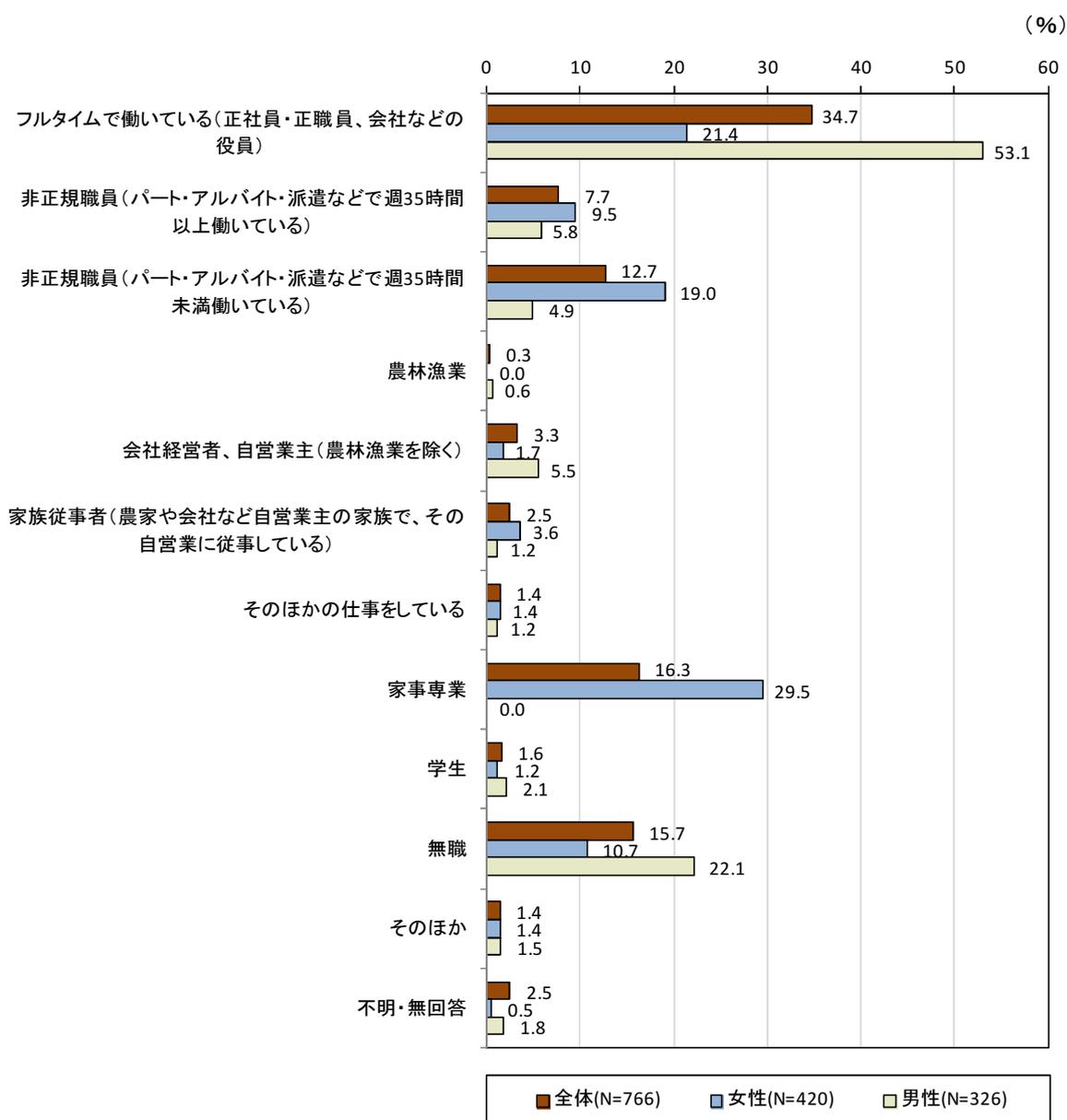


【3. 職業】

全体では、「フルタイムで働いている（正社員・正職員、会社などの役員）」が34.7%と最も多く、次いで「家事専業」16.3%、「無職」15.7%などとなっています。

女性では、「家事専業」が29.5%と最も多く、次いで「フルタイムで働いている」21.4%、「非正規職員（パート・アルバイト・派遣などで週35時間未満働いている）」19.0%などとなっています。男性では、「フルタイムで働いている」53.1%が最も多く、次いで「無職」22.1%、「非正規職員（パート・アルバイト・派遣などで週35時間以上働いている）」5.8%などとなっています。

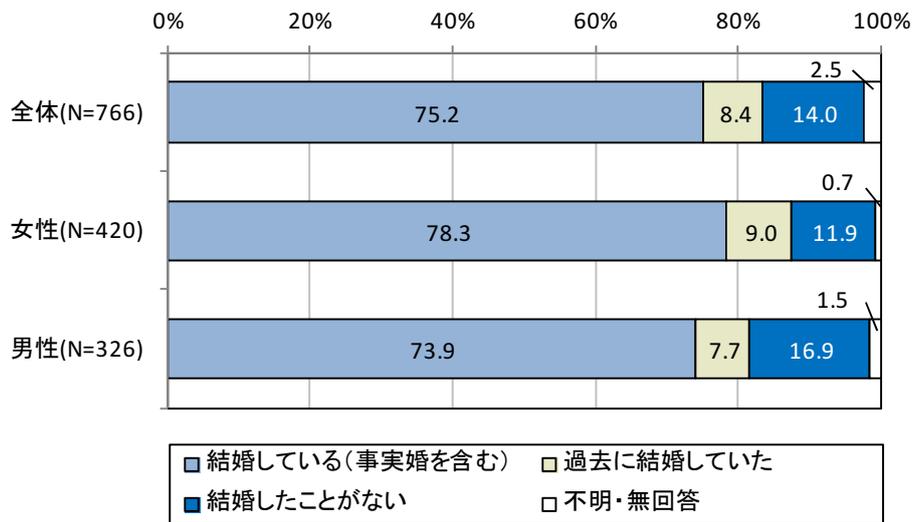
「無職」と答えた人の割合を年代別で見ると、全体で「20～29歳」0.0%、「30～39歳」1.9%、「40～49歳」2.5%、「50～59歳」4.8%、「60～69歳」16.9%、「70歳以上」61.5%でした（表やグラフは省略）。【2. 年代】でみた通り、退職者が多い60歳以上の構成比が男女とも4割近くあることが、「無職」の割合を押し上げています。



【4. 婚姻状況】

全体では、「結婚している（事実婚を含む）」75.2%、「過去に結婚していた」8.4%、「結婚したことがない」14.0%、「不明・無回答」2.5%でした。

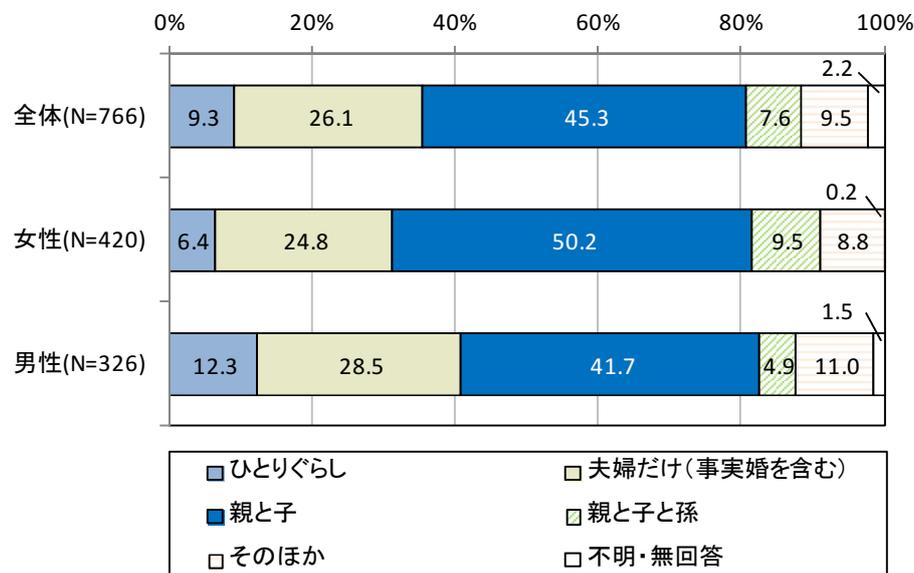
女性では、「結婚している」78.3%、「過去に結婚していた」9.0%、「結婚したことがない」11.9%、「不明・無回答」0.7%でした。男性では、「結婚している」73.9%、「過去に結婚していた」7.7%、「結婚したことがない」16.9%、「不明・無回答」1.5%でした。



【5. 家族構成】

全体では、「親と子」が45.3%と最も多く、次いで「夫婦だけ（事実婚含む）」26.1%、「そのほか」9.5%などとなっています。

女性では、「親と子」が50.2%と最も多く、次いで「夫婦だけ」24.8%、「親と子と孫」9.5%、「そのほか」8.8%などとなっています。男性では、「親と子」が41.7%と最も多く、次いで「夫婦だけ」28.5%、「ひとりぐらし」12.3%などとなっています。

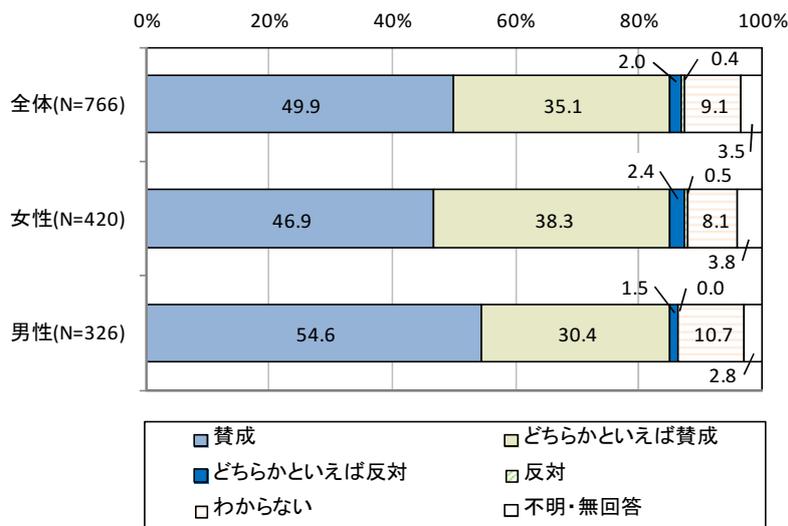


2. 男女の地位に関する意識について

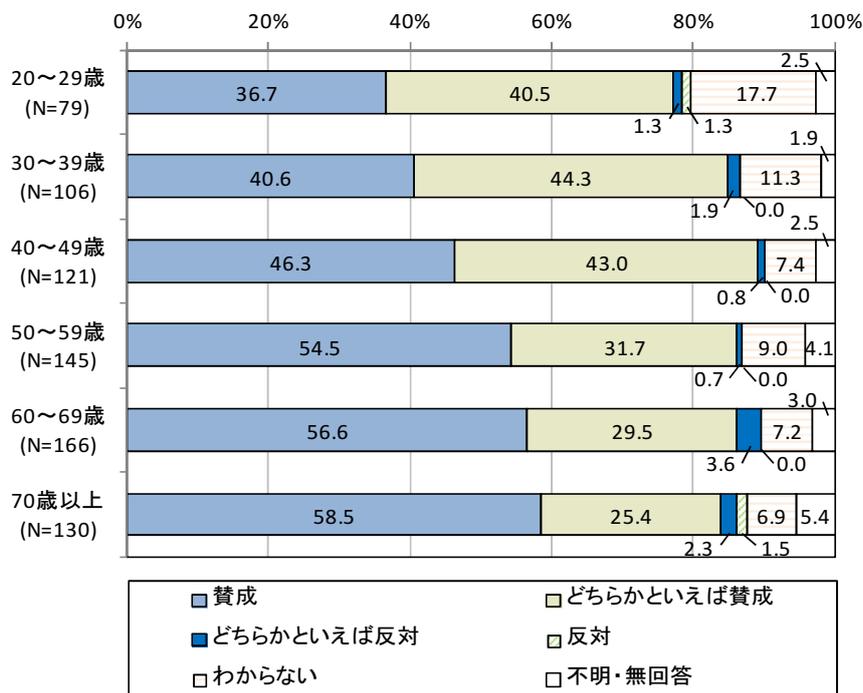
【Q1】あなたは、男女共同参画をすすめていくことに賛成ですか、反対ですか。
(〇は1つだけ)

全体では、「賛成」が49.9%と最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」35.1%、「わからない」9.1%などとなっています。

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成派」は、女性で85.2%、男性で85.0%とほぼ均衡していますが、はっきりと「賛成」と答えた人は、男性が7.7ポイント上回っています。



年代別では、「20～29歳」と「30～39歳」で「どちらかといえば賛成」が、「40～49歳」以上では「賛成」が、それぞれ最も多くなっています。「賛成派」は、「40～49歳」をピークに、グラフはゆるい山型を描いています。一方、はっきりと「賛成」と答えた人は、年代が上がるほど多くなっています。



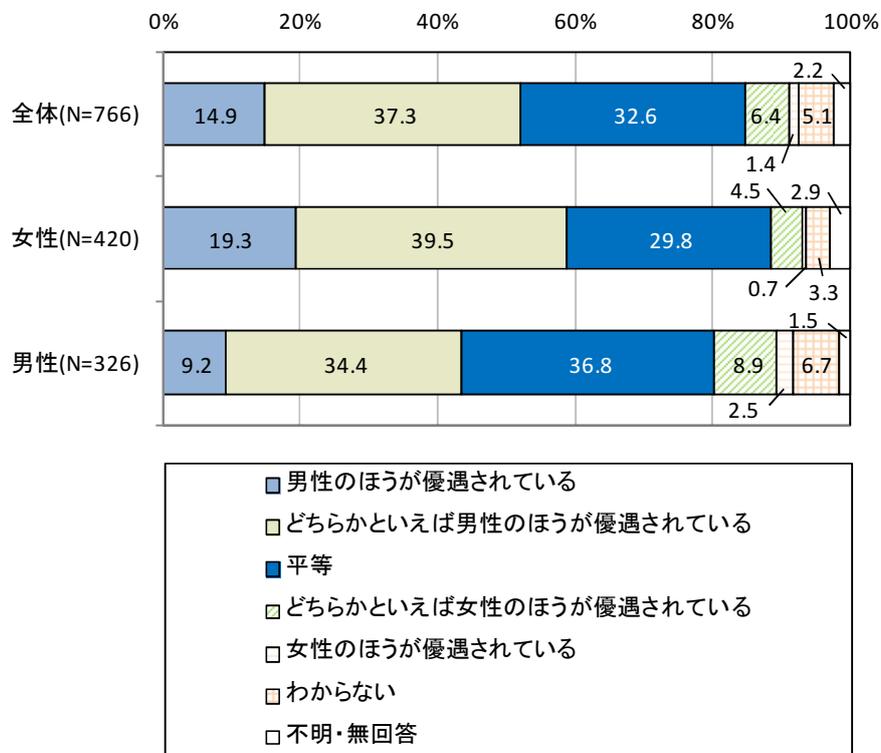
【Q2】 次の(ア)～(キ)について、男女は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つだけ)

(ア) 家庭で

全体では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 37.3%と最も多く、次いで「平等」32.6%、「男性のほうが優遇されている」14.9%などとなっています。

女性では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 39.5%と最も多く、次いで「平等」29.8%、「男性のほうが優遇されている」19.3%などとなっています。男性では、「平等」が 36.8%と最も多く、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」34.4%、「男性のほうが優遇されている」9.2%などとなっています。

「男性のほうが優遇されている」は女性で19.3%と、男性の9.2%に比べて倍以上、多くなっています。

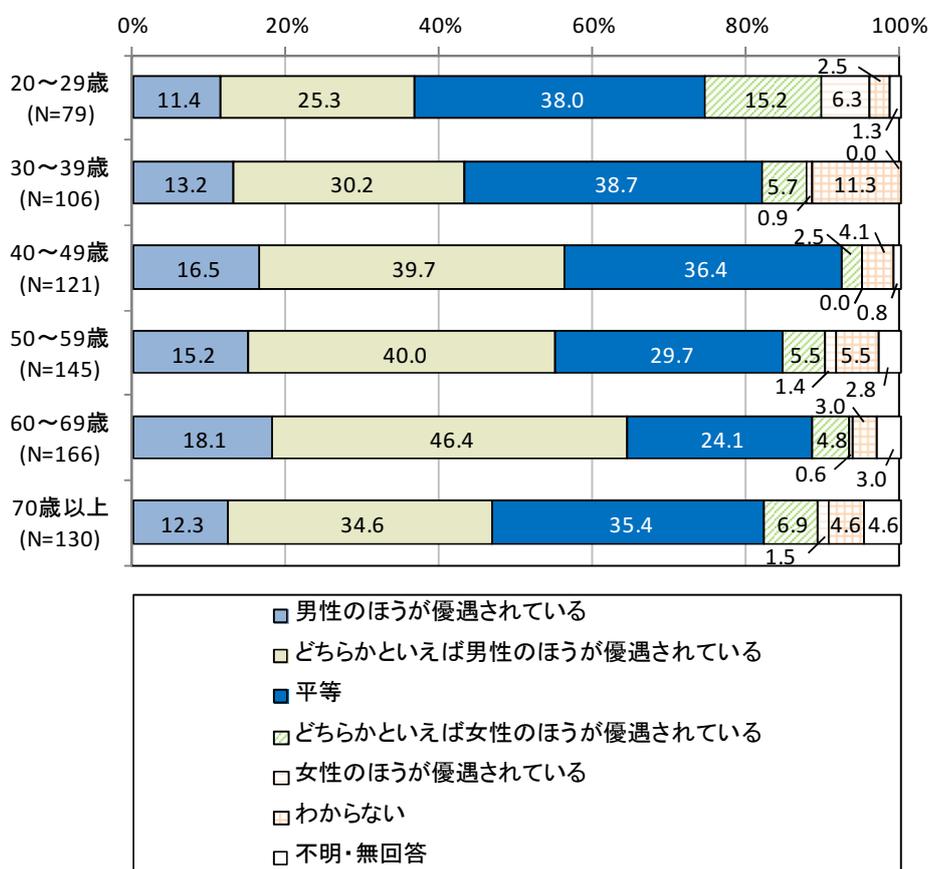


前回調査（平成 23 年 2 月）との比較では、全体で「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」が 2.0 ポイント増と最も増加しており、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 1.4 ポイント減と最も減少しています。

男性が優遇されているという意見に関しては、「どちらかといえば」というあいまいな回答が 1.4 ポイント減少し、はっきりと「男性のほうが優遇されている」と答えた人が 1.5 ポイント増加しています。（不明・無回答は除く。以下同）

	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
男性のほうが優遇されている	14.9	13.4	1.5
どちらかといえば男性のほうが優遇されている	37.3	38.7	-1.4
平等	32.6	32.4	0.2
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	6.4	4.4	2.0
女性のほうが優遇されている	1.4	1.6	-0.2
わからない	5.1	5.7	-0.6

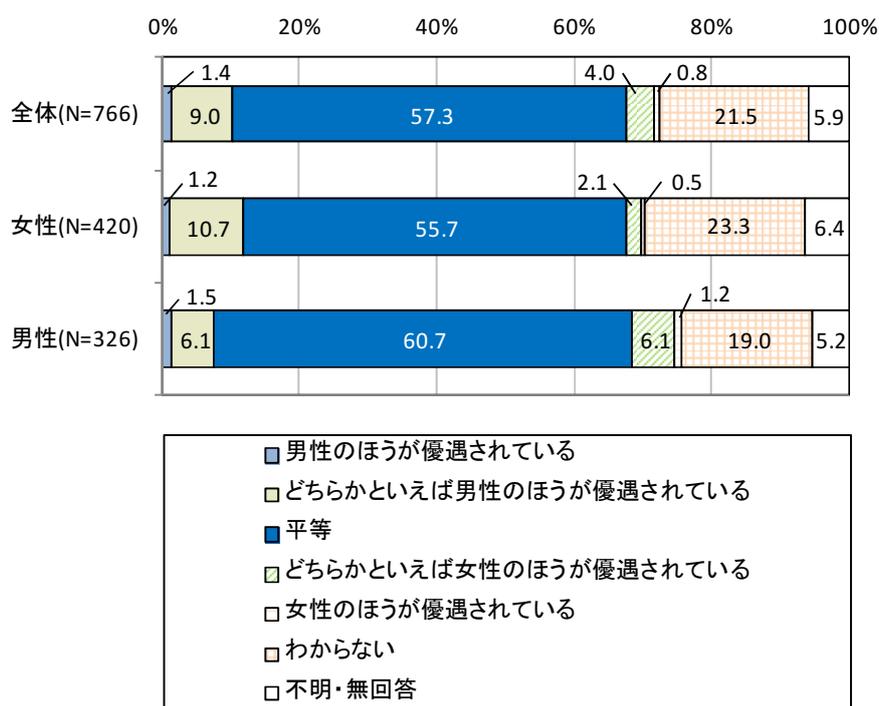
年代別では、「20～29 歳」と「30～39 歳」で「平等」が、「40～49 歳」から「60～69 歳」までは「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が、「70 歳以上」では「平等」が、それぞれ最も多くなっています。「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた割合は、年代が上がるほど増加する傾向にありますが（「50～59 歳」では、やや減少）、「70 歳以上」で減少に転じています。



(イ) 学校で

全体では、「平等」が57.3%と最も多く、次いで「わからない」21.5%、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」9.0%などとなっています。

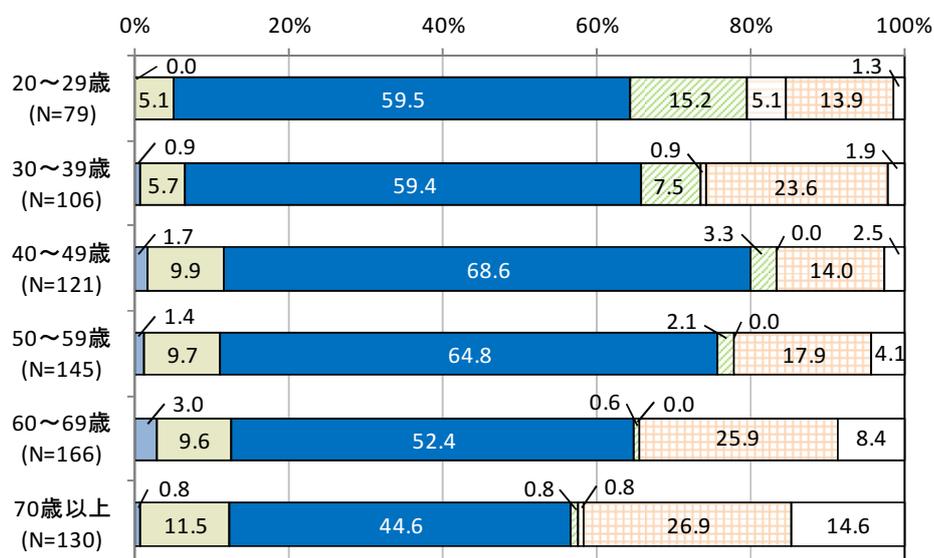
女性では、「平等」が55.7%と最も多く、次いで「わからない」23.3%、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」10.7%などとなっています。男性では、「平等」が60.7%と最も多く、次いで「わからない」19.0%、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」が、それぞれ6.1%などとなっています。【Q2】の他の項目に比べ、「平等」が突出して多くなっています。



前回調査との比較では、全体で「わからない」が2.5ポイント増と最も増加しており、「平等」が2.4ポイント減と最も減少しています。(不明・無回答は除く。以下同)

	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
男性のほうが優遇されている	1.4	1.9	-0.5
どちらかといえば男性のほうが優遇されている	9.0	7.7	1.3
平等	57.3	59.7	-2.4
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	4.0	4.0	0.0
女性のほうが優遇されている	0.8	0.9	-0.1
わからない	21.5	19.0	2.5

年代別では、全ての年代で、「平等」が最も多くなっています。「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた割合は、若い年代ほど低くなっています。逆に「女性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」を合わせた割合は、若い年代ほど高くなる傾向にあります。

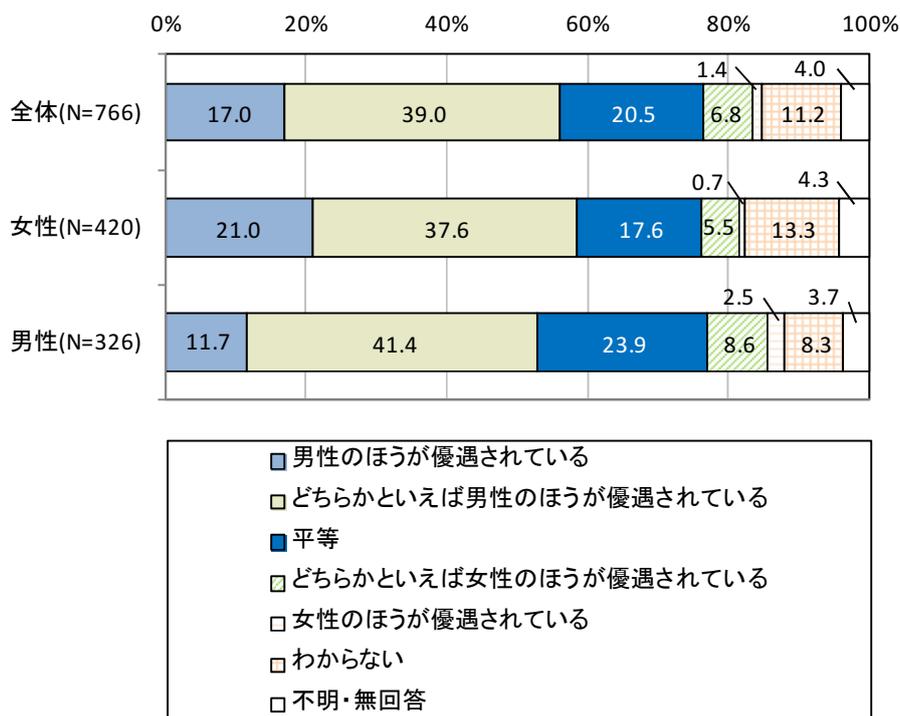


- 男性のほうが優遇されている
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- 女性のほうが優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

(ウ) 職場で

全体では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が39.0%と最も多く、次いで「平等」20.5%、「男性のほうが優遇されている」17.0%などとなっています。

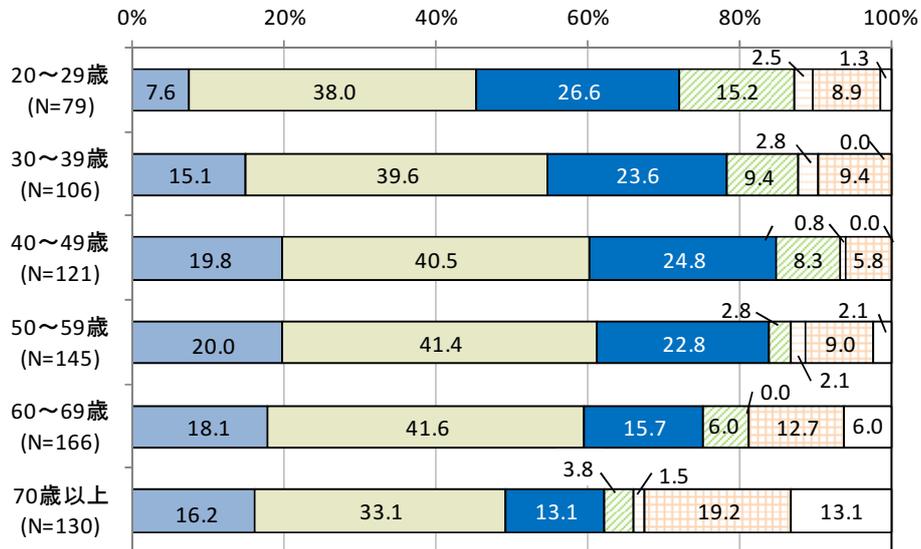
女性では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が37.6%と最も多く、次いで「男性のほうが優遇されている」21.0%、「平等」17.6%などとなっています。男性では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が41.4%と最も多く、次いで「平等」23.9%、「男性のほうが優遇されている」11.7%などとなっています。



前回調査との比較では、全体で「平等」が2.8ポイント増と最も増加しており、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が2.0ポイント減と最も減少しています。「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた割合は1.2ポイント減少し、「女性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」を合わせた割合は1.1ポイント増加しています。

	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
男性のほうが優遇されている	17.0	16.2	0.8
どちらかといえば男性のほうが優遇されている	39.0	41.0	-2.0
平等	20.5	17.7	2.8
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	6.8	5.6	1.2
女性のほうが優遇されている	1.4	1.5	-0.1
わからない	11.2	11.8	-0.6

年代別では、全ての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が、最も多くなっています。「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた割合は、40歳代から60歳代にかけて高くなり、「50～59歳」をピークにグラフが山型を描いています。

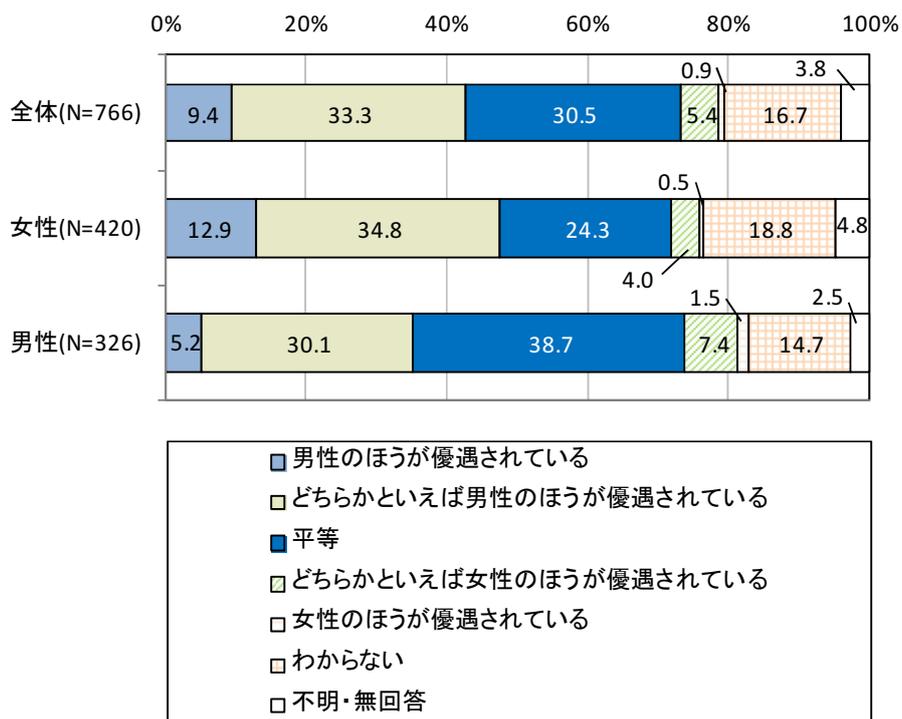


- 男性のほうが優遇されている
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性ほうが優遇されている
- 女性のほうが優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

(エ) 地域で

全体では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 33.3%と最も多く、次いで「平等」30.5%、「わからない」16.7%などとなっています。

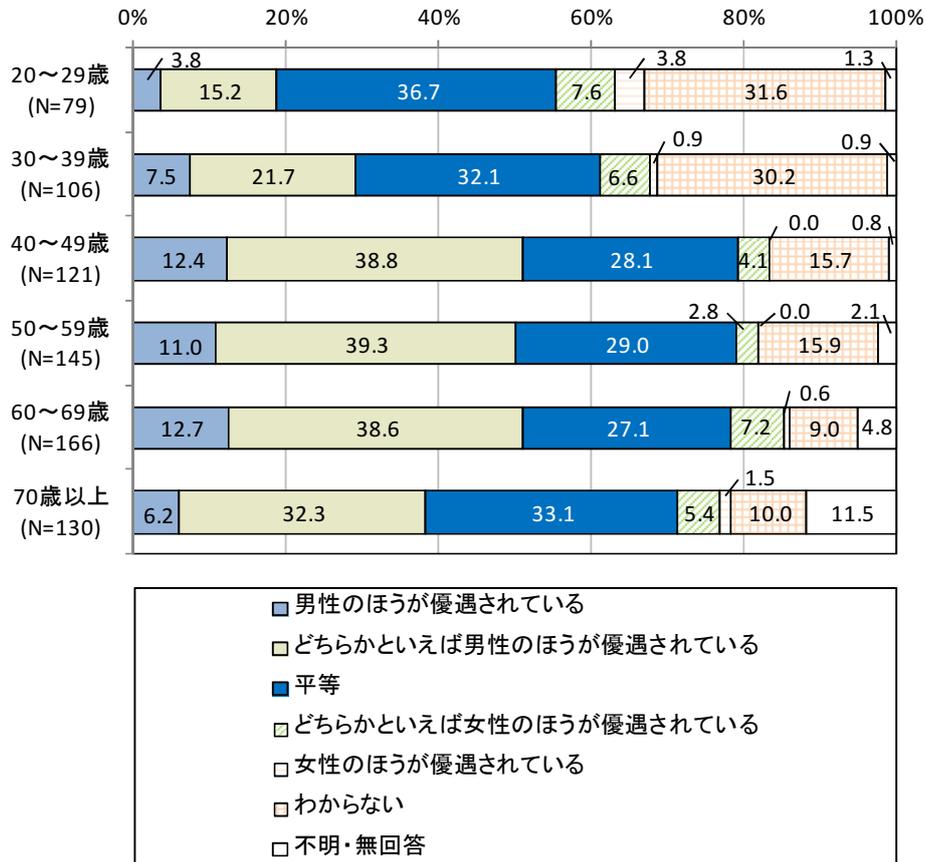
女性では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 34.8%と最も多く、次いで「平等」24.3%、「わからない」18.8%などとなっています。男性では、「平等」が 38.7%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」30.1%、「わからない」14.7%などとなっています。



前回調査との比較では、全体で「わからない」が 5.0 ポイント増と最も増加しており、「平等」が 2.2 ポイント減と最も減少しています。

	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
男性のほうが優遇されている	9.4	9.7	-0.3
どちらかといえば男性のほうが優遇されている	33.3	34.2	-0.9
平等	30.5	32.7	-2.2
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	5.4	5.8	-0.4
女性のほうが優遇されている	0.9	1.4	-0.5
わからない	16.7	11.7	5.0

年代別では、「20～29歳」と「30～39歳」で「平等」が、「40～49歳」から「60～69歳」で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が、「70歳以上」で「平等」が、それぞれ最も多くなっています。「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた割合は、40歳代から60歳代にかけて、突出して高くなっています。

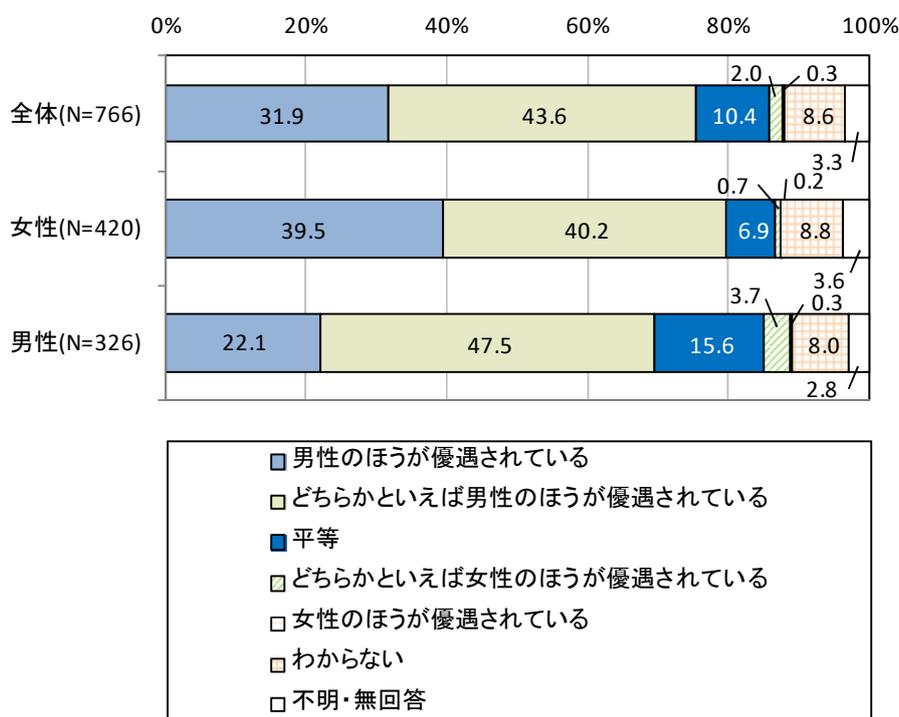


(オ) 政治で

全体では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 43.6%と最も多く、次いで「男性のほうが優遇されている」31.9%、「平等」10.4%などとなっています。

女性では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 40.2%と最も多く、次いで「男性のほうが優遇されている」39.5%、「わからない」8.8%などとなっています。男性では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 47.5%と最も多く、次いで「男性のほうが優遇されている」22.1%、「平等」15.6%などとなっています。

「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば優遇されている」を合わせた割合は「(キ) 習慣やしきたり」とともに、【Q2】の他の項目と比べて突出して多くなっています。

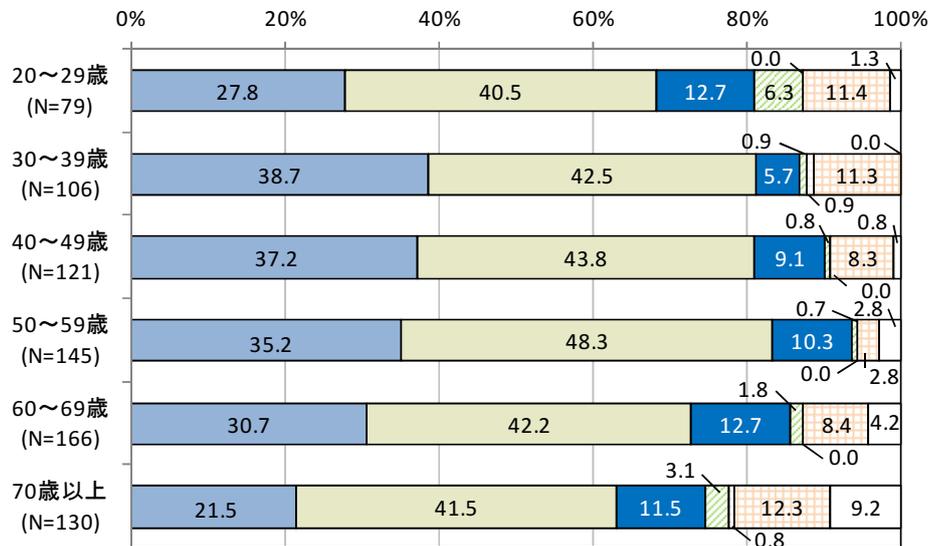


前回調査との比較では、全体で「男性のほうが優遇されている」が 6.6 ポイント増と最も増加し、「平等」が 6.5 ポイント減と最も減少しています。

「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた割合は、10.5 ポイント増加しています。

	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
男性のほうが優遇されている	31.9	25.3	6.6
どちらかといえば男性のほうが優遇されている	43.6	39.7	3.9
平等	10.4	16.9	-6.5
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	2.0	0.9	1.1
女性のほうが優遇されている	0.3	0.2	0.1
わからない	8.6	11.8	-3.2

年代別では、全ての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も多くなっています。「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた割合は、「50～59歳」をピークに、グラフが山型を描いています。



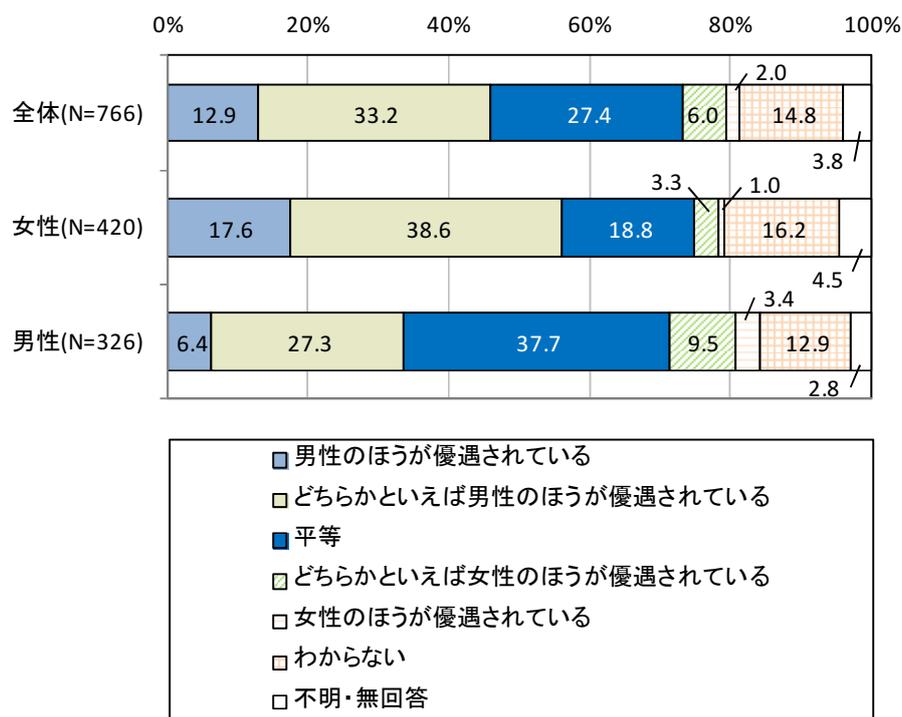
- 男性のほうが優遇されている
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- 女性のほうが優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

(カ) 法律や制度

全体では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 33.2%と最も多く、次いで「平等」27.4%、「わからない」14.8%などとなっています。

女性では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 38.6%と最も多く、次いで「平等」18.8%、「男性のほうが優遇されている」が 17.6%などとなっています。男性では、「平等」が 37.7%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」27.3%、「わからない」12.9%などとなっています。

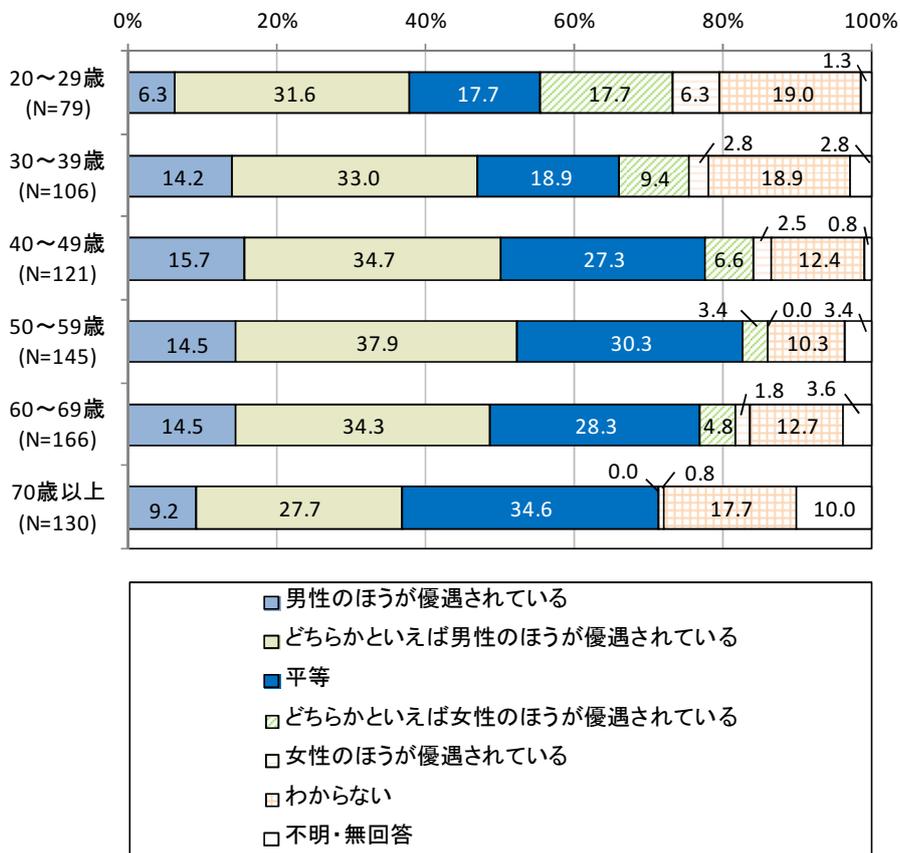
「平等」は女性 18.8%、男性 37.7%と、男性がほぼ倍近く女性を上回っています。



前回調査との比較では、全体で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 5.4ポイント増と最も増加しており、「平等」が 6.1ポイント減と最も減少しています。

	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
男性のほうが優遇されている	12.9	9.0	3.9
どちらかといえば男性のほうが優遇されている	33.2	27.8	5.4
平等	27.4	33.5	-6.1
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	6.0	6.4	-0.4
女性のほうが優遇されている	2.0	1.0	1.0
わからない	14.8	16.9	-2.1

年代別では、「20～29歳」から「60～69歳」までで「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が、「70歳以上」で「平等」が、それぞれ最も多くなっています。「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた割合は、「50～59歳」をピークに、グラフが山型を描いています。

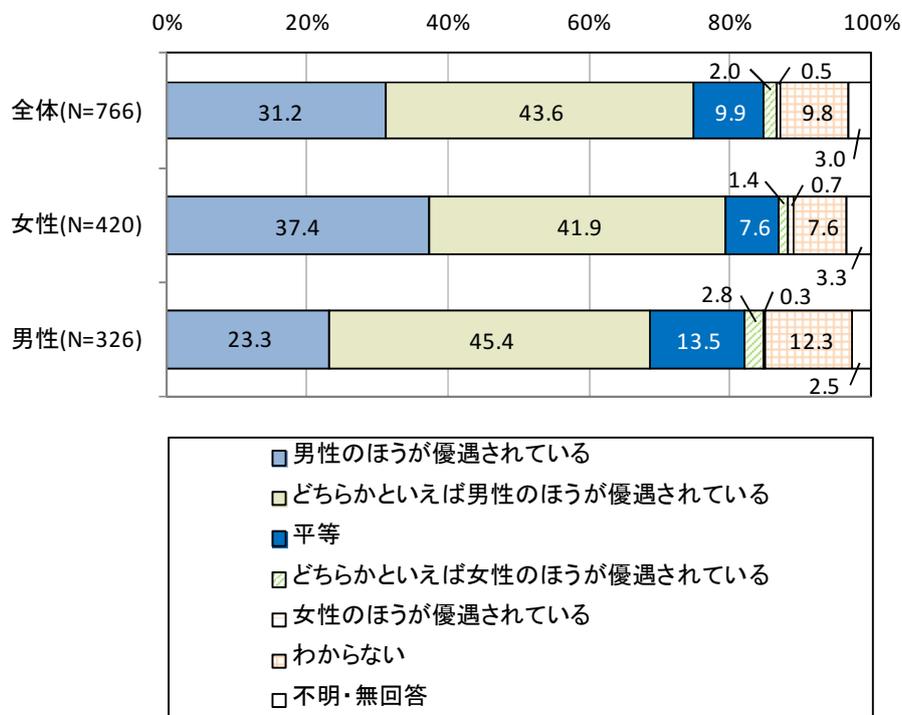


(キ) 習慣やしきたり

全体では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 43.6%と最も多く、次いで「男性のほうが優遇されている」31.2%、「平等」9.9%などとなっています。

女性では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 41.9%と最も多く、次いで「男性のほうが優遇されている」37.4%、「平等」と「わからない」が、それぞれ7.6%などとなっています。男性では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 45.4%と最も多く、次いで「男性のほうが優遇されている」23.3%、「平等」13.5%などとなっています。

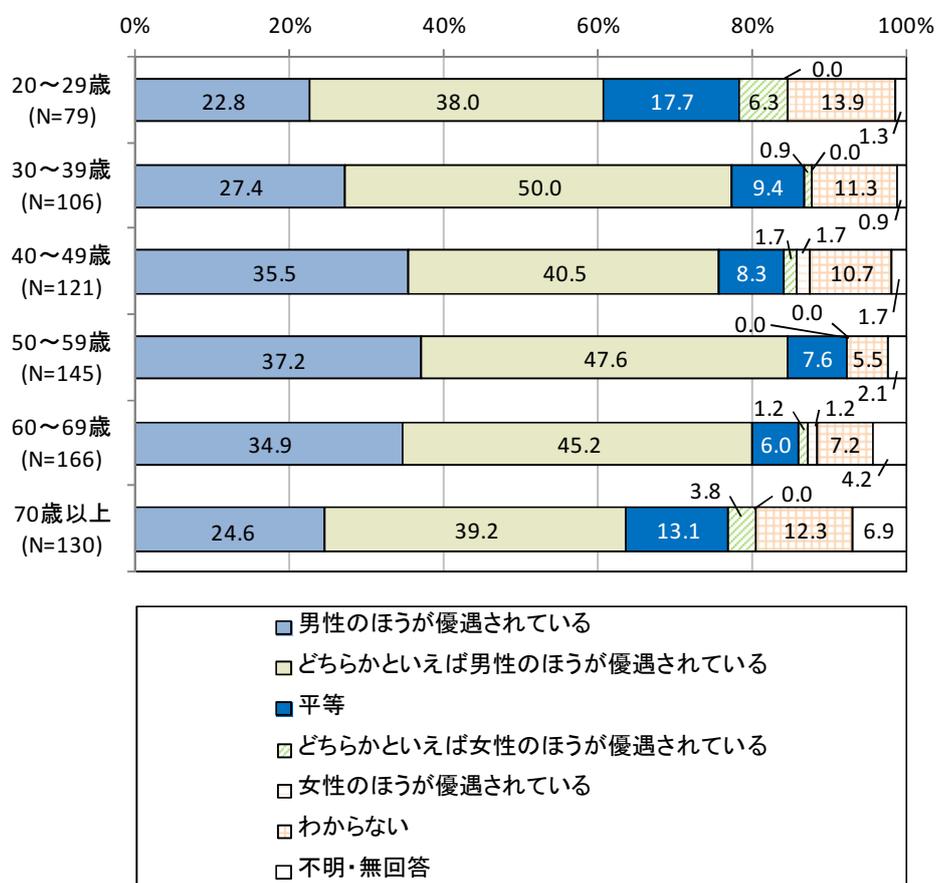
「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた割合は、「(オ) 政治で」とともに、【Q2】の他の項目に比べて突出して多くなっています。特に女性では79.3%と、8割近くに達しています。



前回調査との比較では、全体で「男性のほうが優遇されている」が 8.4 ポイント増と最も増加し、「平等」が 2.7 ポイント減と最も減少しています。

	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
男性のほうが優遇されている	31.2	22.8	8.4
どちらかといえば男性のほうが優遇されている	43.6	45.8	-2.2
平等	9.9	12.6	-2.7
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	2.0	3.0	-1.0
女性のほうが優遇されている	0.5	0.5	0.0
わからない	9.8	10.3	-0.5

年代別では、全ての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も多くなっています。「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた割合は、「20～29歳」と「70歳以上」で低くなっています。



— 【Q2】(ア)～(キ)のまとめ —

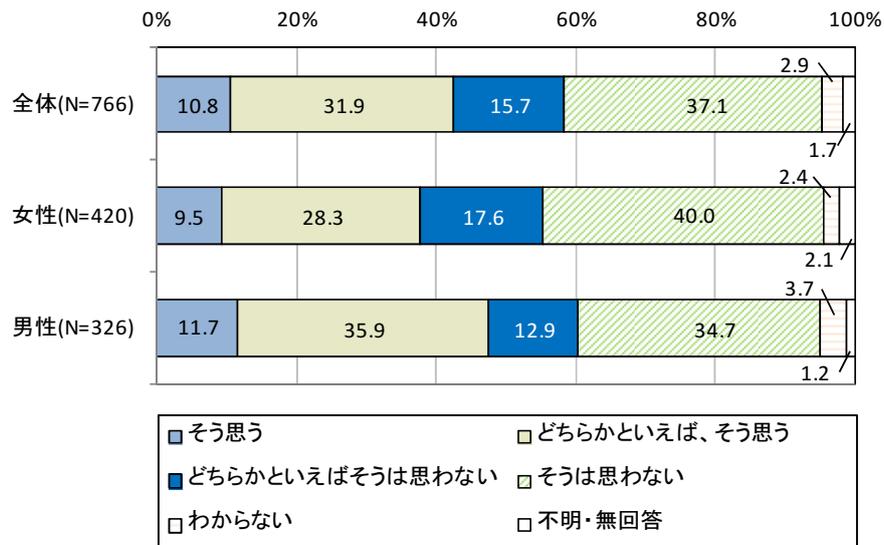
- ・ 「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた「男性優遇論」と、「女性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた「女性優遇論」を比較すると、全体では(ア)～(キ)すべての項目で、「男性優遇論」が上回っています。
- ・ 特に「(オ) 政治で」と「(キ) 習慣やしきたり」で、「男性優遇論」が全体でそれぞれ75.5%と74.8%と、突出して多くなっています。
- ・ 「男性優遇論」は(ア)～(キ)すべての項目で、女性が男性を上回っています。
- ・ 性別・年代を問わず、「(イ) 学校で」は、「平等」が突出して多くなっています。

【Q3】 次の意見について、あなたはどのように思いますか。(○はそれぞれ1つだけ)

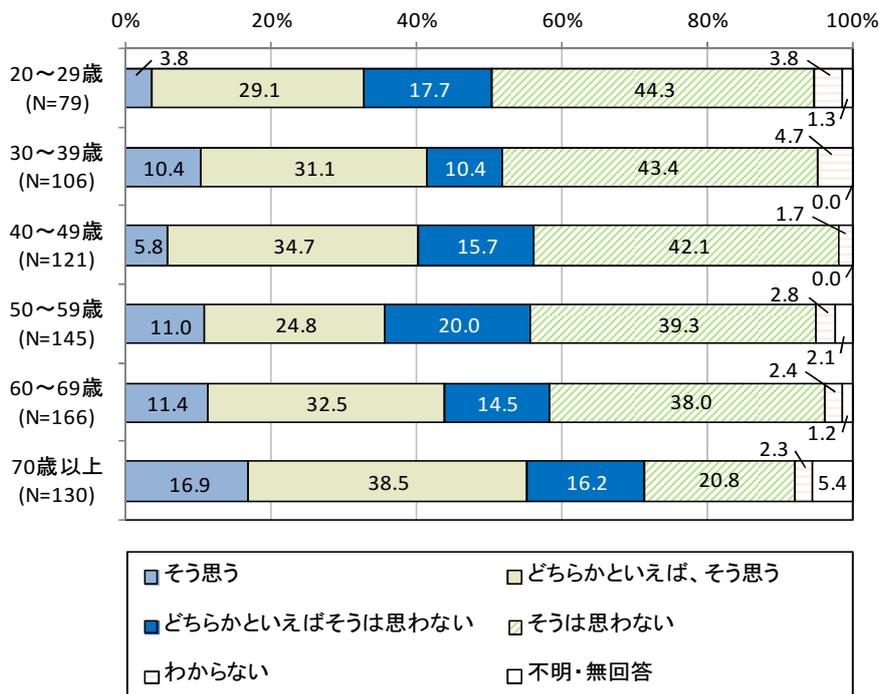
(ア) 自分の家庭の理想は「夫が外で働き、妻が家を守る」ことである

全体では、「そうは思わない」が37.1%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」31.9%、「どちらかといえば、そうは思わない」15.7%などとなっています。

女性では、「そうは思わない」が40.0%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」28.3%、「どちらかといえばそうは思わない」17.6%などとなっています。男性では、「どちらかといえば、そう思う」が35.9%と最も多く、次いで「そうは思わない」34.7%、「どちらかといえば、そうは思わない」12.9%などとなっています。



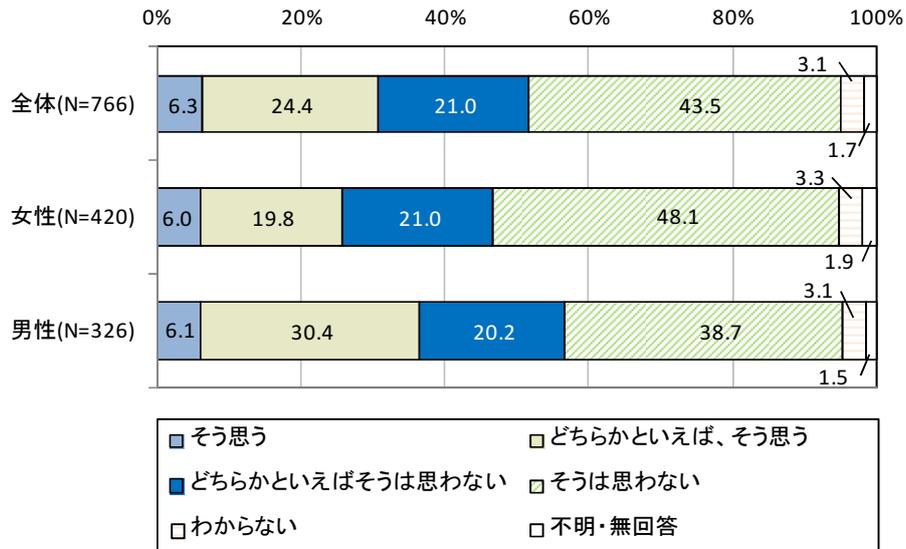
年代別では、「20～29歳」から「60～69歳」までで「そうは思わない」が、「70歳以上」で「どちらかといえば、そう思う」が最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合は、年齢が上がるほど高くなる傾向にありますが、「50～59歳」でいったん、低くなっています。



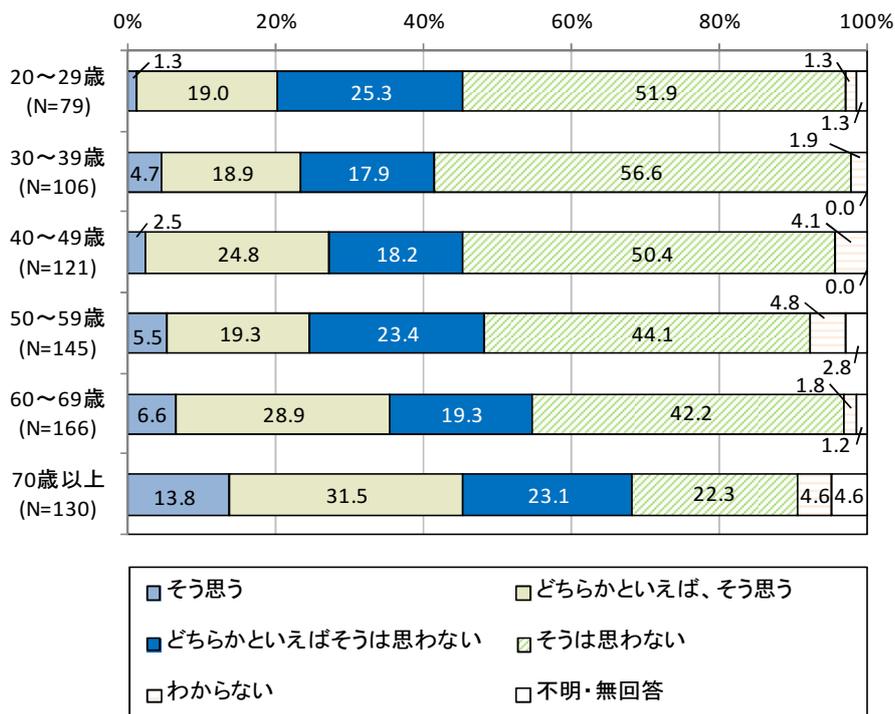
(イ) 自分の家庭にかぎらず、一般に「夫が外で働き、妻が家を守るべき」だと思う

全体では、「そうは思わない」が43.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」24.4%、「どちらかといえばそうは思わない」21.0%などとなっています。

女性では、「そうは思わない」が48.1%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」19.8%などとなっています。男性では、「そうは思わない」が38.7%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」30.4%、「どちらかといえばそうは思わない」20.2%などとなっています。



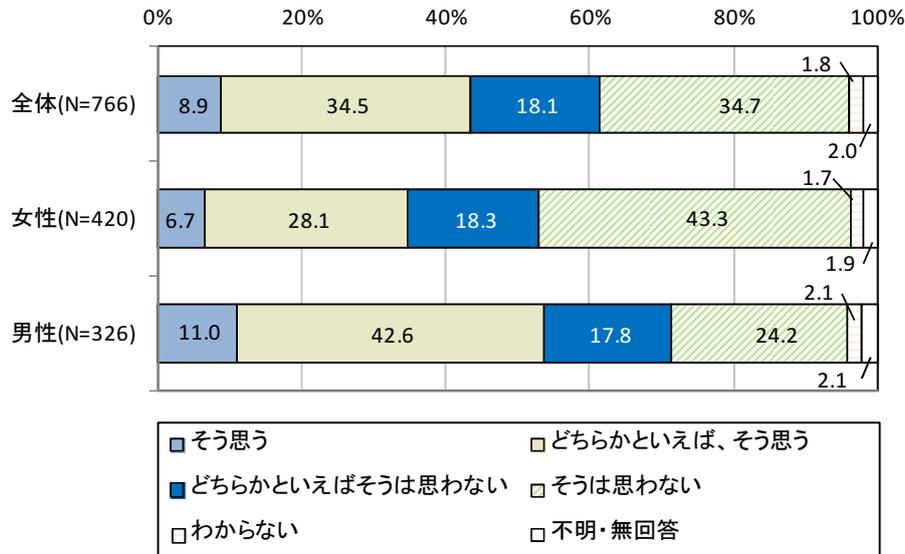
年代別では、「20～29歳」から「60～69歳」までで「そうは思わない」が、「70歳以上」で「どちらかといえば、そう思う」が、それぞれ最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合は、年齢が上がるほど高くなる傾向にありますが、「50～59歳」でいったん、低くなっています。



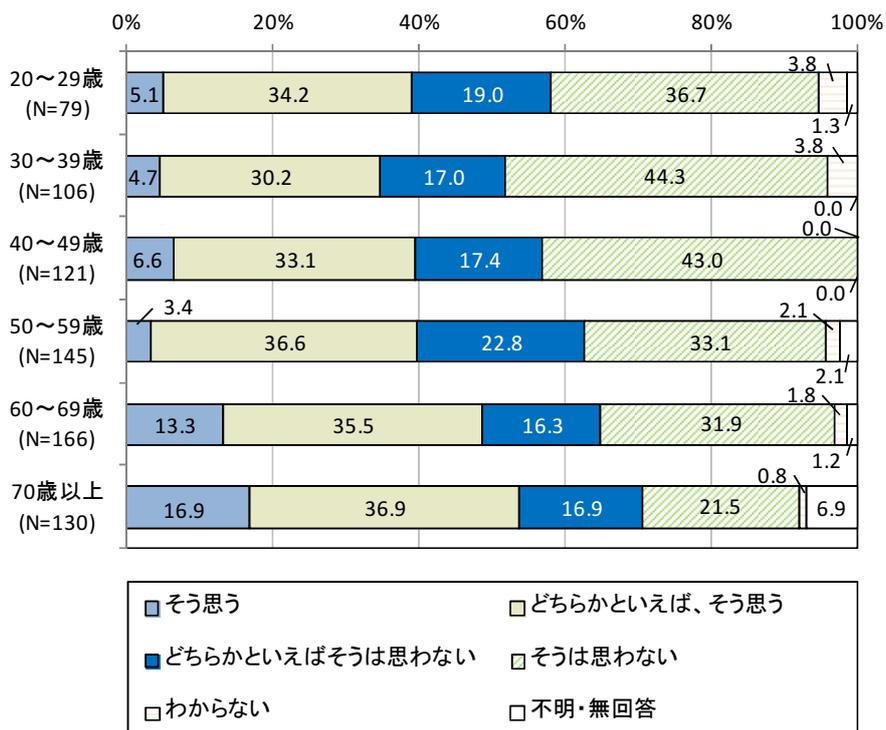
(ウ) 家事や子育ては、女性が行ったほうがよい

全体では、「そうは思わない」が34.7%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」34.5%、「どちらかといえばそうは思わない」18.1%などとなっています。

女性では、「そうは思わない」が43.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」28.1%、「どちらかといえばそうは思わない」18.3%などとなっています。男性では、「どちらかといえば、そう思う」が42.6%と最も多く、「そう思う」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた割合は、53.6%と半数を超えています。



年代別では、「20～29歳」から「40～49歳」までで「そうは思わない」が、「50～59歳」から「70歳以上」までで「どちらかといえば、そう思う」が、それぞれ最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合は、年齢が上がるほど高くなる傾向にあります。が、「30～39歳」でいったん、低くなっています。

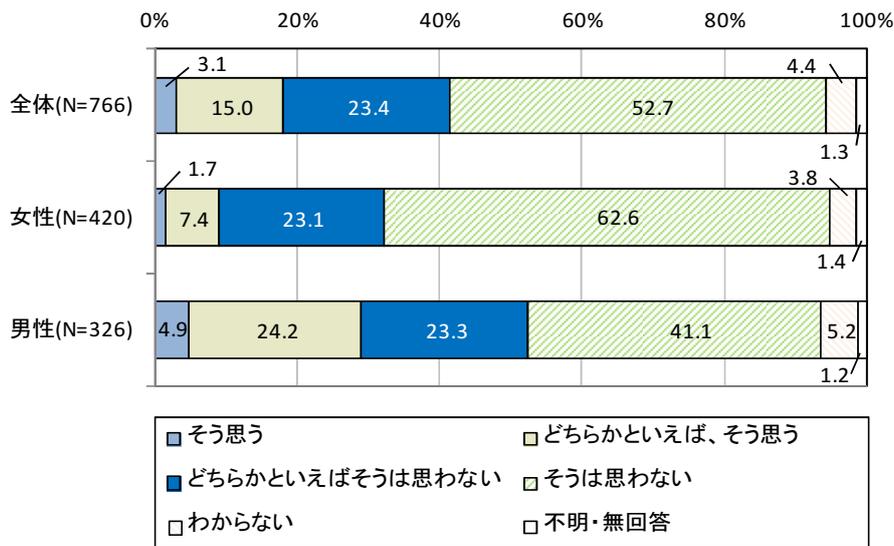


(エ) 介護は、女性が行ったほうがよい

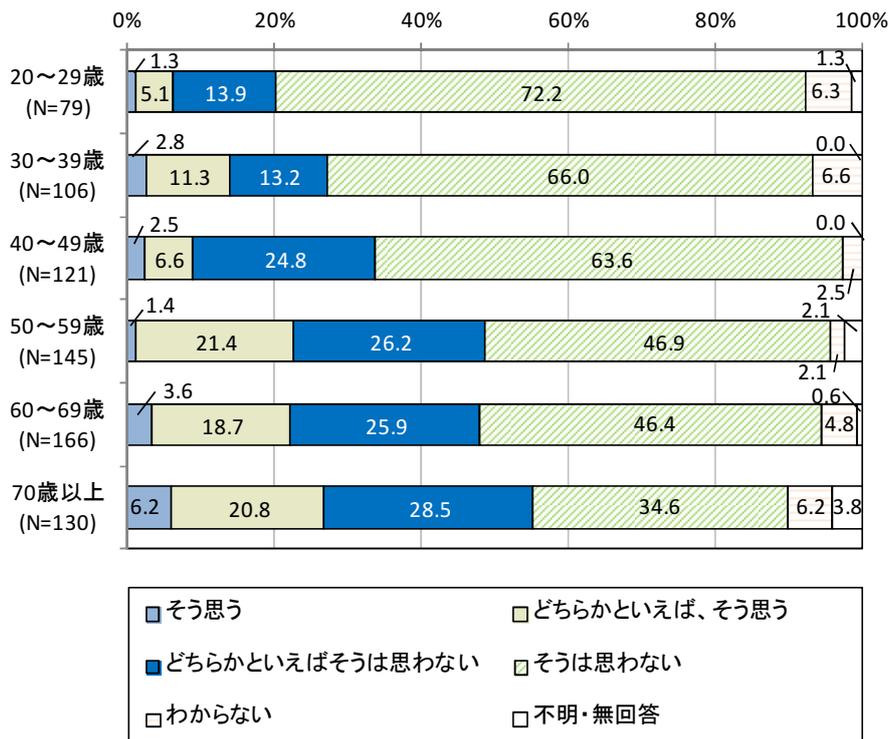
全体では、「そうは思わない」が52.7%と最も多く、次いで「どちらかといえばそうは思わない」23.4%、「どちらかといえば、そう思う」15.0%などとなっています。

女性では、「そうは思わない」が62.6%と最も多く、次いで「どちらかといえばそうは思わない」23.1%、「どちらかといえば、そう思う」7.4%などとなっています。男性では、「そうは思わない」が41.1%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」24.2%、「どちらかといえばそうは思わない」23.3%などとなっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合は、【Q3】の他の項目に比べて低く、男女差が顕著となっています。



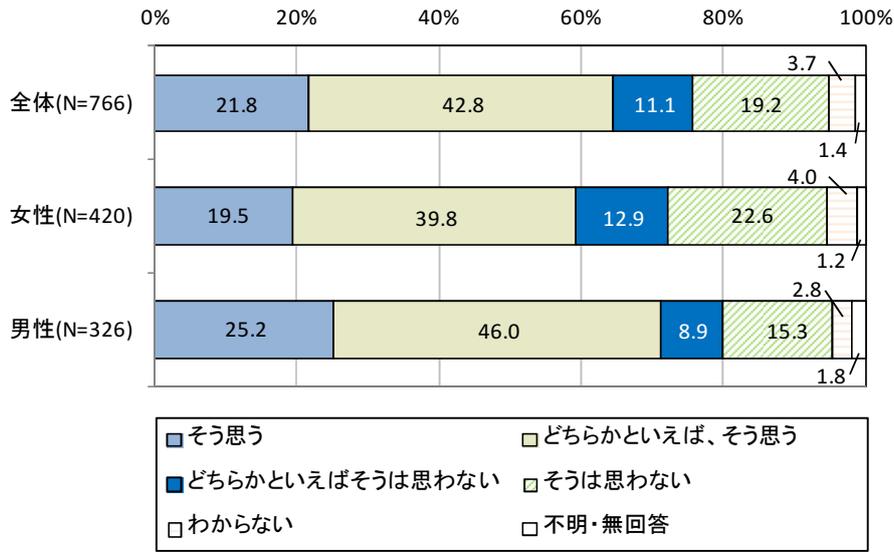
年代別では、全ての年代で「そうは思わない」が最も多くなっています。



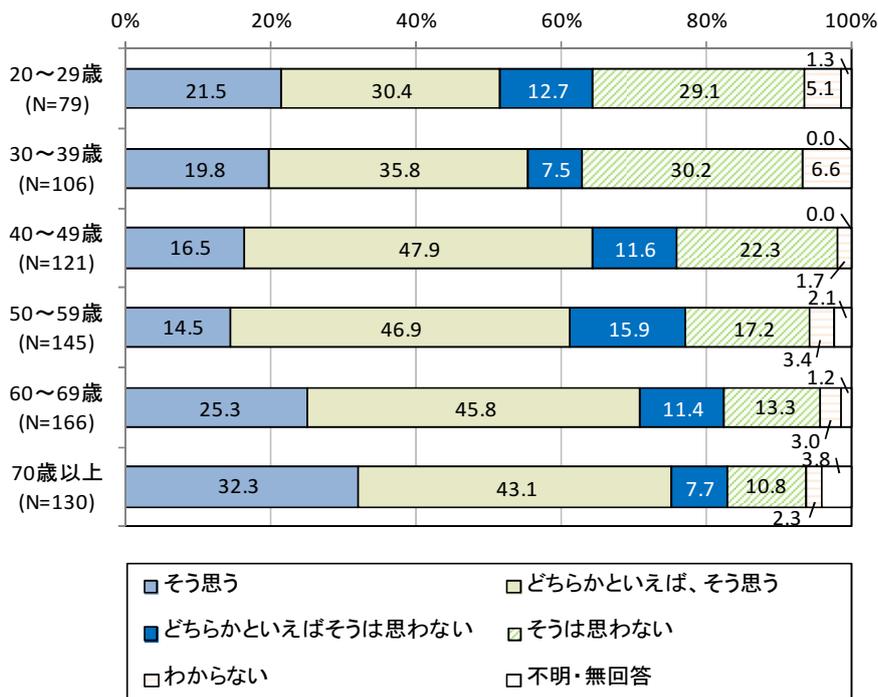
(オ) こどもが小さいうちは、母親は外で働かないほうがよい

全体では、「どちらかといえば、そう思う」が42.8%と最も多く、次いで「そう思う」21.8%、「そうは思わない」19.2%などとなっています。

女性では、「どちらかといえば、そう思う」が39.8%と最も多く、次いで「そうは思わない」22.6%、「そう思う」19.5%などとなっています。男性では、「どちらかといえば、そう思う」が46.0%と最も多く、次いで「そう思う」25.2%、「そうは思わない」15.3%などとなっています。



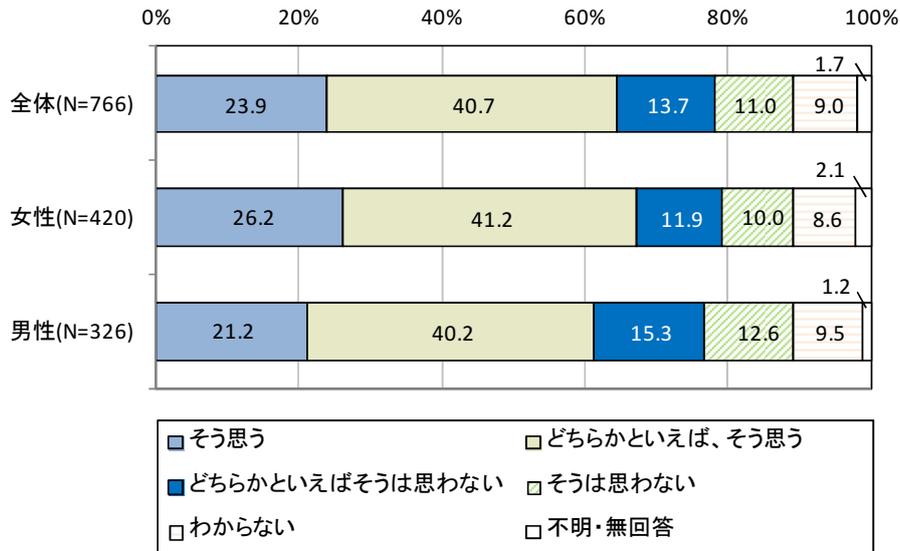
年代別では、全ての年代で「どちらかといえば、そう思う」が最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合は、年齢が上がるほど高くなる傾向にありますが、「50～59歳」でいったん、低くなっています。



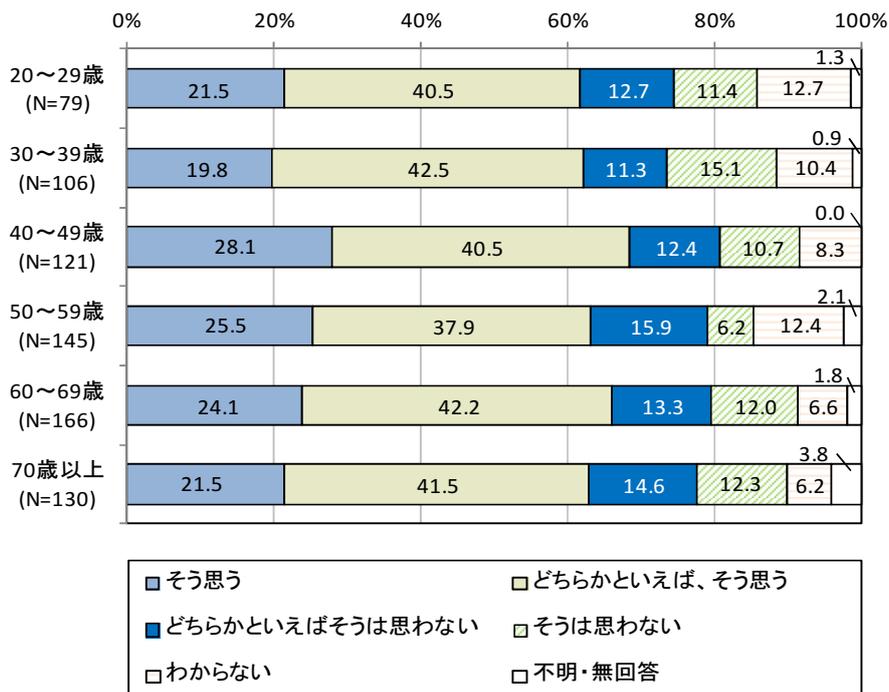
(カ) こどもがいるかいないかにかかわらず、女性も外で働いたほうがよい

全体では、「どちらかといえば、そう思う」が40.7%と最も多く、次いで「そう思う」23.9%、「どちらかといえばそうは思わない」13.7%などとなっています。

女性では、「どちらかといえば、そう思う」が41.2%と最も多く、次いで「そう思う」26.2%、「どちらかといえばそうは思わない」11.9%などとなっています。男性では、「どちらかといえば、そう思う」が40.2%と最も多く、次いで「そう思う」21.2%、「どちらかといえばそうは思わない」15.3%などとなっています。



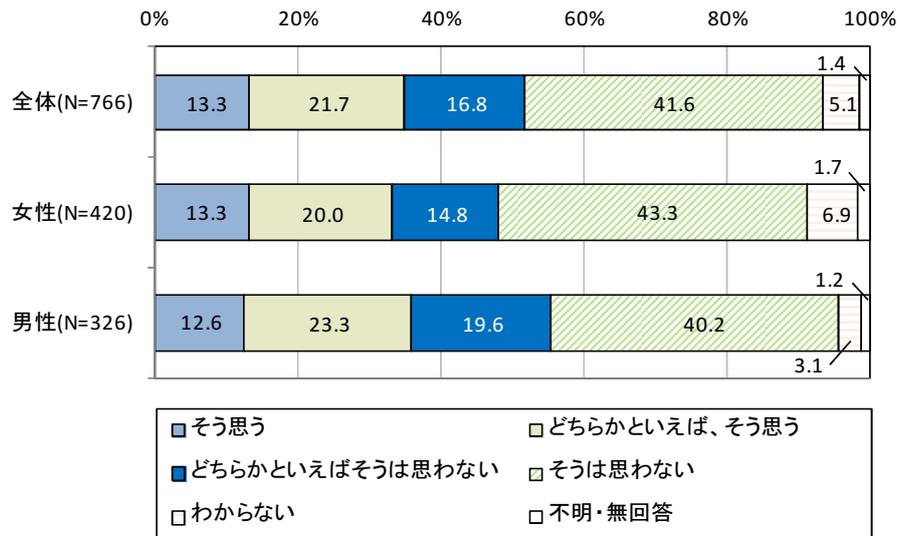
年代別では、全ての年代で「どちらかといえば、そう思う」が最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合は、各年代で比較的横並びの傾向にありますが、「40～49歳」と「60～69歳」でやや高くなっています。



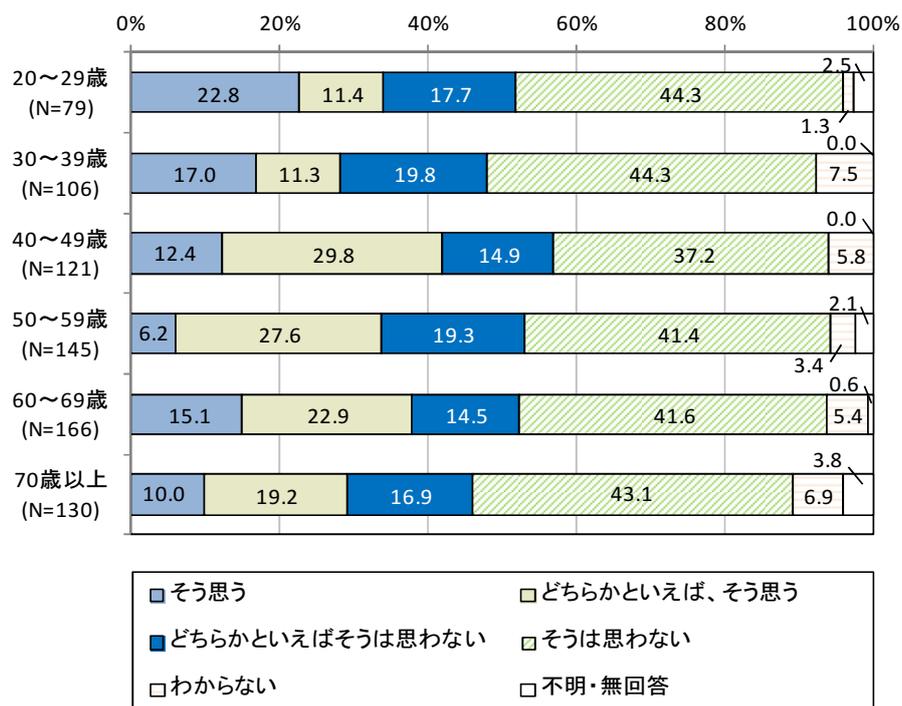
(キ) 仕事では、長時間の残業や休日出勤をしたほうが評価されると思う

全体では、「そうは思わない」が41.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」が21.7%、「どちらかといえばそうは思わない」16.8%などとなっています。

女性では、「そうは思わない」が43.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」が20.0%、「どちらかといえばそうは思わない」14.8%などとなっています。男性では、「そうは思わない」が40.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」が23.3%、「どちらかといえばそうは思わない」19.6%などとなっています。



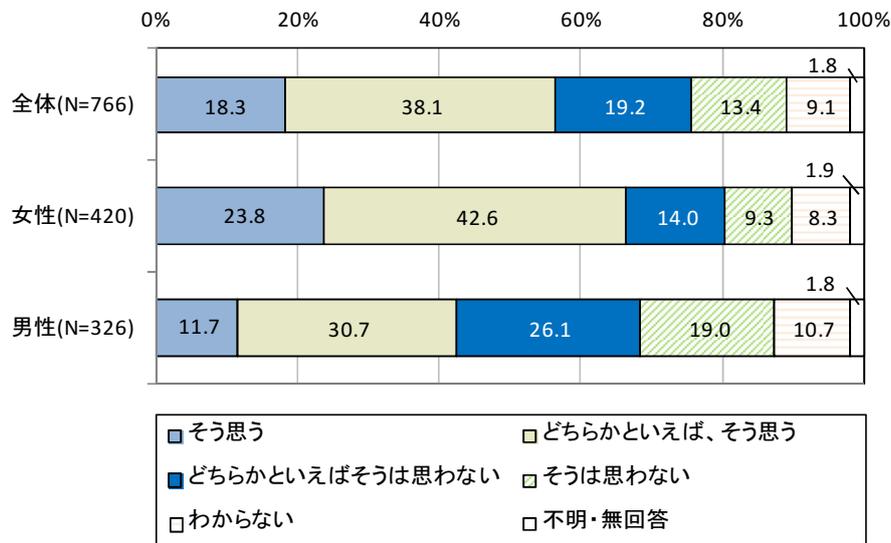
年代別では、全ての年代で「そうは思わない」が最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合は、年代によってばらつきがあります。



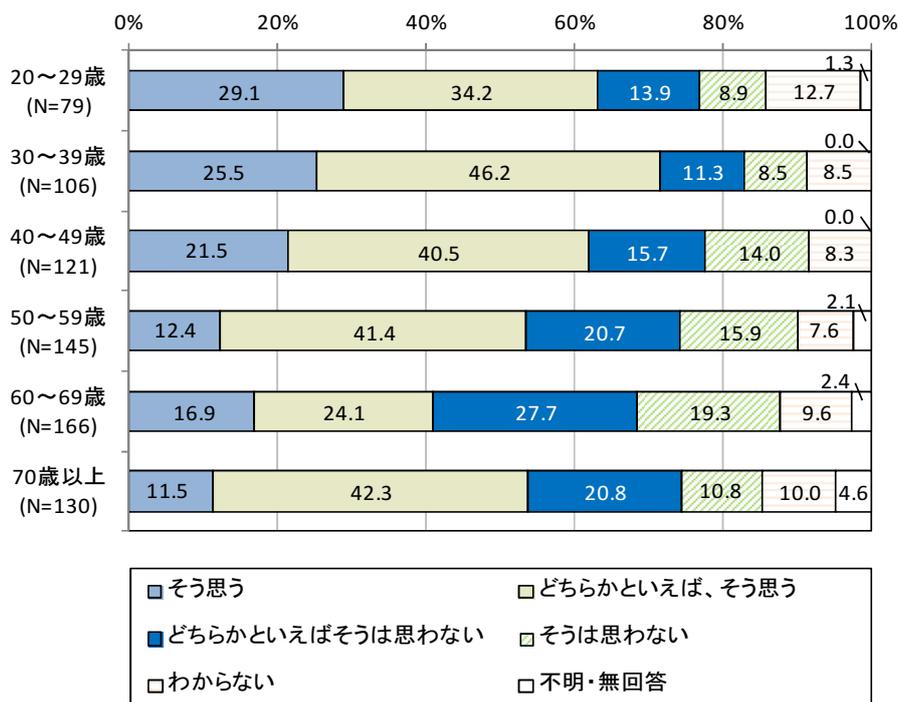
(ク) 仕事よりも家事や子育てを優先したい

全体では、「どちらかといえば、そう思う」が38.1%と最も多く、次いで「どちらかといえばそうは思わない」19.2%、「そう思う」18.3%などとなっています。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、女性が66.4%、男性が42.4%でした。一方、「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」を合わせた割合は、女性が23.3%、男性が45.1%と、男女差が顕著となっています。



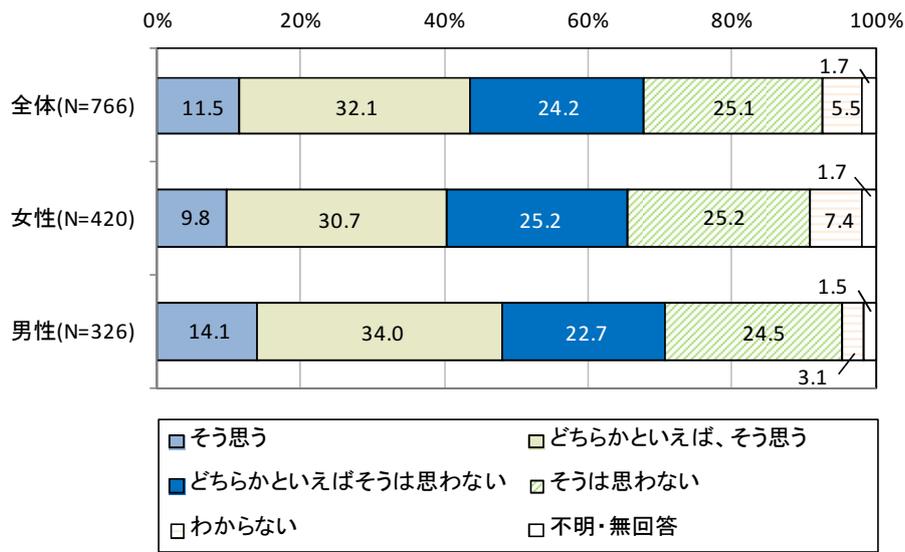
年代別では、「60～69歳」を除く全ての年代で、「どちらかといえば、そう思う」が最も多く、「60～69歳」で「どちらかといえばそうは思わない」が、最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合は、「30～39歳」が最も高く、その後減少傾向にあります。また、「70歳以上」で再び増加しています。



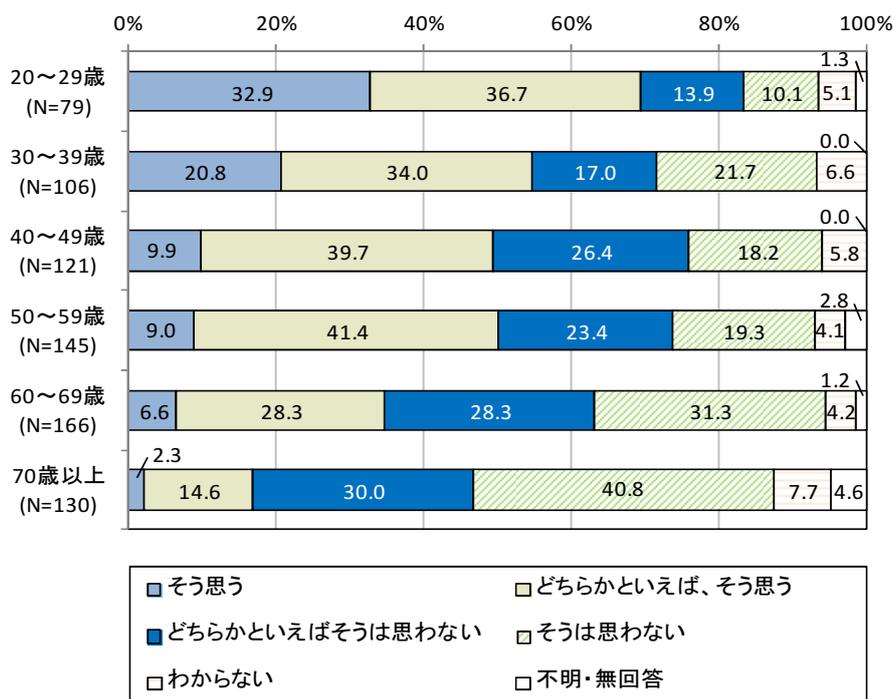
(ケ) 仕事よりも自分の自由時間を優先したい

全体では、「どちらかといえば、そう思う」が32.1%と最も多く、次いで「そうは思わない」25.1%、「どちらかといえばそうは思わない」24.2%などとなっています。

女性では、「どちらかといえば、そう思う」が30.7%と最も多く、次いで「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」が25.2%などとなっています。男性では、「どちらかといえば、そう思う」が34.0%と最も多く、次いで「そうは思わない」24.5%、「どちらかといえばそうは思わない」22.7%などとなっています。



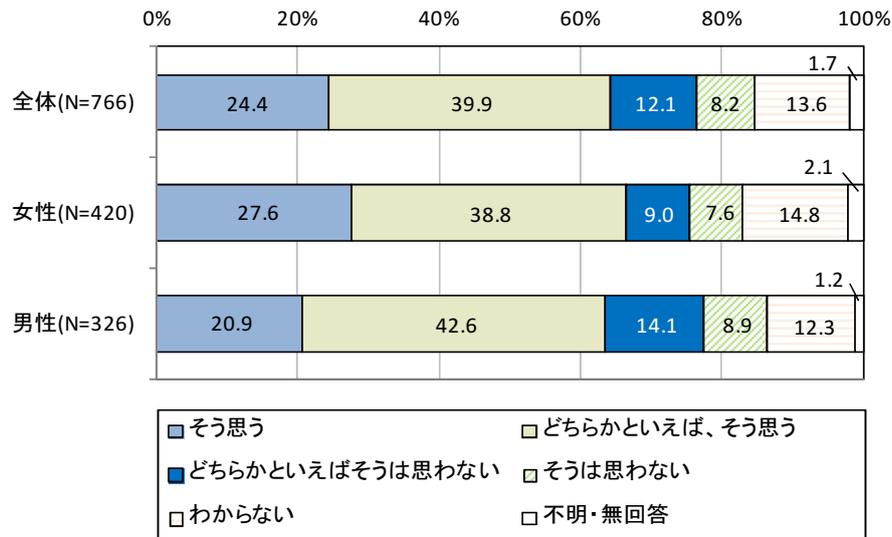
年代別では、「20～29歳」から「50～59歳」までで「どちらかといえば、そう思う」が、「60～69歳」と「70歳以上」で「そうは思わない」が、それぞれ最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合は、「20～29歳」で69.6%と7割近くに達し、年代が上がるほど低くなる傾向にあります。



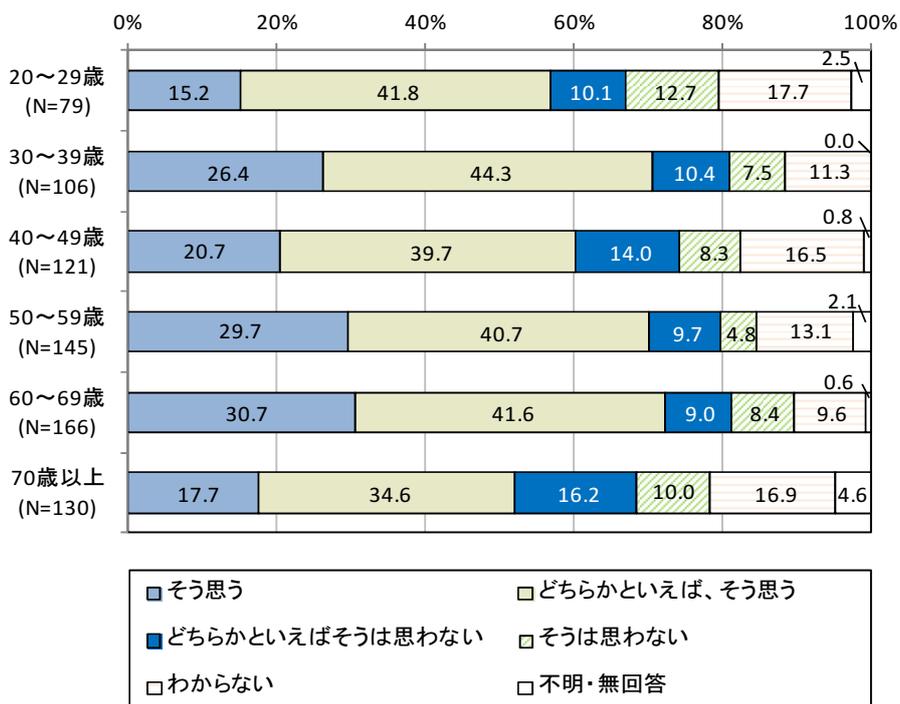
(コ) 女性をもっと企業の管理職、団体の役職者などに登用すべきだ

全体では、「どちらかといえば、そう思う」が39.9%と最も多く、次いで「そう思う」24.4%、「わからない」13.6%などとなっています。

女性では、「どちらかといえば、そう思う」が38.8%と最も多く、次いで「そう思う」27.6%、「わからない」14.8%などとなっています。男性では、「どちらかといえば、そう思う」が42.6%と最も多く、次いで「そう思う」20.9%、「どちらかといえばそうは思わない」14.1%などとなっています。



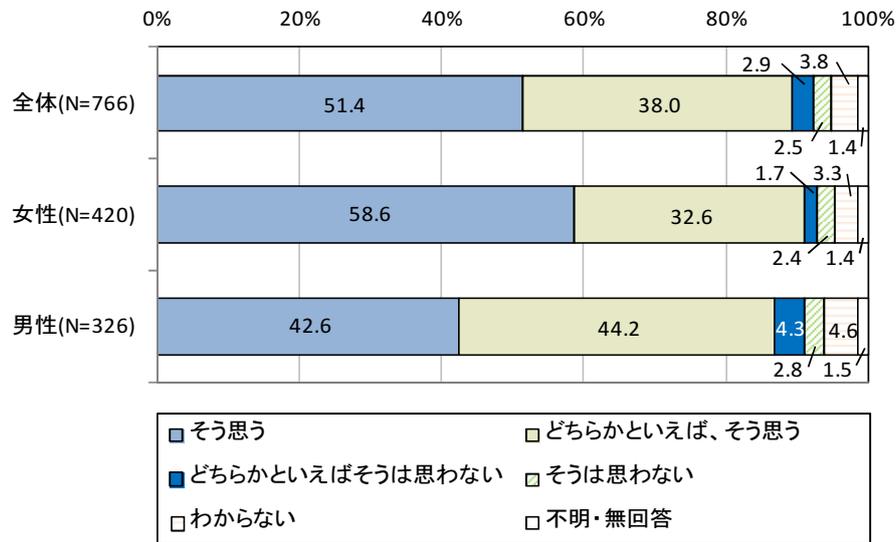
年代別では、全ての年代で「どちらかといえば、そう思う」が最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合は、年代によってばらつきがありますが、「70歳以上」で最も低くなっています。



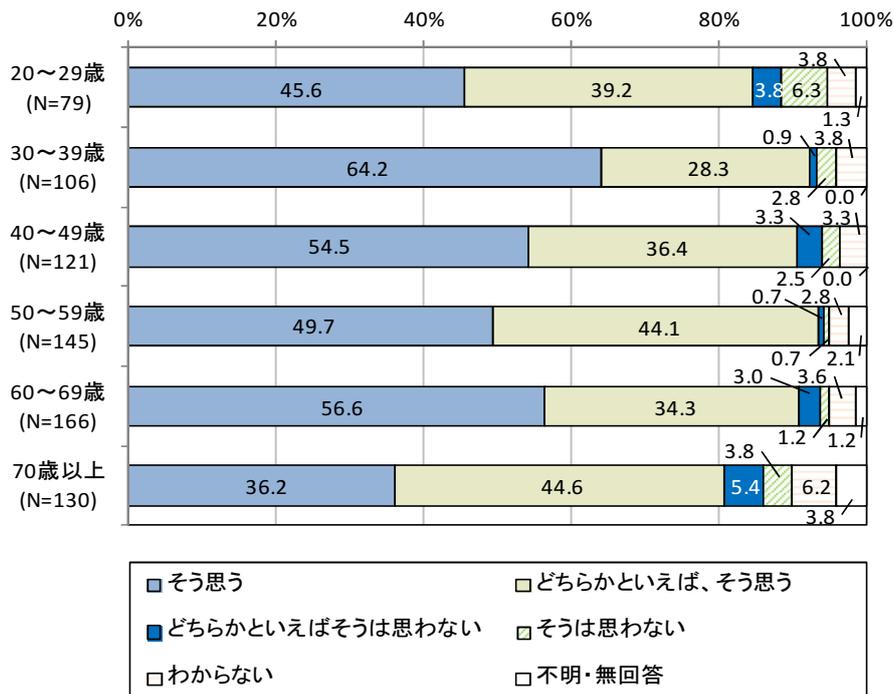
(サ) 企業は、女性が仕事を続けられるような就業環境を整備すべきだ

全体では、「そう思う」が 51.4%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」38.0%、「わからない」3.8%などとなっています。

女性では、「そう思う」が 58.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」32.6%、「わからない」3.3%などとなっています。男性では、「どちらかといえば、そう思う」が 44.2%と最も多く、次いで「そう思う」42.6%、「わからない」4.6%などとなっています。



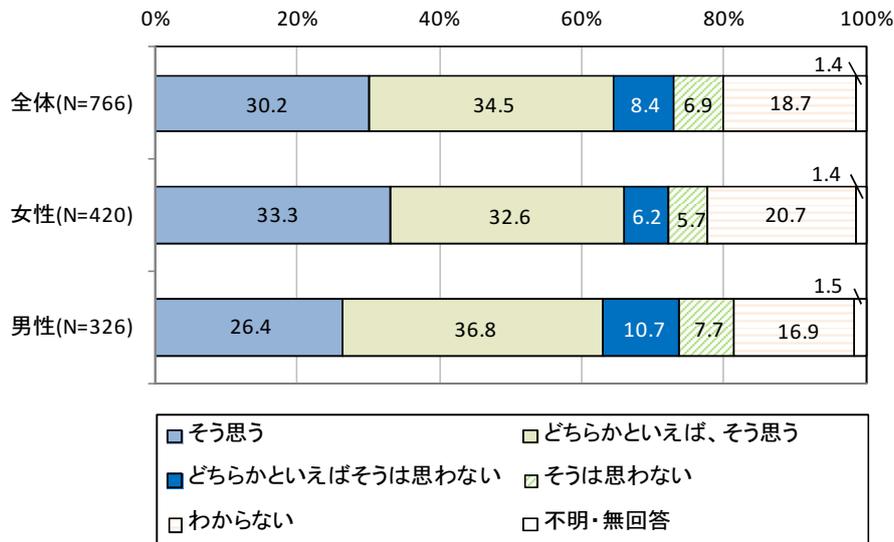
年代別では、「20～29歳」から「60～69歳」までで「そう思う」が、「70歳以上」では「どちらかといえば、そう思う」が、それぞれ最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合は、【Q3】の他の設問と比べて、高めとなっています。



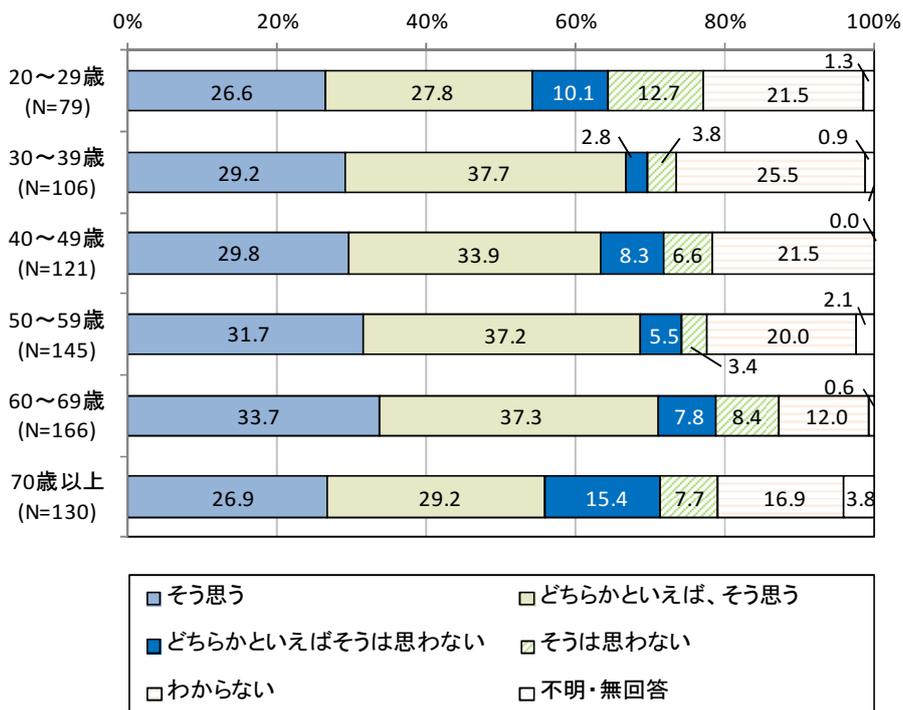
(シ) 女性の活躍が進めば、地域の経済社会がいまよりも活性化する

全体では、「どちらかといえば、そう思う」が34.5%と最も多く、次いで「そう思う」30.2%、「わからない」18.7%などとなっています。

女性では、「そう思う」が33.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」32.6%、「わからない」20.7%などとなっています。男性では、「どちらかといえば、そう思う」が36.8%と最も多く、次いで「そう思う」26.4%、「わからない」16.9%などとなっています。



年代別では、全ての年代で「どちらかといえば、そう思う」が最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合は、「20～29歳」と「70歳以上」で、やや低めとなっています。



— 【Q3】(ア)～(シ)のまとめ —

- ・ 男女の役割分担に関する(ア)～(オ)の回答をみると、「そう思う派」(「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた、男女の役割の固定化に肯定的な意見の割合)は、(ア)～(オ)すべてで男性が女性を上回っています。ただし女性にも、「そう思う派」が一定数、存在しています。
- ・ (ア)～(オ)の「そう思う派」は、60歳代以上で増える傾向にあります。
- ・ 「(ア)自分の家庭の理想は『夫が外で働き、妻が家を守る』ことである」と「(イ)自分の家庭にかぎらず、一般に『夫が外で働き、妻が家を守るべき』だと思ふ」を比較すると、「そう思う派」は、男女とも(ア)が(イ)を上回っています。一般論としては男女共同参画に理解があるが、現実には実践できていない、またはするつもりがないことの反映と思われる。
- ・ 「(ウ)家事や子育ては、女性が行なったほうがよい」と「(エ)介護は、女性が行なったほうがよい」を比較すると、(ウ)のほうが、「そう思う派」が男女とも顕著に多くなっています。力仕事も必要な介護に比べ、家事や子育ては女性がするものという意識が高いことがうかがえます。また(ウ)では、「どちらかといえば、そう思う」と「そうは思わない」が僅差となっています。
- ・ (エ)は、Q3の他の項目と比較して、「そう思う派」が顕著に少なく、「そうは思わない派」(「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」を合わせた、否定的な意見の割合)が多くなっています。
- ・ (ウ)(エ)とも、男女の差が大きくなっています。男性では「そう思う派」が女性より多く、「そうは思わない派」が少なくなっています。
- ・ 「(ク)仕事よりも家事や子育てを優先したい」の回答をみると、男女の差が大きくなっています。女性は「そう思う派」66.4%、「そうは思わない派」23.3%と「そう思う派」が大きく上回っていますが、男性では「そう思う派」42.4%、「そうは思わない派」40.6%と、その差はわずかです。
- ・ 「(オ)こどもが小さいうちは、母親は外で働かないほうがよい」の「そう思う派」が64.6%であるのに対し、「(カ)こどもがいるかいないかにかかわらず、女性も外で働いたほうがよい」の「そう思う派」も64.6%あるのは、一見、矛盾しているようにも思えます。「理想としては働いたほうがよいが、現実をみると働かないほうがよい」と判断する理由があるものと思われる。
- ・ 「(コ)女性をもっと企業の管理職、団体の役職者などに登用すべきだ」で、男性の「そう思う派」が63.5%と、女性よりは少ないものの6割を超えていて、女性の登用に一定の理解があることがわかります。
- ・ 「(サ)企業は、女性が仕事を続けられるような就業環境を整備すべきだ」で「そう思う派」が男女ともに突出して多くなっています。現状に対する不満の表れと思われる。

【Q4 - ①】家庭の仕事（ア）～（サ）について、だれがするのが理想だと思いますか。

全体では、「食事のしたく」「食事の後かたづけ」「そうじ」「せんたく」「こどもの世話」「自治会・町内会活動」「高齢者や病人の世話」の各項目で「家族全員で分担」が、「家計の管理」「日常の買い物」「育児」の各項目で「妻（女性の同居人）」が、「生活費をかせぐ」で「夫（男性の同居人）」が最も多くなっています。

全体(N=766)

(%)

	ア 食事のしたく	イ 食事の後かたづけ	ウ そうじ	エ せんたく	オ 家計の管理	カ 日常の買いのもの	キ 生活費をかせぐ	ク 育児（乳幼児の世話）	ケ こどもの世話	コ 自治会・町内会活動	サ 高齢者や病人の世話
妻(女性の同居人)	40.1	16.3	14.4	37.2	59.4	46.1	1.2	46.2	25.7	2.0	9.0
夫(男性の同居人)	0.4	5.0	3.4	1.2	12.4	1.0	55.5	0.5	5.7	36.0	1.2
子ども	0.0	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	1.2
家族全員で分担	53.3	73.5	77.5	55.2	15.7	44.1	32.5	44.0	56.5	50.1	80.2
父	0.3	0.1	0.1	0.0	0.8	0.1	3.0	0.0	0.4	2.7	0.3
母	2.0	0.8	0.7	2.0	3.9	2.5	0.1	2.9	2.0	0.5	1.3
そのほか	1.6	1.3	1.3	1.8	4.4	3.7	4.4	3.0	6.0	5.2	4.3
不明・無回答	2.5	2.5	2.3	2.6	3.4	2.5	3.3	3.3	3.5	3.1	2.6

※薄赤色の塗りつぶしは、各項目の中で最も回答数が多いもの

女性では、「食事のしたく」「食事の後かたづけ」「そうじ」「せんたく」「こどもの世話」「自治会・町内会活動」「高齢者や病人の世話」の各項目で「家族全員で分担」が、「家計の管理」と「日常の買い物」で「妻（女性の同居人）」が、「生活費をかせぐ」で「夫（男性の同居人）」が、「育児」で「妻（女性の同居人）」と「家族全員で分担」が最も多くなっています。

男性では、「食事のしたく」「せんたく」「家計の管理」「育児」の各項目で「妻（女性の同居人）」が、「食事の後かたづけ」「そうじ」「日常の買い物」「こどもの世話」「自治会・町内会活動」「高齢者や病人の世話」の各項目で「家族全員で分担」が、「生活費をかせぐ」で「夫（男性の同居人）」が最も多くなっています。

		(%)										
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ
		食事のしたく	食事の後かたづけ	そうじ	せんたく	家計の管理	日常の買い物	生活費をかせぐ	育児（乳幼児の世話）	こどもの世話	自治会・町内会活動	高齢者や病人の世話
女性 (N=420)	妻(女性の同居人)	32.9	14.0	12.1	37.4	59.3	46.4	0.7	45.0	26.9	1.4	6.2
	夫(男性の同居人)	0.2	4.8	2.9	1.0	12.1	0.5	52.1	0.2	5.7	34.8	1.0
	子ども	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	家族全員で分担	60.0	76.0	80.0	55.0	14.5	42.6	34.8	45.0	53.8	51.2	83.6
	父	0.0	0.0	0.2	0.0	1.0	0.0	2.9	0.0	0.0	2.4	0.2
	母	2.4	1.0	0.7	1.7	3.8	3.1	0.2	3.1	1.9	0.7	1.0
	そのほか	2.1	1.7	1.7	2.1	5.0	4.8	5.7	2.9	7.1	5.7	4.3
	不明・無回答	2.4	2.4	2.4	2.9	4.3	2.6	3.6	3.8	4.5	3.8	2.9
男性 (N=326)	妻(女性の同居人)	48.8	18.7	16.6	36.5	59.2	45.1	1.5	47.5	23.9	2.5	12.0
	夫(男性の同居人)	0.6	4.9	4.3	1.5	13.5	1.8	59.5	0.9	5.5	37.4	1.5
	子ども	0.0	0.9	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.6	1.5
	家族全員で分担	45.1	71.2	74.8	55.8	16.9	46.6	29.8	42.9	60.7	49.7	76.1
	父	0.6	0.3	0.0	0.0	0.6	0.3	3.4	0.0	0.9	3.4	0.3
	母	1.5	0.6	0.6	2.5	4.0	1.8	0.0	2.8	2.1	0.3	1.8
	そのほか	0.9	0.9	0.9	1.5	3.7	2.1	3.1	3.1	4.3	4.0	4.6
	不明・無回答	2.5	2.5	2.1	2.1	2.1	2.1	2.8	2.5	2.1	2.1	2.1

※薄赤色の塗りつぶしは、各項目の中で最も回答数が多いもの

前回調査との比較では、全体で以下の変化がみられます。

「食事のしたく」……「家族全員で分担」が14.8ポイント増と最も増加し、「妻（女性の同居人）」が6.8ポイント減と最も減少しています。

「食事の後かたづけ」…「家族全員で分担」が14.7ポイント増と最も増加し、「妻（女性の同居人）」が9.3ポイント減と最も減少しています。

「そうじ」……「家族全員で分担」が12.8ポイント増と最も増加し、「妻（女性の同居人）」が6.9ポイント減と最も減少しています。

	食事のしたく			食事の後かたづけ			そうじ		
	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
妻(女性の同居人)	40.1	46.9	-6.8	16.3	25.6	-9.3	14.4	21.3	-6.9
夫(男性の同居人)	0.4	0.3	0.1	5.0	3.3	1.7	3.4	2.1	1.3
子ども	0.0	0.2	-0.2	0.5	0.6	-0.1	0.3	0.3	0.0
家族全員で分担	53.3	38.5	14.8	73.5	58.8	14.7	77.5	64.7	12.8
父	0.3	0.0	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
母	2.0	4.6	-2.6	0.8	2.7	-1.9	0.7	2.2	-1.5
そのほか	1.6	3.4	-1.8	1.3	2.6	-1.3	1.3	2.5	-1.2

「せんたく」……「家族全員で分担」が16.8ポイント増と最も増加し、「妻（女性の同居人）」が8.2ポイント減と最も減少しています。

「家計の管理」……「夫（男性の同居人）」が5.4ポイント増と最も増加し、「家族全員で分担」が3.8ポイント減と最も減少しています。

「日常の買い物」…「家族全員で分担」が6.1ポイント増と最も増加し、「母」が2.7ポイント減と最も減少しています。

	せんたく			家計の管理			日常の買い物		
	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
妻(女性の同居人)	37.2	45.4	-8.2	59.4	55.5	3.9	46.1	43.5	2.6
夫(男性の同居人)	1.2	0.7	0.5	12.4	7.0	5.4	1.0	1.6	-0.6
子ども	0.0	0.3	-0.3	0.0	0.1	-0.1	0.0	0.4	-0.4
家族全員で分担	55.2	38.4	16.8	15.7	19.5	-3.8	44.1	38.0	6.1
父	0.0	0.0	0.0	0.8	0.9	-0.1	0.1	0.2	-0.1
母	2.0	5.3	-3.3	3.9	5.8	-1.9	2.5	5.2	-2.7
そのほか	1.8	3.0	-1.2	4.4	4.4	0.0	3.7	3.7	0.0

(家計の管理⇒前回：家計のやりくり)

「生活費をかせぐ」……「家族全員で分担」が13.0ポイント増と最も増加し、「夫（男性の同居人）」が7.3ポイント減と最も減少しています。

「自治会・町内会活動」…「家族全員で分担」が7.4ポイント増と最も増加し、「夫（男性の同居人）」が3.1ポイント減と最も減少しています。

「高齢者や病人の世話」…「家族全員で分担」が11.0ポイント増と最も増加し、「そのほか」が2.5ポイント減と最も減少しています。

※前回は「育児・子どもの世話」であった項目は、今回「育児（乳幼児の世話）」と「子どもの世話」のふたつに分かれたため、経年比較はありません。

	生活費をかせぐ			自治会・町内会活動			高齢者や病人の世話		
	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
妻(女性の同居人)	1.2	1.5	-0.3	2.0	5.1	-3.1	9.0	10.7	-1.7
夫(男性の同居人)	55.5	62.8	-7.3	36.0	31.3	4.7	1.2	1.4	-0.2
子ども	0.0	0.5	-0.5	0.3	0.9	-0.6	1.2	1.7	-0.5
家族全員で分担	32.5	19.5	13.0	50.1	42.7	7.4	80.2	69.2	11.0
父	3.0	5.0	-2.0	2.7	4.9	-2.2	0.3	0.1	0.2
母	0.1	0.5	-0.4	0.5	0.9	-0.4	1.3	1.3	0.0
そのほか	4.4	3.8	0.6	5.2	6.0	-0.8	4.3	6.8	-2.5

(生活費をかせぐ⇒前回：生活を支える主たる収入源)

年代別では、以下のようになっています。

「食事のしたく」……「20～29歳」から「60～69歳」までで「家族全員で分担」が、「70歳以上」で「妻（女性の同居人）」が、それぞれ最も多くなっています。

「食事の後かたづけ」…全ての年代で「家族全員で分担」が最も多くなっています。

	食事のしたく						食事の後かたづけ					
	20～ 29歳 (N=79)	30～ 39歳 (N=106)	40～ 49歳 (N=121)	50～ 59歳 (N=145)	60～ 69歳 (N=166)	70歳 以上 (N=130)	20～ 29歳 (N=79)	30～ 39歳 (N=106)	40～ 49歳 (N=121)	50～ 59歳 (N=145)	60～ 69歳 (N=166)	70歳 以上 (N=130)
妻(女性の同居人)	38.0	35.8	37.2	38.6	36.7	53.1	8.9	11.3	9.9	17.2	17.5	27.7
夫(男性の同居人)	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	8.9	6.6	1.7	3.4	4.8	6.9
子ども	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.9	0.8	0.0	0.6	0.0
家族全員で分担	54.4	60.4	58.7	55.2	52.4	40.8	75.9	79.2	85.1	73.8	71.7	58.5
父	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
母	3.8	1.9	0.0	1.4	3.0	2.3	2.5	0.9	0.0	0.7	0.0	1.5
そのほか	1.3	0.0	4.1	1.4	1.8	0.8	1.3	0.0	2.5	1.4	1.2	1.5

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

「そうじ」……全ての年代で「家族全員で分担」が最も多くなっています。

「せんたく」…「20～29歳」から「60～69歳」で「家族全員で分担」が、「70歳以上」で「妻（女性の同居人）」が、それぞれ最も多くなっています。

(%)

	そうじ						せんたく					
	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)
妻(女性の同居人)	13.9	9.4	9.9	15.9	12.7	20.8	30.4	24.5	29.8	38.6	40.4	52.3
夫(男性の同居人)	5.1	2.8	3.3	1.4	3.6	5.4	2.5	1.9	0.0	0.0	1.8	1.5
子ども	0.0	0.0	0.0	0.7	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族全員で分担	79.7	85.8	82.6	77.9	77.7	66.2	59.5	70.8	66.1	53.8	48.8	40.0
父	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
母	0.0	0.9	0.0	0.7	0.6	1.5	3.8	1.9	0.8	1.4	2.4	2.3
その他	1.3	0.0	3.3	1.4	0.6	1.5	2.5	0.0	3.3	2.8	1.8	0.8

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

「家計の管理」……全ての年代で「妻（女性の同居人）」が最も多くなっています。

「日常の買いもの」…「20～29歳」から「40～49歳」で「家族全員で分担」が、「50～59歳」で「妻（女性の同居人）」と「家族全員で分担」が、「60～69歳」と「70歳以上」で「妻（女性の同居人）」が、それぞれ最も多くなっています。

(%)

	家計の管理						日常の買いもの					
	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)
妻(女性の同居人)	51.9	57.5	65.3	57.9	62.7	56.9	39.2	43.4	44.6	44.8	47.6	52.3
夫(男性の同居人)	7.6	9.4	9.1	16.6	14.5	15.4	2.5	0.9	0.0	0.0	1.2	2.3
子ども	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族全員で分担	19.0	22.6	14.9	13.1	15.1	12.3	45.6	50.0	50.4	44.8	42.2	35.4
父	2.5	0.0	0.8	0.0	0.0	1.5	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
母	15.2	2.8	2.5	2.1	1.2	5.4	10.1	1.9	1.7	1.4	0.6	3.1
その他	3.8	5.7	5.8	7.6	1.8	1.5	1.3	2.8	2.5	6.9	4.2	2.3

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

「生活費をかせぐ」…全ての年代で「夫（男性の同居人）」が最も多くなっています。

「育児」……「20～29歳」と「30～39歳」「50～59歳」で「家族全員で分担」が、「40～49歳」と「60～69歳」「70歳以上」で「妻（女性の同居人）」が、それぞれ最も多くなっています。

(%)

	生活費をかせぐ						育児(乳幼児の世話)					
	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)
妻(女性の同居人)	1.3	1.9	0.8	1.4	0.6	1.5	36.7	41.5	48.8	45.5	44.6	56.2
夫(男性の同居人)	41.8	52.8	58.7	50.3	59.0	63.8	0.0	0.9	0.8	0.0	0.6	0.8
子ども	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
家族全員で分担	39.2	36.8	33.9	37.9	28.9	21.5	53.2	49.1	47.1	46.9	42.2	30.0
父	13.9	1.9	0.0	2.1	1.8	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
母	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	7.6	3.8	0.8	2.8	1.2	3.8
その他	2.5	4.7	5.0	6.2	3.6	4.6	1.3	3.8	2.5	2.8	4.8	2.3

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

「こどもの世話」………全ての年代で「家族全員で分担」が最も多くなっています。
「自治会・町内会活動」…「20歳～29歳」から「50～59歳」までで「家族全員で分担」が、「60歳～69歳」と「70歳以上」で「夫（男性の同居人）」が、それぞれ最も多くなっています。

(%)

	こどもの世話						自治会・町内会活動					
	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)
妻(女性の同居人)	15.2	20.8	28.9	26.2	24.1	33.8	2.5	2.8	1.7	1.4	1.2	2.3
夫(男性の同居人)	5.1	1.9	2.5	3.4	7.8	11.5	24.1	23.6	34.7	37.2	42.8	44.6
子ども	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.8
家族全員で分担	72.2	67.0	59.5	60.0	52.4	38.5	58.2	63.2	53.7	53.1	42.2	38.5
父	0.0	0.0	0.8	0.0	0.6	0.8	6.3	3.8	2.5	0.7	1.2	4.6
母	5.1	3.8	0.8	1.4	0.0	3.1	2.5	0.9	0.0	0.0	0.0	0.8
そのほか	2.5	4.7	5.0	6.9	9.0	5.4	3.8	3.8	5.8	5.5	7.8	3.1

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

「高齢者や病人の世話」…全ての年代で「家族全員で分担」が最も多くなっています。

(%)

	高齢者や病人の世話					
	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)
妻(女性の同居人)	7.6	4.7	4.1	11.7	7.8	16.2
夫(男性の同居人)	0.0	1.9	0.8	1.4	0.6	2.3
子ども	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	2.3
家族全員で分担	81.0	84.0	86.0	80.7	78.9	71.5
父	1.3	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0
母	2.5	0.9	2.5	0.0	0.6	2.3
そのほか	6.3	6.6	5.0	4.1	4.2	1.5

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

【Q4 - ②】家庭の仕事（ア）～（サ）について、現実は、おもにだれの役割となっていますか。（○はそれぞれ1つだけ）

全体では、「食事のしたく」「食事の後かたづけ」「そうじ」「せんたく」「家計の管理」「日常の買い物」「育児」「こどもの世話」「高齢者や病人の世話」の各項目で「妻（女性の同居人）」が、「生活費をかせぐ」と「自治会・町内会活動」で「夫（男性の同居人）」が最も多くなっています。

全体(N=766)	(%)										
	ア 食事のしたく	イ 食事の後かたづけ	ウ そうじ	エ せんたく	オ 家計の管理	カ 日常の買い物	キ 生活費をかせぐ	ク 育児（乳幼児の世話）	ケ こどもの世話	コ 自治会・町内会活動	サ 高齢者や病人の世話
妻(女性の同居人)	73.2	60.4	57.4	70.4	63.6	61.5	4.0	54.2	47.3	16.6	35.8
夫(男性の同居人)	2.6	5.6	5.5	3.5	15.0	3.9	58.2	0.7	4.2	43.6	2.0
子ども	0.5	1.0	0.8	0.5	0.1	0.7	1.0	0.0	0.5	0.1	0.3
家族全員で分担	8.1	18.9	22.3	10.4	4.7	20.2	19.2	12.7	18.0	20.0	27.4
父	0.3	0.1	0.4	0.1	1.2	0.1	5.5	0.0	1.0	5.6	0.3
母	11.7	9.1	9.1	11.2	10.3	8.6	0.9	7.0	6.1	4.6	5.5
そのほか	1.7	2.6	2.2	2.0	3.0	2.6	7.4	15.0	14.0	6.5	20.0
不明・無回答	1.8	2.1	2.2	1.8	2.1	2.3	3.7	10.4	8.9	3.0	8.9

※薄赤色の塗りつぶしは、各項目の中で最も回答数が多いもの

女性では、「食事のしたく」「食事の後かたづけ」「そうじ」「せんたく」「家計の管理」「日常の買いもの」「育児」「こどもの世話」「高齢者や病人の世話」の各項目で「妻（女性の同居人）」が、「生活費をかせぐ」と「自治会・町内会活動」で「夫（男性の同居人）」が最も多くなっています。

男性では、「食事のしたく」「食後の後かたづけ」「そうじ」「せんたく」「家計の管理」「日常の買いもの」「育児」「こどもの世話」の各項目で「妻（女性の同居人）」が、「生活費をかせぐ」と「自治会・町内活動」で「夫（男性の同居人）」が、「高齢者や病人の世話」で「家族全員で分担」が最も多くなっています。

		(%)										
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ
		食事のしたく	食事の後かたづけ	そうじ	せんたく	家計の管理	日常の買いもの	生活費をかせぐ	育児（乳幼児の世話）	こどもの世話	自治会・町内会活動	高齢者や病人の世話
女性 (N=420)	妻(女性の同居人)	76.4	68.6	61.2	74.3	65.7	66.2	6.4	56.2	55.0	20.5	40.0
	夫(男性の同居人)	1.7	3.1	3.8	1.9	15.5	2.4	57.4	0.2	2.4	40.5	0.7
	子ども	0.5	1.2	1.0	0.7	0.0	0.7	1.2	0.0	0.5	0.2	0.2
	家族全員で分担	6.9	14.0	20.0	9.0	4.0	16.9	18.3	12.1	14.0	18.8	25.0
	父	0.2	0.0	0.5	0.0	0.2	0.0	4.8	0.0	0.5	4.8	0.5
	母	11.4	8.8	8.8	11.0	10.0	8.6	1.0	6.2	6.4	5.0	5.2
	そのほか	1.0	1.9	2.1	1.2	2.6	2.6	6.9	14.0	12.4	7.1	19.0
	不明・無回答	1.9	2.4	2.6	1.9	1.9	2.6	4.0	11.2	8.8	3.1	9.3
男性 (N=326)	妻(女性の同居人)	68.7	49.4	52.5	64.7	61.0	54.9	0.9	50.3	37.4	11.0	29.8
	夫(男性の同居人)	4.0	9.2	8.0	5.8	14.4	5.8	59.2	1.2	6.1	47.5	3.7
	子ども	0.6	0.9	0.6	0.3	0.3	0.6	0.9	0.0	0.6	0.0	0.3
	家族全員で分担	10.1	25.8	25.5	12.6	5.5	25.5	20.2	13.8	23.0	22.1	31.3
	父	0.3	0.3	0.3	0.3	1.8	0.3	6.4	0.0	1.8	6.7	0.0
	母	12.0	9.2	9.2	11.7	11.0	8.3	0.6	8.0	5.5	4.0	5.8
	そのほか	2.8	3.7	2.5	3.1	3.7	2.8	8.6	17.2	16.6	6.1	21.2
	不明・無回答	1.5	1.5	1.5	1.5	2.1	1.8	3.1	9.5	8.9	2.5	8.0

※薄赤色の塗りつぶしは、各項目の中で最も回答数が多いもの

前回調査との比較では、全体で以下の変化がみられます。

「食事のしたく」……………「妻（女性の同居人）」が 3.2 ポイント増と最も増加し、「母」が 1.6 ポイント減と最も減少しています。

「食事の後かたづけ」…「家族全員で分担」が 2.1 ポイント増と最も増加し、「母」が 1.3 ポイント減と最も減少しています。

「そうじ」……………「妻（女性の同居人）」が 2.4 ポイント増と最も増加し、「母」が 0.8 ポイント減と最も減少しています。

	食事のしたく			食事の後かたづけ			そうじ		
	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,003	経年比較 ①-② (ポイント)	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,003	経年比較 ①-② (ポイント)	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,003	経年比較 ①-② (ポイント)
妻(女性の同居人)	73.2	70.0	3.2	60.4	58.7	1.7	57.4	55.0	2.4
夫(男性の同居人)	2.6	2.0	0.6	5.6	5.0	0.6	5.5	3.9	1.6
子ども	0.5	0.5	0.0	1.0	1.6	-0.6	0.8	0.3	0.5
家族全員で分担	8.1	7.9	0.2	18.9	16.8	2.1	22.3	22.9	-0.6
父	0.3	0.3	0.0	0.1	0.5	-0.4	0.4	0.7	-0.3
母	11.7	13.3	-1.6	9.1	10.4	-1.3	9.1	9.9	-0.8
そのほか	1.7	1.0	0.7	2.6	1.7	0.9	2.2	1.8	0.4

「せんたく」……………「妻（女性の同居人）」が 4.1 ポイント増と最も増加し、「母」が 1.5 ポイント減と最も減少しています。

「家計の管理」……………「夫（男性の同居人）」が 5.4 ポイント増と最も増加し、「家族全員で分担」が 2.3 ポイント減と最も減少しています。

「日常の買いもの」…「妻（女性の同居人）」が 3.9 ポイント増と最も増加し、「母」が 2.0 ポイント減と最も減少しています。

	せんたく			家計の管理			日常の買いもの		
	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,003	経年比較 ①-② (ポイント)	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,003	経年比較 ①-② (ポイント)	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,003	経年比較 ①-② (ポイント)
妻(女性の同居人)	70.4	66.3	4.1	63.6	62.3	1.3	61.5	57.6	3.9
夫(男性の同居人)	3.5	2.2	1.3	15.0	9.6	5.4	3.9	2.6	1.3
子ども	0.5	0.5	0.0	0.1	0.7	-0.6	0.7	0.7	0.0
家族全員で分担	10.4	10.6	-0.2	4.7	7.0	-2.3	20.2	19.7	0.5
父	0.1	0.5	-0.4	1.2	1.0	0.2	0.1	0.4	-0.3
母	11.2	12.7	-1.5	10.3	11.8	-1.5	8.6	10.6	-2.0
そのほか	2.0	1.6	0.4	3.0	1.7	1.3	2.6	2.7	-0.1

(家計の管理⇒前回：家計のやりくり)

「生活費をかせぐ」……「家族全員で分担」が 9.1 ポイント増と最も増加し、「夫（男性の同居人）」が 7.7 ポイント減と最も減少しています。

「自治会・町内会活動」…「夫（男性の同居人）」が 5.7 ポイント増と最も増加し、「母」が 1.3 ポイント減と最も減少しています。

「高齢者や病人の世話」…「妻（女性の同居人）」が 10.1 ポイント増と最も増加し、「夫（男性の同居人）」が 0.4 ポイント減と最も減少しています。

	生活費をかせぐ			自治会・町内会活動			高齢者や病人の世話		
	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,003	経年比較 ①-② (ポイント)	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,003	経年比較 ①-② (ポイント)	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,003	経年比較 ①-② (ポイント)
妻(女性の同居人)	4.0	3.4	0.6	16.6	15.9	0.7	35.8	25.7	10.1
夫(男性の同居人)	58.2	65.9	-7.7	43.6	37.9	5.7	2.0	2.4	-0.4
子ども	1.0	1.0	0.0	0.1	1.0	-0.9	0.3	0.6	-0.3
家族全員で分担	19.2	10.1	9.1	20.0	17.7	2.3	27.4	24.7	2.7
父	5.5	9.6	-4.1	5.6	5.5	0.1	0.3	0.6	-0.3
母	0.9	1.1	-0.2	4.6	5.9	-1.3	5.5	5.2	0.3
そのほか	7.4	3.0	4.4	6.5	4.6	1.9	20.0	14.9	5.1

(生活費をかせぐ⇒前回：生活を支える主たる収入源)

年代別では、以下のようになっています。

「食事のしたく」……全ての年代で「妻（女性の同居人）」が最も多くなっています。

「食事の後かたづけ」…全ての年代で「妻（女性の同居人）」が最も多くなっています。

	食事のしたく						食事の後かたづけ					
	20～ 29歳 (N=79)	30～ 39歳 (N=106)	40～ 49歳 (N=121)	50～ 59歳 (N=145)	60～ 69歳 (N=166)	70歳 以上 (N=130)	20～ 29歳 (N=79)	30～ 39歳 (N=106)	40～ 49歳 (N=121)	50～ 59歳 (N=145)	60～ 69歳 (N=166)	70歳 以上 (N=130)
妻(女性の同居人)	45.6	62.3	75.2	79.3	82.5	78.5	30.4	52.8	67.8	64.1	69.3	63.1
夫(男性の同居人)	1.3	2.8	2.5	2.8	2.4	3.8	8.9	5.7	4.1	5.5	5.4	6.2
子ども	0.0	0.0	0.8	0.7	0.6	0.8	1.3	0.9	0.8	0.7	1.8	0.8
家族全員で分担	11.4	9.4	12.4	6.2	6.6	5.4	27.8	19.8	18.2	19.3	14.5	18.5
父	1.3	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
母	38.0	24.5	8.3	6.2	3.0	6.2	26.6	18.9	8.3	3.4	3.0	5.4
そのほか	1.3	0.0	0.8	2.1	2.4	2.3	3.8	1.9	0.8	4.1	3.0	1.5

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

「そうじ」……全ての年代で「妻（女性の同居人）」が最も多くなっています。

「せんたく」…全ての年代で「妻（女性の同居人）」が最も多くなっています。

(%)

	そうじ						せんたく					
	20～ 29歳 (N=79)	30～ 39歳 (N=106)	40～ 49歳 (N=121)	50～ 59歳 (N=145)	60～ 69歳 (N=166)	70歳 以上 (N=130)	20～ 29歳 (N=79)	30～ 39歳 (N=106)	40～ 49歳 (N=121)	50～ 59歳 (N=145)	60～ 69歳 (N=166)	70歳 以上 (N=130)
妻(女性の同居人)	35.4	52.8	69.4	60.0	67.5	46.9	41.8	60.4	76.9	71.0	81.9	73.8
夫(男性の同居人)	3.8	6.6	4.1	6.2	4.8	7.7	2.5	2.8	5.0	3.4	3.6	3.8
子ども	1.3	0.0	0.8	0.7	0.6	1.5	0.0	0.0	0.8	0.7	0.0	1.5
家族全員で分担	25.3	18.9	17.4	24.1	17.5	33.1	16.5	11.3	7.4	13.8	8.4	9.2
父	1.3	0.9	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
母	29.1	18.9	6.6	4.1	2.4	5.4	36.7	22.6	9.1	5.5	1.2	6.9
その他	2.5	1.9	1.7	2.1	3.6	0.8	2.5	2.8	0.8	2.1	2.4	0.8

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

「家計の管理」……「20～29歳」で「母」が最も多くなっています。「30～39歳」から

「70歳以上」までで「妻(女性の同居人)」が最も多くなっています。

「日常の買い物」…全ての年代で「妻（女性の同居人）」が最も多くなっています。

(%)

	家計の管理						日常の買い物					
	20～ 29歳 (N=79)	30～ 39歳 (N=106)	40～ 49歳 (N=121)	50～ 59歳 (N=145)	60～ 69歳 (N=166)	70歳 以上 (N=130)	20～ 29歳 (N=79)	30～ 39歳 (N=106)	40～ 49歳 (N=121)	50～ 59歳 (N=145)	60～ 69歳 (N=166)	70歳 以上 (N=130)
妻(女性の同居人)	35.4	58.5	72.7	68.3	67.5	65.4	35.4	57.5	68.6	63.4	69.9	59.2
夫(男性の同居人)	10.1	12.3	11.6	17.2	17.5	19.2	5.1	2.8	1.7	3.4	5.4	5.4
子ども	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	2.5	0.0	0.8	0.7	0.0	0.8
家族全員で分担	11.4	3.8	4.1	2.1	4.8	5.4	22.8	20.8	24.0	20.0	15.7	23.8
父	1.3	0.9	1.7	0.7	0.6	1.5	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0
母	39.2	22.6	7.4	4.8	1.2	3.1	30.4	17.0	4.1	4.1	2.4	4.6
その他	2.5	1.9	2.5	4.1	4.8	0.8	2.5	0.9	0.8	5.5	3.6	0.8

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

「生活費をかせぐ」……全ての年代で「夫（男性の同居人）」が最も多くなっています。

「育児(乳幼児の世話)」…全ての年代で「妻（女性の同居人）」が最も多くなっています。

(%)

	生活費をかせぐ						育児(乳幼児の世話)					
	20～ 29歳 (N=79)	30～ 39歳 (N=106)	40～ 49歳 (N=121)	50～ 59歳 (N=145)	60～ 69歳 (N=166)	70歳 以上 (N=130)	20～ 29歳 (N=79)	30～ 39歳 (N=106)	40～ 49歳 (N=121)	50～ 59歳 (N=145)	60～ 69歳 (N=166)	70歳 以上 (N=130)
妻(女性の同居人)	1.3	8.5	5.8	4.1	2.4	2.3	36.7	51.9	65.3	61.4	50.6	51.5
夫(男性の同居人)	38.0	52.8	68.6	57.2	63.3	60.8	0.0	0.9	0.8	0.7	0.0	1.5
子ども	0.0	0.9	0.0	0.7	1.8	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族全員で分担	24.1	26.4	19.0	21.4	14.5	13.1	19.0	16.0	14.0	11.7	7.2	13.8
父	29.1	8.5	0.8	2.1	1.2	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
母	1.3	0.9	0.8	1.4	0.0	0.8	22.8	14.2	3.3	3.4	3.0	3.8
その他	2.5	1.9	4.1	9.7	12.0	10.0	17.7	12.3	11.6	16.6	21.1	11.5

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

「こどもの世話」……全ての年代で「妻（女性の同居人）」が最も多くなっています。

「自治会・町内会活動」…「20～29 歳」を除く全ての年代で「夫（男性の同居人）」が最も多くなっています。「20～29 歳」で「族全員で分担」が最も多くなっています。

(%)

	こどもの世話						自治会・町内会活動					
	20～ 29歳 (N=79)	30～ 39歳 (N=106)	40～ 49歳 (N=121)	50～ 59歳 (N=145)	60～ 69歳 (N=166)	70歳 以上 (N=130)	20～ 29歳 (N=79)	30～ 39歳 (N=106)	40～ 49歳 (N=121)	50～ 59歳 (N=145)	60～ 69歳 (N=166)	70歳 以上 (N=130)
妻(女性の同居人)	31.6	48.1	64.5	55.9	39.8	40.8	3.8	13.2	24.0	15.9	21.7	13.8
夫(男性の同居人)	5.1	1.9	4.1	3.4	3.6	6.9	24.1	32.1	43.0	46.9	49.4	55.4
子ども	0.0	0.0	0.0	0.7	0.6	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
家族全員で分担	21.5	17.0	15.7	18.6	16.9	18.5	26.6	17.0	19.0	24.1	18.1	16.9
父	2.5	2.8	0.8	0.0	0.6	0.8	17.7	12.3	4.1	2.1	2.4	3.1
母	22.8	11.3	3.3	2.1	1.2	4.6	17.7	11.3	2.5	1.4	0.6	0.8
そのほか	13.9	14.2	9.1	13.1	20.5	13.1	8.9	12.3	5.8	6.9	3.6	4.6

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

「高齢者や病人の世話」…「20～29 歳」と「70 歳以上」で「家族全員で分担」が最も多くなっています。「30～39 歳」で「そのほか」が最も多くなっています。「40～49 歳」「50～59 歳」「60～69 歳」の各年代で「妻（女性の同居人）」が最も多くなっています。

(%)

	高齢者や病人の世話					
	20～ 29歳 (N=79)	30～ 39歳 (N=106)	40～ 49歳 (N=121)	50～ 59歳 (N=145)	60～ 69歳 (N=166)	70歳 以上 (N=130)
妻(女性の同居人)	13.9	25.5	40.5	46.9	39.8	36.2
夫(男性の同居人)	0.0	0.9	3.3	2.1	2.4	1.5
子ども	0.0	0.9	0.0	0.0	0.6	0.0
家族全員で分担	35.4	20.8	25.6	27.6	21.7	36.9
父	1.3	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0
母	19.0	15.1	3.3	2.1	1.2	0.0
そのほか	24.1	30.2	20.7	15.9	21.1	13.1

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

— 【Q4 - ①】と【Q4 - ②】のまとめ —

- 全体ではア～サのほとんどの項目で、理想と現実の乖離がみられます。例えば「ア 食事のしたく」「イ 食事のあとかたづけ」「ウ そうじ」「エ せんたく」「ケ こどもの世話」「コ 自治会・町内会活動」「サ 高齢者や病人の世話」の各項目では、理想で「家族全員で分担」が最も多かったのに対し、現実では「自治会・町内会活動」を除くすべての項目で、「妻（女性の同居人）」が最も多くなっています。女性に負担が偏っているようすが、うかがえます。
- 理想で、「ウ そうじ」「カ 日常の買いもの」「ク 育児（乳幼児の世話）」で「妻（女性の同居人）」が最も多く、「キ 生活費をかせぐ」で「夫（男性の同居人）」が最も多くなっています。男女の役割分担に対する固定的な考えが根強く存在するようすが、うかがえます。

(以下、表を再掲)

全体(N=766)													(%)
	ア 食事のしたく	イ 食事の後かたづけ	ウ そうじ	エ せんたく	オ 家計の管理	カ 日常の買いもの	キ 生活費をかせぐ	ク 育児（乳幼児の世話）	ケ こどもの世話	コ 自治会・町内会活動	サ 高齢者や病人の世話		
妻(女性の同居人)	40.1	16.3	14.4	37.2	59.4	46.1	1.2	46.2	25.7	2.0	9.0		
夫(男性の同居人)	0.4	5.0	3.4	1.2	12.4	1.0	55.5	0.5	5.7	36.0	1.2		
子ども	0.0	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	1.2		
家族全員で分担	53.3	73.5	77.5	55.2	15.7	44.1	32.5	44.0	56.5	50.1	80.2		
父	0.3	0.1	0.1	0.0	0.8	0.1	3.0	0.0	0.4	2.7	0.3		
母	2.0	0.8	0.7	2.0	3.9	2.5	0.1	2.9	2.0	0.5	1.3		
そのほか	1.6	1.3	1.3	1.8	4.4	3.7	4.4	3.0	6.0	5.2	4.3		
不明・無回答	2.5	2.5	2.3	2.6	3.4	2.5	3.3	3.3	3.5	3.1	2.6		
妻(女性の同居人)	73.2	60.4	57.4	70.4	63.6	61.5	4.0	54.2	47.3	16.6	35.8		
夫(男性の同居人)	2.6	5.6	5.5	3.5	15.0	3.9	58.2	0.7	4.2	43.6	2.0		
子ども	0.5	1.0	0.8	0.5	0.1	0.7	1.0	0.0	0.5	0.1	0.3		
家族全員で分担	8.1	18.9	22.3	10.4	4.7	20.2	19.2	12.7	18.0	20.0	27.4		
父	0.3	0.1	0.4	0.1	1.2	0.1	5.5	0.0	1.0	5.6	0.3		
母	11.7	9.1	9.1	11.2	10.3	8.6	0.9	7.0	6.1	4.6	5.5		
そのほか	1.7	2.6	2.2	2.0	3.0	2.6	7.4	15.0	14.0	6.5	20.0		
不明・無回答	1.8	2.1	2.2	1.8	2.1	2.3	3.7	10.4	8.9	3.0	8.9		

※薄赤色の塗りつぶしは、各項目の中で最も回答数が多いもの

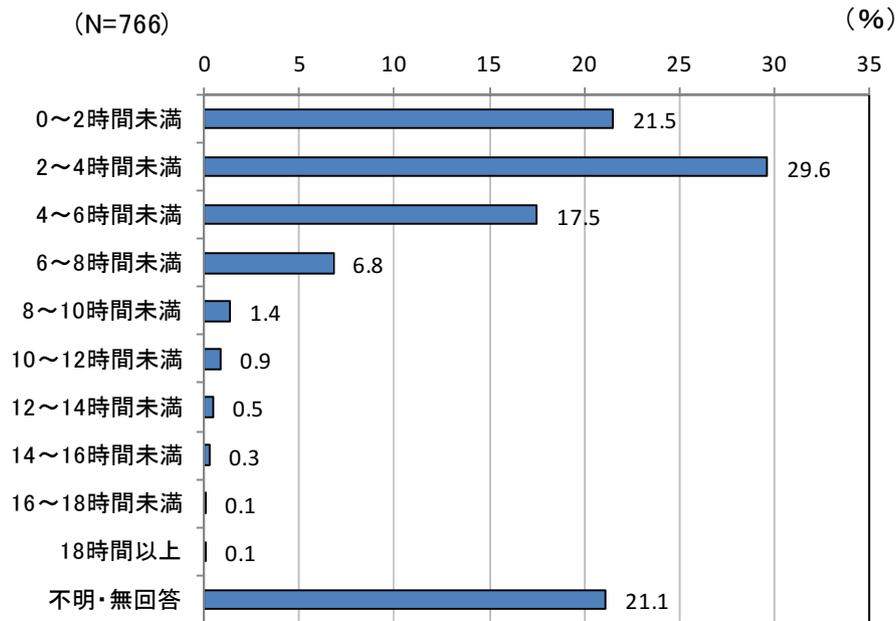
【Q4 - ①】理想

【Q4 - ②】現実

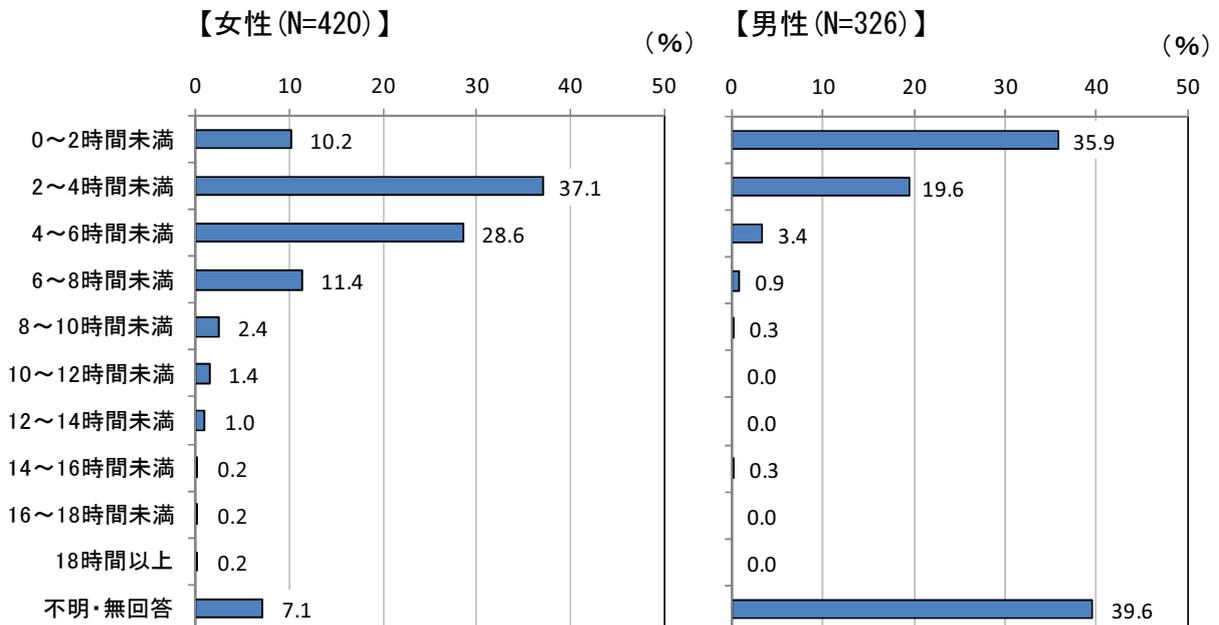
【Q5】あなたが家事にかかる時間は、1日平均でおおよそ何時間くらいですか。未就学時（6歳以下）のこどもがいる人は、育児時間もお答えください。（記入式）

（1）家事の時間

全体では、「2～4時間未満」が29.6%と最も多く、次いで「0～2時間未満」21.5%、「4～6時間未満」17.5%などとなっています。（「不明・無回答」を除く）



女性では、「2～4時間未満」が37.1%と最も多く、次いで「4～6時間未満」28.6%、「6～8時間未満」11.4%などとなっています。男性では、「不明・無回答」が39.6%と最も多く、関心の薄さを表しています。次いで「0～2時間未満」35.9%、「2～4時間未満」19.6%などとなっています。



年代別では、「20～29歳」と「30～39歳」で「0～2時間未満」が、「40～49歳」から「70歳以上」では「2～4時間未満」が、それぞれ最も多くなっています。4時間以上の割合は、年代が上がるほど高くなる傾向にあります。

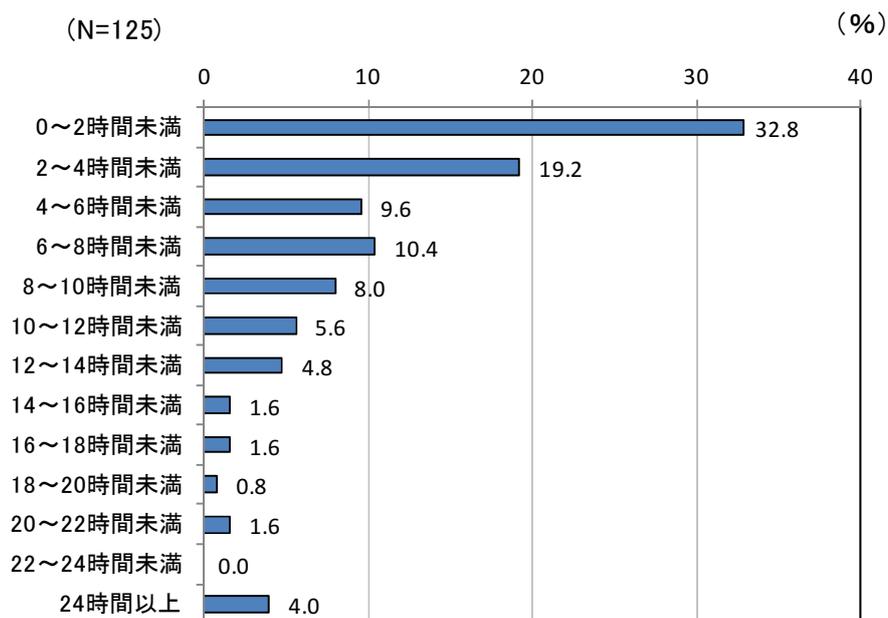
(%)

	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)
0～2時間未満	39.2	25.5	19.0	15.9	20.5	17.7
2～4時間未満	27.8	23.6	34.7	27.6	30.1	31.5
4～6時間未満	8.9	17.0	19.8	18.6	19.9	15.4
6～8時間未満	2.5	4.7	6.6	6.9	7.8	10.0
8～10時間未満	0.0	2.8	0.8	2.1	0.6	2.3
10～12時間未満	1.3	0.9	0.0	1.4	0.6	0.8
12～14時間未満	0.0	0.9	0.8	0.0	0.6	0.8
14～16時間未満	0.0	0.0	0.0	0.7	0.6	0.0
16～18時間未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0
18時間以上	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
不明・無回答	19.0	24.5	18.2	26.9	18.7	21.5

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

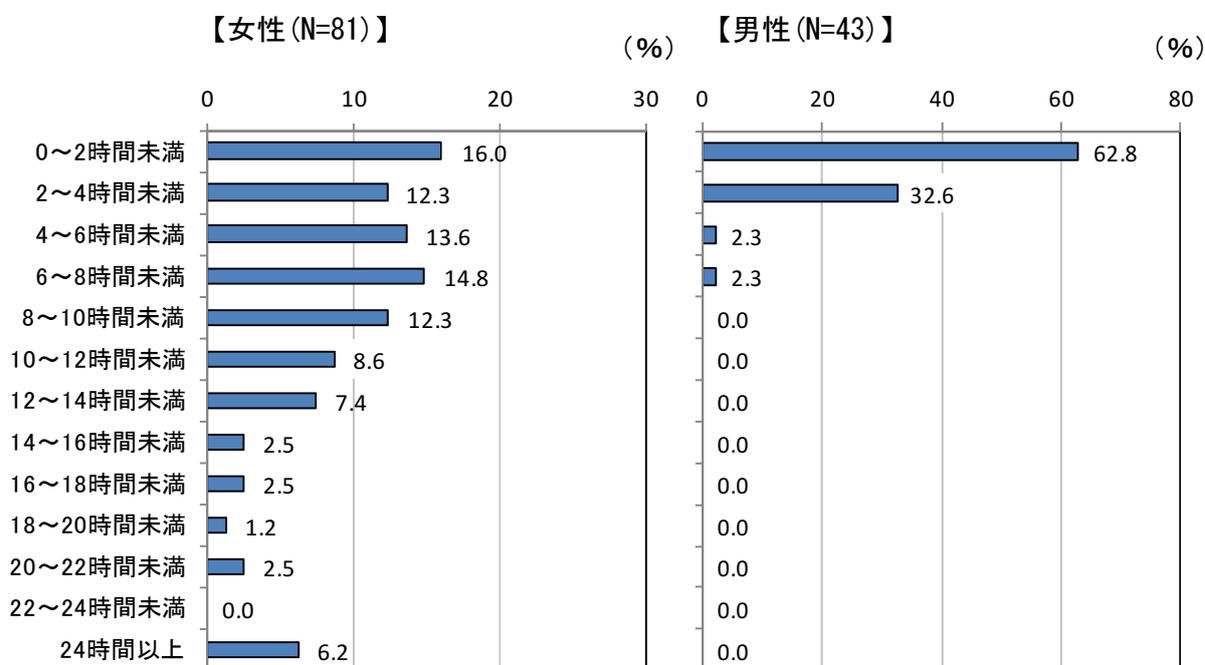
(2) 育児の時間（こどものいる人）

全体では、「0～2時間未満」が32.8%と最も多く、次いで「2～4時間未満」19.2%、「6～8時間未満」10.4%などとなっています。



※「不明・無回答」を除いて集計

女性では、「0～2時間未満」が16.0と最も多く、次いで「6～8時間未満」14.8%、「4～6時間未満」13.6%などとなっています。男性では、「0～2時間未満」が62.8%と最も多く、次いで「2～4時間未満」32.6%、「4～6時間未満」と「6～8時間未満」2.3%などとなっています。男性で8時間以上の回答はありませんでした。



※「不明・無回答」を除いて集計

年代別では、「20～29歳」と「40～49歳」から「70歳以上」までで「0～2時間未満」が、「30～39歳」で「2～4時間未満」が、それぞれ最も多くなっています。4時間以上の数は、「30～39歳」で最も多くなっています。

	(人)					
	20～29歳 (N=23)	30～39歳 (N=49)	40～49歳 (N=24)	50～59歳 (N=9)	60～69歳 (N=9)	70歳以上 (N=11)
0～2時間未満	6	4	9	7	8	7
2～4時間未満	5	12	6	0	1	0
4～6時間未満	0	9	1	1	0	1
6～8時間未満	0	7	3	0	0	3
8～10時間未満	3	3	4	0	0	0
10～12時間未満	1	5	1	0	0	0
12～14時間未満	3	3	0	0	0	0
14～16時間未満	1	1	0	0	0	0
16～18時間未満	2	0	0	0	0	0
18～20時間未満	0	1	0	0	0	0
20～22時間未満	0	1	0	1	0	0
22～24時間未満	0	0	0	0	0	0
24時間以上	2	3	0	0	0	0

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目
「不明・無回答」を除いて集計。N数が少ないため構成比(%)ではなく実数(人数)で表記

3. 働きかたについて

【Q6】あなた自身の働きかたについて、理想と現実はどうですか？（○はそれぞれ1つだけ）

全体では、以下のようにになっています。

「理想」…「結婚しても、こどもができて、フルタイムで仕事を続ける」が35.5%と最も多く、次いで「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはフルタイムで仕事をつづける」21.9%、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはパートタイムで仕事をつづける」17.8%などとなっています。

「現実」…「結婚しても、こどもができて、フルタイムで仕事を続ける」が37.1%と最も多く、次いで「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはパートタイムで仕事をつづける」20.4%、「そのほか」9.1%などとなっています。

女性では、以下のようにになっています。

「理想」…「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはパートタイムで仕事をつづける」が28.6%と最も多く、次いで「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはフルタイムで仕事をつづける」25.5%、「結婚しても、こどもができて、フルタイムで仕事を続ける」17.1%などとなっています。

「現実」…「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはパートタイムで仕事をつづける」が31.0%と最も多く、次いで「結婚しても、こどもができて、フルタイムで仕事を続ける」20.2%、「そのほか」11.0%などとなっています。

男性では、以下のようにになっています。

「理想」…「結婚しても、こどもができて、フルタイムで仕事を続ける」が59.5%と最も多く、次いで「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはフルタイムで仕事をつづける」17.8%、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはパートタイムで仕事をつづける」4.0%などとなっています。

「現実」…「結婚しても、こどもができて、フルタイムで仕事を続ける」が59.5%と最も多く、次いで「そのほか」7.1%、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはパートタイムで仕事をつづける」6.7%などとなっています。（「不明・無回答」は除く）

全体、男性、女性いずれも、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはフルタイムで仕事をつづける」で、理想と現実の乖離が見られます。

※表は次のページ

(%)

	全体(N=766)		女性(N=420)		男性(N=326)	
	理想	現実	理想	現実	理想	現実
結婚しても、こどもができて、フルタイムで仕事を続ける	35.5	37.1	17.1	20.2	59.5	59.5
結婚しても、こどもができて、パートタイムで仕事を続ける	3.4	4.7	4.8	6.7	1.5	2.5
結婚するまで仕事をもち、結婚後は仕事をもちたくない	5.6	4.6	8.3	6.2	1.8	2.5
子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはフルタイムで仕事をつづける	21.9	7.3	25.5	10.5	17.8	2.8
子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはパートタイムで仕事をつづける	17.8	20.4	28.6	31.0	4.0	6.7
こどもができるまで仕事をもち、こどもができたらず仕事をもちたくない	6.1	4.6	10.0	5.0	1.5	4.0
その他	1.8	9.1	1.7	11.0	2.1	7.1
不明・無回答	7.8	12.3	4.0	9.5	11.7	15.0

※薄赤色の塗りつぶしは、各項目で最も回答数が多いもの

年代別では、以下のようになっています。

「理想」…全ての年代で「結婚しても、こどもができて、フルタイムで仕事を続ける」が最も多くなっています。特に「30～39歳」が48.1%と最も多くなっています。

「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはフルタイムで仕事をつづける」と「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはパートタイムで働く」を合わせた割合は、全ての年代で40%前後となっていますが、「30～39歳」では、やや低くなっています。

「現実」…全ての年代で「結婚しても、こどもができて、フルタイムで仕事を続ける」が最も多くなっています。特に「20～29歳」が45.6%と最も多くなっています。

「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはフルタイムで仕事をつづける」と「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはパートタイムで働く」を合わせた割合は、理想との乖離が目立ち、特に「20～29歳」と「30～39歳」で顕著となっています。小さなこどもを預けて働くことや、仕事を一時やめて復職することが難しい現実を反映したものと思われる。

※表・グラフは次のページ

(%)

	20～29歳 (N=79)		30～39歳 (N=106)		40～49歳 (N=121)		50～59歳 (N=145)		60～69歳 (N=166)		70歳以上 (N=130)	
	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実
結婚しても、子どもができて、フルタイムで仕事を続ける	38.0	45.6	48.1	44.3	33.1	43.8	38.6	41.4	34.9	30.7	25.4	26.2
結婚しても、子どもができて、パートタイムで仕事を続ける	6.3	1.3	3.8	6.6	2.5	5.8	2.1	3.4	3.6	5.4	2.3	5.4
結婚するまで仕事をもち、結婚後は仕事をもちたくない	3.8	3.8	5.7	6.6	8.3	3.3	3.4	1.4	4.2	5.4	6.2	7.7
子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはフルタイムで仕事をつづける	19.0	3.8	17.9	4.7	21.5	7.4	26.2	9.7	21.7	7.8	24.6	6.9
子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはパートタイムで仕事をつづける	20.3	12.7	17.9	8.5	19.8	27.3	15.2	24.1	18.7	25.3	15.4	15.4
子どもができるまで仕事をもち、子どもができたらず仕事をもちたくない	7.6	1.3	2.8	4.7	9.9	2.5	6.2	2.8	6.0	5.4	5.4	8.5
そのほか	2.5	20.3	2.8	16.0	0.8	5.8	2.1	9.0	1.2	5.4	2.3	5.4
不明・無回答	2.5	11.4	0.9	8.5	4.1	4.1	6.2	8.3	9.6	14.5	18.5	24.6

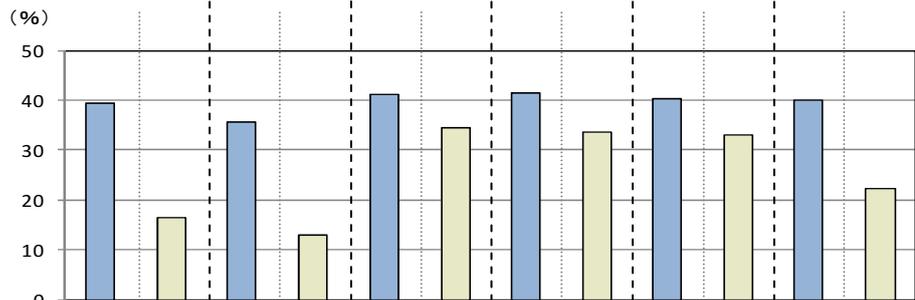
※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多いもの

※「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはフルタイムで仕事をつづける」と

「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとはパートタイムで仕事をつづける」を合わせた割合

(%)

	20～29歳 (N=79)		30～39歳 (N=106)		40～49歳 (N=121)		50～59歳 (N=145)		60～69歳 (N=166)		70歳以上 (N=130)	
	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実
子育ての時期だけ仕事を一時やめ、そのあとは仕事を続ける (パート・フルタイムは問わず)	39.3	16.5	35.8	13.2	41.3	34.7	41.4	33.8	40.4	33.1	40.0	22.3

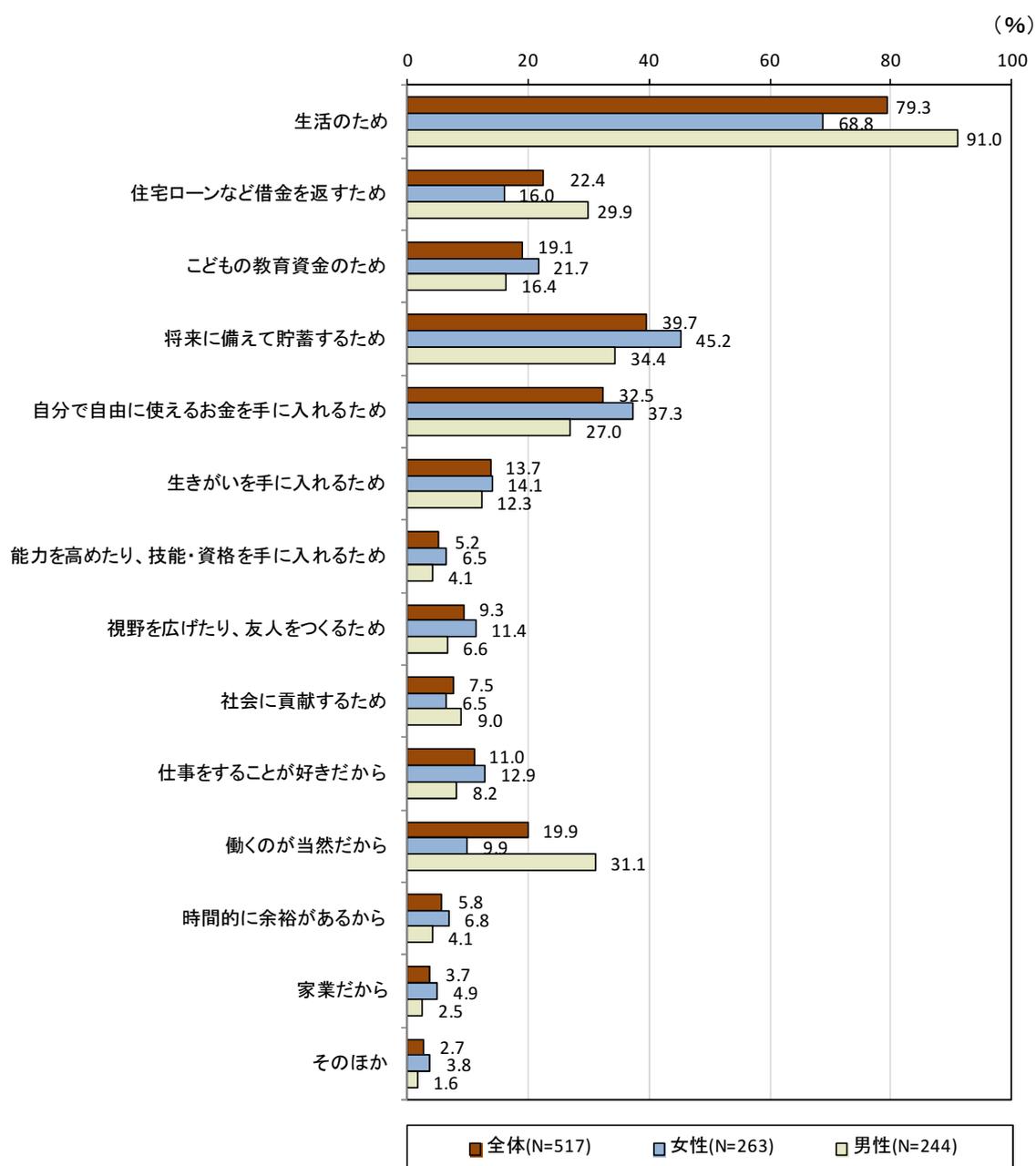


【Q7】現在、働いている人におたずねします。あなたが働いている理由は何ですか。(〇は3つまで)

全体では、「生活のため」が79.3%と最も多く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」39.7%、「自分で自由に使えるお金を手に入れるため」32.5%などとなっています。

女性では、「生活のため」が68.8%と最も多く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」45.2%、「自分で自由に使えるお金を手に入れるため」37.3%などとなっています。男性では、「生活のため」が91.0%と最も多く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」34.4%、「働くのが当然だから」31.1%などとなっています。

「働くのが当然だから」と答えた女性は9.9%で、男性の31.1%と比べて大きな差があります。(「不明・無回答」を除いて集計)



前回調査との比較では、全体で「生活のため」が10.7ポイント増と最も増加し、「時間的余裕があるから」が6.5ポイント減と最も減少しています。経済環境の悪化を反映したものとされます。（「不明・無回答」を除いて集計）

	①今回 (%) N=517	②前回 (%) N=624	経年比較 ①-② (ポイント)
生活のため	79.3	68.6	10.7
住宅ローンなど借金を返すため	22.4	22.9	-0.5
こどもの教育資金のため	19.1	13.0	6.1
将来に備えて貯蓄するため	39.7	30.6	9.1
自分で自由に使えるお金を手に入れるため	32.5	25.8	6.7
生きがいを手に入れるため	13.7	16.7	-3.0
能力を高めたり、技能・資格を手に入れるため	5.2	4.6	0.6
視野を広げたり、友人をつくるため	9.3	8.5	0.8
社会に貢献するため	7.5	8.0	-0.5
仕事をするのが好きだから	11.0	12.7	-1.7
働くのが当然だから	19.9	23.1	-3.2
時間的に余裕があるから	5.8	12.3	-6.5
家業だから	3.7	5.0	-1.3
そのほか	2.7	1.1	1.6

年代別では、全ての年代で「生活のため」が最も多くなっています。「40～49歳」では「住宅ローンなど借金を返すため」と「こどもの教育資金のため」の割合が、他の年代より高くなっています。60歳以上では「視野を広げたり、友人をつくるため」「社会に貢献するため」「仕事をするのが好きだから」の割合が高くなっています。（「不明・無回答」を除いて集計）

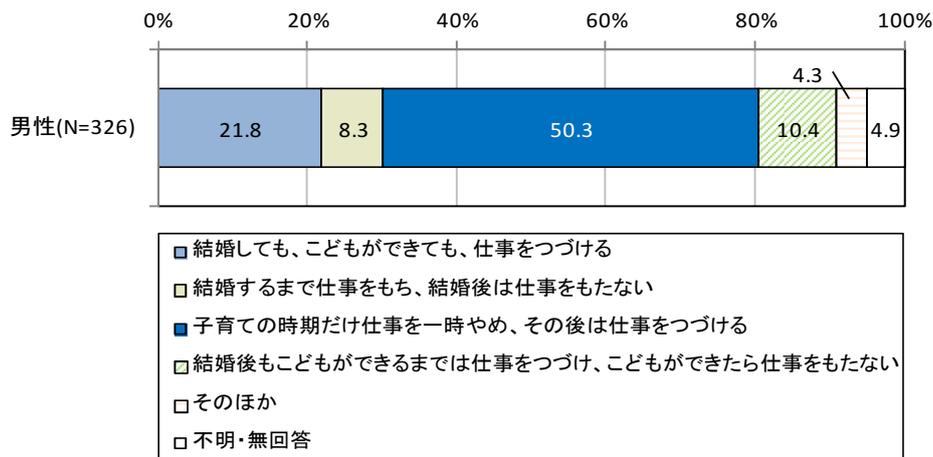
	(%)					
	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)
生活のため	88.3	83.5	86.0	86.1	66.7	46.3
住宅ローンなど借金を返すため	16.7	27.5	36.4	24.3	12.9	4.9
こどもの教育資金のため	16.7	25.3	34.6	21.7	3.2	0.0
将来に備えて貯蓄するため	51.7	45.1	36.4	39.1	40.9	19.5
自分で自由に使えるお金を手に入れるため	53.3	30.8	24.3	34.8	34.4	22.0
生きがいを手に入れるため	8.3	7.7	11.2	11.3	17.2	36.6
能力を高めたり、技能・資格を手に入れるため	5.0	8.8	5.6	4.3	4.3	2.4
視野を広げたり、友人をつくるため	5.0	5.5	9.3	7.8	12.9	19.5
社会に貢献するため	5.0	3.3	5.6	9.6	11.8	9.8
仕事をするのが好きだから	10.0	9.9	4.7	9.6	15.1	24.4
働くのが当然だから	26.7	13.2	22.4	19.1	18.3	24.4
時間的に余裕があるから	0.0	0.0	4.7	5.2	12.9	14.6
家業だから	0.0	2.2	0.9	5.2	3.2	14.6
そのほか	1.7	4.4	0.9	1.7	3.2	7.3

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

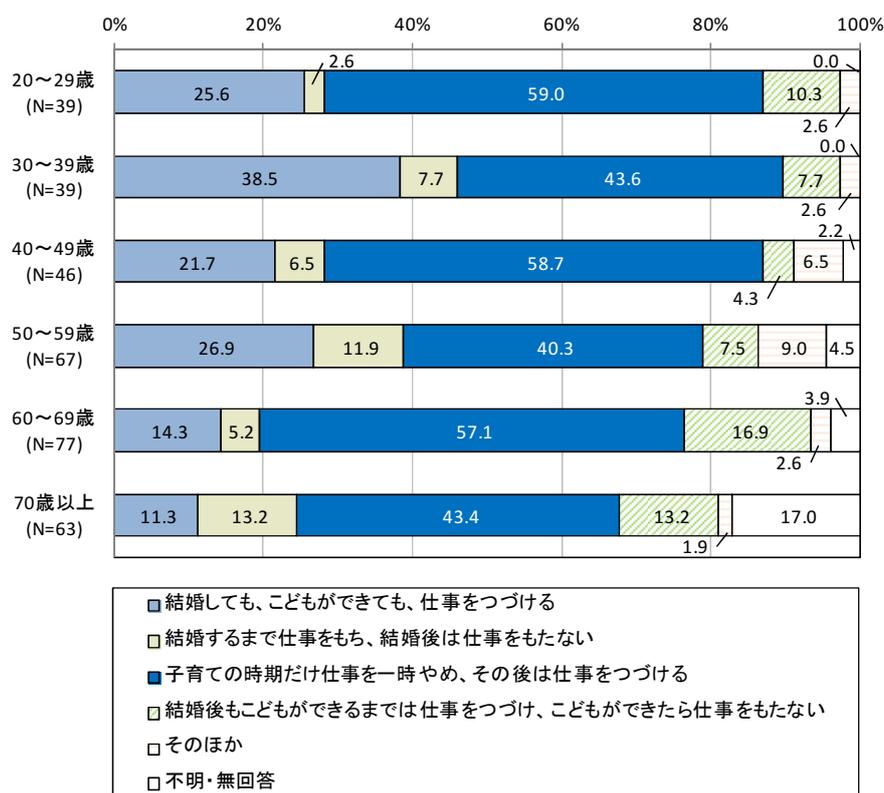
【Q8】男性におたずねします。あなたが理想とする、女性（妻やパートナーとなる女性）の働きかたはどれですか。（○は1つだけ）

「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後は仕事をつづける」が50.3%と最も多く、次いで「結婚しても、こどもができて、仕事（フルタイム、パートタイムを問わず）をつづける」21.8%、「結婚後もこどもができるまでは仕事をつづけ、こどもができたら仕事をもたない」10.4%などとなっています。

「結婚しても、こどもができて、仕事をつづける」と「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後は仕事をつづける」を合わせた割合は72.1%と、7割を超えています。

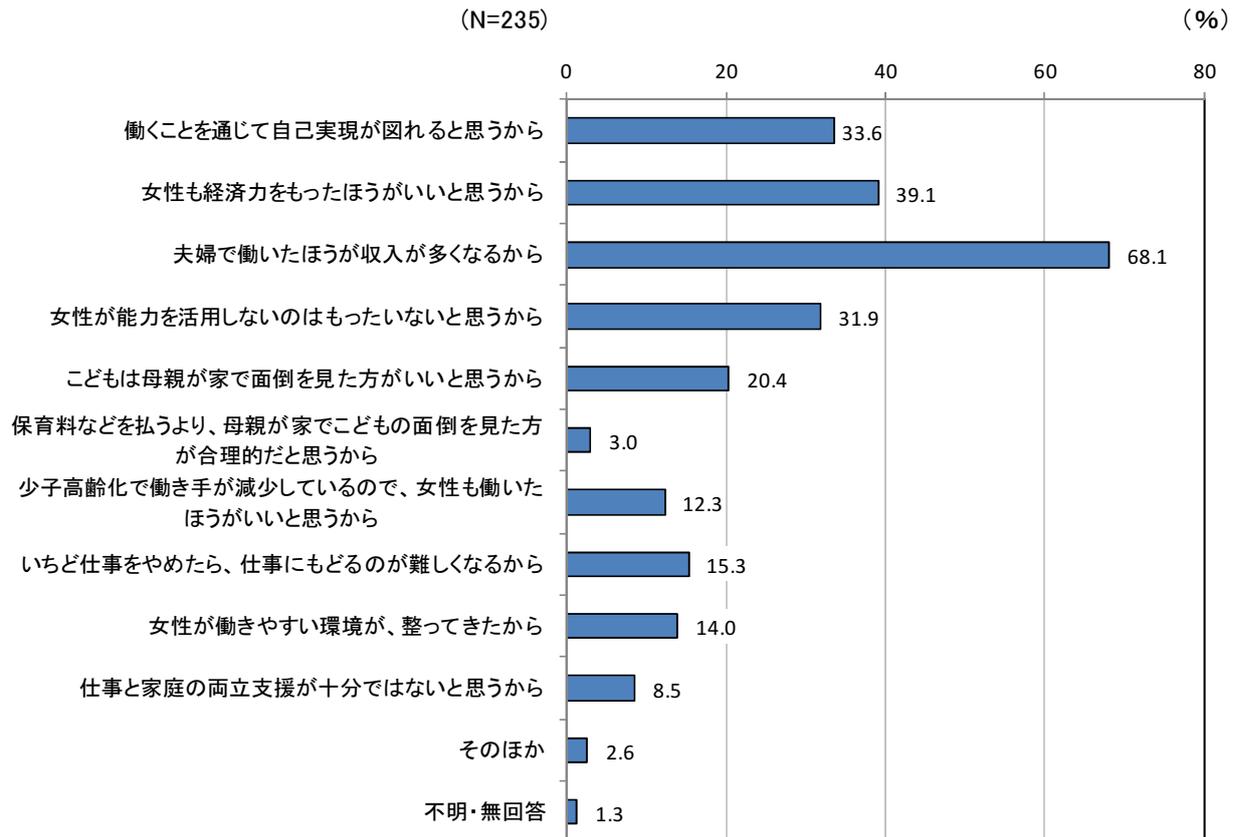


年代別では、全ての年代で「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後は仕事をつづける」が最も多くなっています。「結婚しても、こどもができて、仕事をつづける」の割合が、「30～39歳」で特に高くなっています。



【Q9】Q8で「結婚しても、子どもができて、仕事をつづける」「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後は仕事をつづける」と答えた男性におたずねします。それはなぜですか。(あてはまるもの全てに○)

「夫婦で働いたほうが収入が多くなるから」が68.1%と最も多く、次いで「女性も経済力をもったほうが良いと思うから」39.1%、「働くことを通じて自己実現が図れると思うから」33.6%などとなっています。



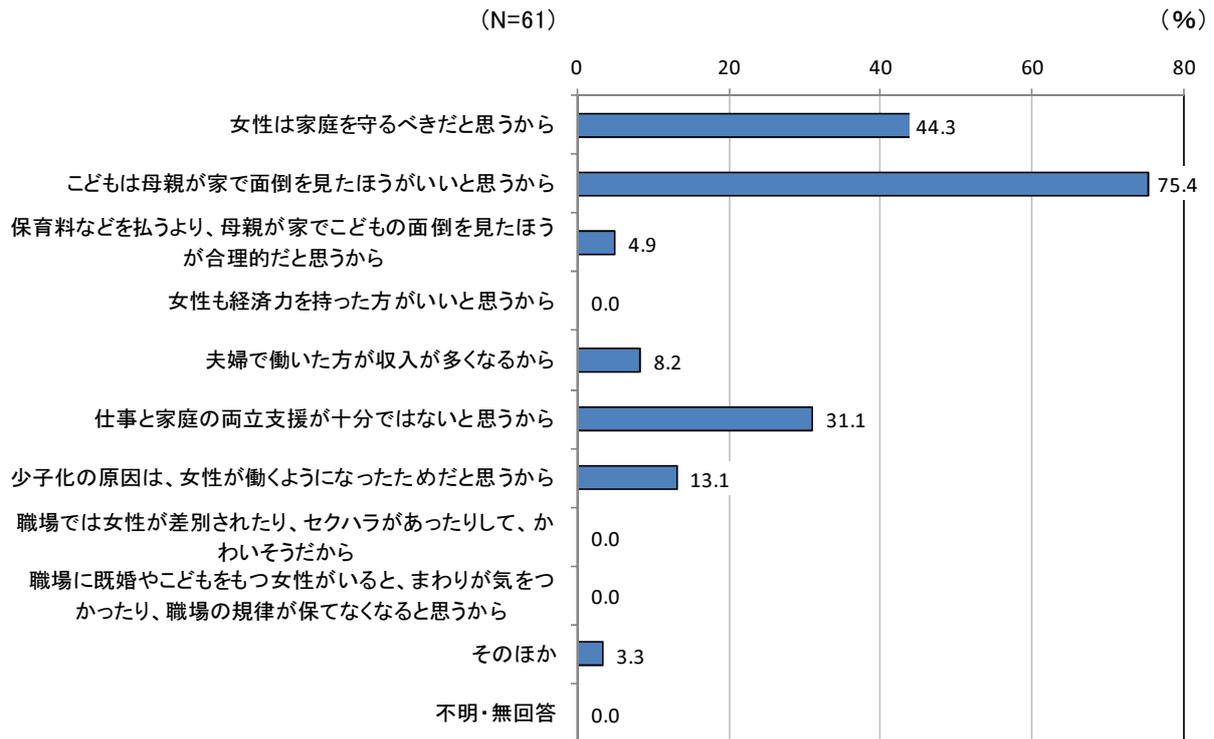
年代別では、「20～29歳」から「60～69歳」で「夫婦で働いたほうが収入が多くなるから」が、「70歳以上」で「女性も経済力をもったほうがいいと思うから」が、それぞれ最も多くなっています。「70歳以上」では「こどもは母親が面倒を見た方がいいと思うから」と「少子高齢化で働き手が不足しているので、女性も働いたほうがいいと思うから」の割合が、他の年代より高くなっています。

	(%)					
	20～29歳 (N=33)	30～39歳 (N=32)	40～49歳 (N=37)	50～59歳 (N=45)	60～69歳 (N=55)	70歳以上 (N=29)
働くことを通じて自己実現が図れると思うから	21.2	31.3	43.2	33.3	32.7	41.4
女性も経済力をもったほうがいいと思うから	21.2	21.9	37.8	57.8	41.8	51.7
夫婦で働いたほうが収入が多くなるから	84.8	84.4	75.7	64.4	60.0	41.4
女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから	27.3	28.1	27.0	40.0	32.7	37.9
こどもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから	12.1	12.5	24.3	24.4	18.2	34.5
保育料などを払うより、母親が家でこどもの面倒を見た方が合理的だと思うから	0.0	6.3	2.7	2.2	3.6	0.0
少子高齢化で働き手が減少しているので、女性も働いたほうがいいと思うから	9.1	6.3	16.2	11.1	7.3	31.0
いちど仕事をやめたら、仕事にもどるのが難しくなるから	15.2	28.1	16.2	22.2	5.5	6.9
女性が働きやすい環境が、整ってきたから	12.1	9.4	10.8	15.6	16.4	13.8
仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから	6.1	15.6	10.8	4.4	3.6	17.2
そのほか	3.0	6.3	0.0	0.0	1.8	6.9
不明・無回答	0.0	0.0	2.7	0.0	3.6	0.0

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

【Q10】 Q8で「結婚するまで仕事をもち、結婚後は仕事をもちない」「結婚後も子どもができるまでは仕事をつづけ、子どもができたら仕事をもちない」と答えた男性におたずねします。それはなぜですか。(あてはまるもの全てに○)

「子どもは母親が家で面倒を見たほうが良いと思うから」が75.4%と最も多く、次いで「女性は家庭を守るべきだと思うから」44.3%、「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」31.1%などとなっています。



年代別では、「20～29歳」で「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」が、「30～39歳」から「70歳以上」までで「こどもは母親が家で面倒を見たほうが良いと思うから」が、それぞれ最も多くなっています。50歳以上では、「女性は家庭を守るべきだと思うから」と「こどもは母親が家で面倒を見たほうが良いと思うから」の数が多い傾向にあります。

(人)

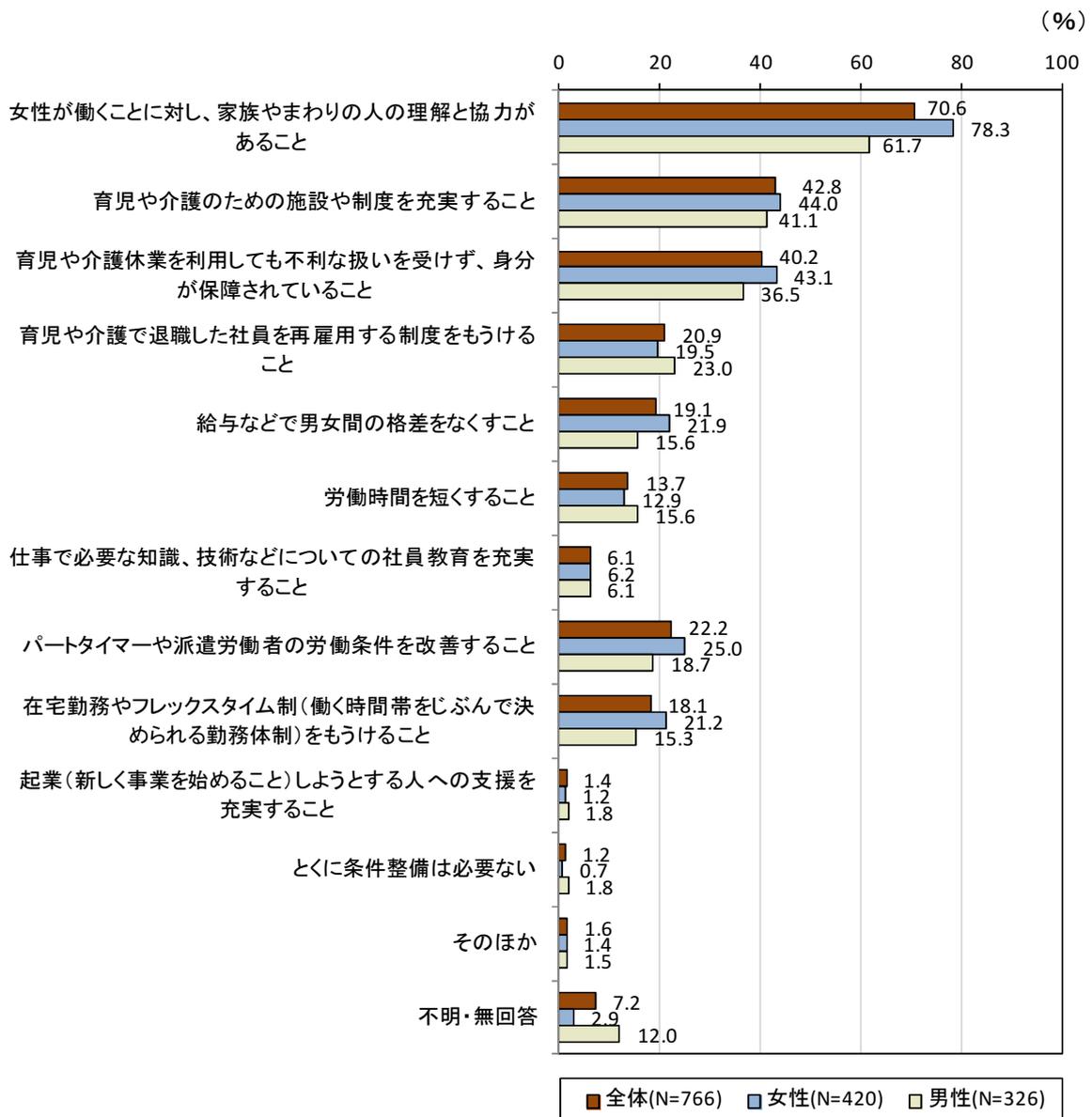
	20～29歳 (N=5)	30～39歳 (N=6)	40～49歳 (N=5)	50～59歳 (N=13)	60～69歳 (N=17)	70歳以上 (N=14)
女性は家庭を守るべきだと思うから	0	2	3	7	8	6
こどもは母親が家で面倒を見たほうが良いと思うから	3	4	4	10	14	10
保育料などを払うより、母親が家でこどもの面倒を見たほうが合理的だと思うから	0	1	1	1	0	0
女性も経済力を持った方が良いと思うから	0	0	0	0	0	0
夫婦で働いた方が収入が多くなるから	0	0	0	2	2	1
仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから	4	3	1	4	2	4
少子化の原因は、女性が働くようになったためだと思うから	0	2	1	1	2	2
職場では女性が差別されたり、セクハラがあったりして、かわいそうだから	0	0	0	0	0	0
職場に既婚やこどもをもつ女性がいると、まわりが気をつかったり、職場の規律が保てなくなると思うから	0	0	0	0	0	0
そのほか	1	1	0	0	0	0
不明・無回答	0	0	0	0	0	0

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目
 ※N数が少ないため構成比(%)ではなく実数(人数)で表記

【Q11】あなたは女性が仕事をつづけていくためには、なにが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

全体では、「女性が働くことに対し、家族やまわりの人の理解と協力があること」が70.6%と最も多く、次いで「育児や介護のための施設や制度を充実すること」42.8%、「育児や介護休業を利用して不利な扱いを受けず、身分が保障されていること」40.2%などとなっています。

女性では、「女性が働くことに対し、家族やまわりの人の理解と協力があること」が78.3%と最も多く、次いで「育児や介護のための施設や制度を充実すること」44.0%、「育児や介護休業を利用して不利な扱いを受けず、身分が保障されていること」43.1%などとなっています。男性では、「女性が働くことに対し、家族やまわりの人の理解と協力があること」が61.7%、次いで「育児や介護のための施設や制度を充実すること」41.1%、「育児や介護休業を利用して不利な扱いを受けず、身分が保障されていること」36.5%などとなっています。



前回調査との比較では、全体で「育児や介護休業を利用して不利益を受けず、身分が保障されていること」が14.2ポイント増と最も増加しており、「育児や介護のための施設や制度を充実すること」が10.0ポイント減と最も減少しています。

育児休業や介護休業をとりにくい、または休業後に復職しにくいといった雇用環境の悪化を反映したものと思われます。

	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
女性が働くことに対し、家族やまわりの人の理解と協力があること	70.6	71.9	-1.3
育児や介護のための施設や制度を充実すること	42.8	52.8	-10.0
育児や介護休業を利用して不利益を受けず、身分が保障されていること	40.2	26.0	14.2
育児や介護で退職した社員を再雇用する制度をもうけること	20.9	26.4	-5.5
給与などで男女間の格差をなくすこと	19.1	15.4	3.7
労働時間を短くすること	13.7	14.6	-0.9
仕事に必要な知識、技術などについての社員教育を充実すること	6.1	6.0	0.1
パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること	22.2	26.9	-4.7
在宅勤務やフレックスタイム制をもうけること	18.1	14.8	3.3
起業しようとする人への支援を充実すること	1.4	2.7	-1.3
とくに条件整備は必要ない	1.2	1.8	-0.6
そのほか	1.6	0.9	0.7

年代別では、全ての年代で「女性が働くことに対し、家族やまわりの人の理解と協力があること」が最も多くなっています。年代による大きな傾向の違いは見られません。

(%)

	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)
女性が働くことに対し、家族やまわりの人の理解と協力があること	50.6	66.0	85.1	73.8	72.3	69.2
育児や介護のための施設や制度を充実すること	41.8	50.0	48.8	41.4	40.4	37.7
育児や介護休業を利用しても不利な扱いを受けず、身分が保障されていること	38.0	43.4	43.0	42.8	41.0	32.3
育児や介護で退職した社員を再雇用する制度をもうけること	26.6	18.9	15.7	19.3	22.3	24.6
給与などで男女間の格差をなくすこと	21.5	18.9	19.8	20.7	19.9	13.8
労働時間を短くすること	15.2	22.6	9.1	11.0	13.9	13.1
仕事に必要な知識、技術などについての社員教育を充実すること	6.3	3.8	3.3	6.9	7.2	7.7
パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること	22.8	15.1	23.1	22.8	25.3	21.5
在宅勤務やフレックスタイム制(働く時間帯をじぶんで決められる勤務体制)をもうけること	16.5	22.6	22.3	17.2	17.5	16.2
起業(新しく事業を始めること)しようとする人への支援を充実すること	0.0	1.9	1.7	2.1	1.2	1.5
とくに条件整備は必要ない	5.1	0.0	0.8	1.4	0.6	0.8
そのほか	1.3	0.9	0.8	2.1	0.6	3.8
不明・無回答	8.9	6.6	4.1	4.8	5.4	13.1

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

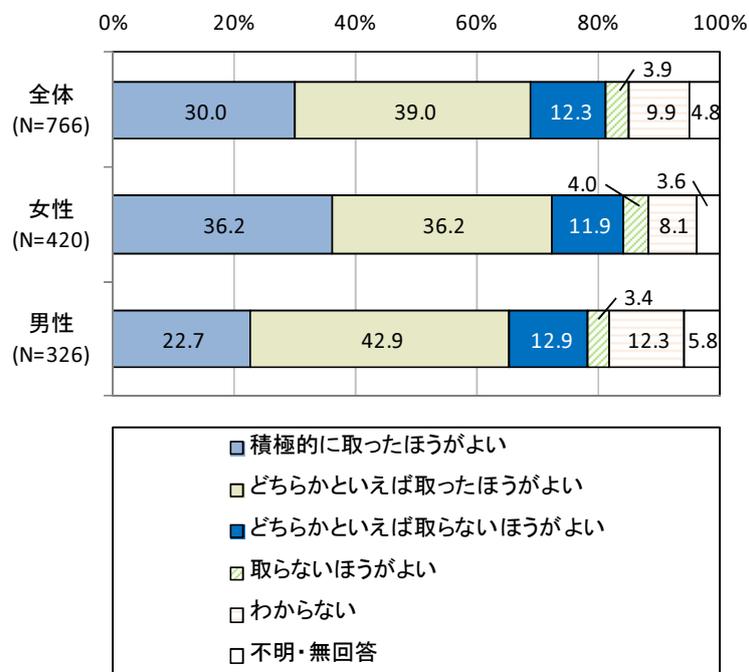
**【Q12】あなたは男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どう思いますか。
(それぞれ○は1つだけ)**

〈育児休業〉

全体では、「どちらかといえば取ったほうがよい」が39.0%と最も多く、次いで「積極的に取ったほうがよい」30.0%、「どちらかといえば取らないほうがよい」12.3%などとなっています。

女性では、「積極的に取ったほうがよい」と「どちらかといえば取ったほうがよい」が36.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば取らないほうがよい」11.9%などとなっています。男性では、「どちらかといえば取ったほうがよい」が42.9%と最も多く、次いで「積極的に取ったほうがよい」22.7%、「どちらかといえば取らないほうがよい」12.9%などとなっています。

「積極的に取ったほうがよい」は、男女間の差が大きくなっています。

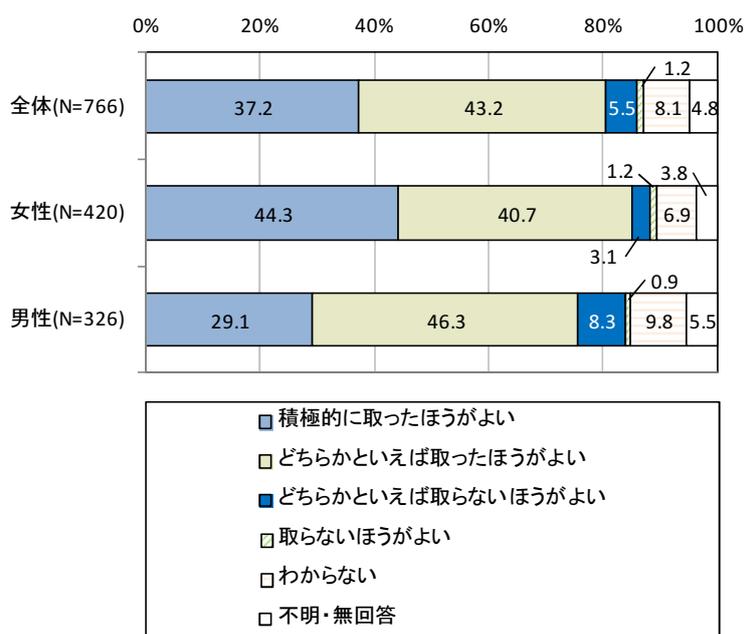


〈介護休業〉

全体では、「どちらかといえば取ったほうがよい」が 43.2%と最も多く、次いで「積極的に取ったほうがよい」37.2%、「わからない」8.1%などとなっています。

女性では、「積極的に取ったほうがよい」が 44.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば取ったほうがよい」40.7%、「わからない」6.9%などとなっています。男性では、「どちらかといえば取ったほうがよい」が 46.3%と最も多く、次いで「積極的に取ったほうがよい」29.1%、「わからない」9.8%などとなっています。

「積極的に取ったほうがよい」は、男女間の差が大きくなっています。



前回調査との比較では、以下のようになっています。

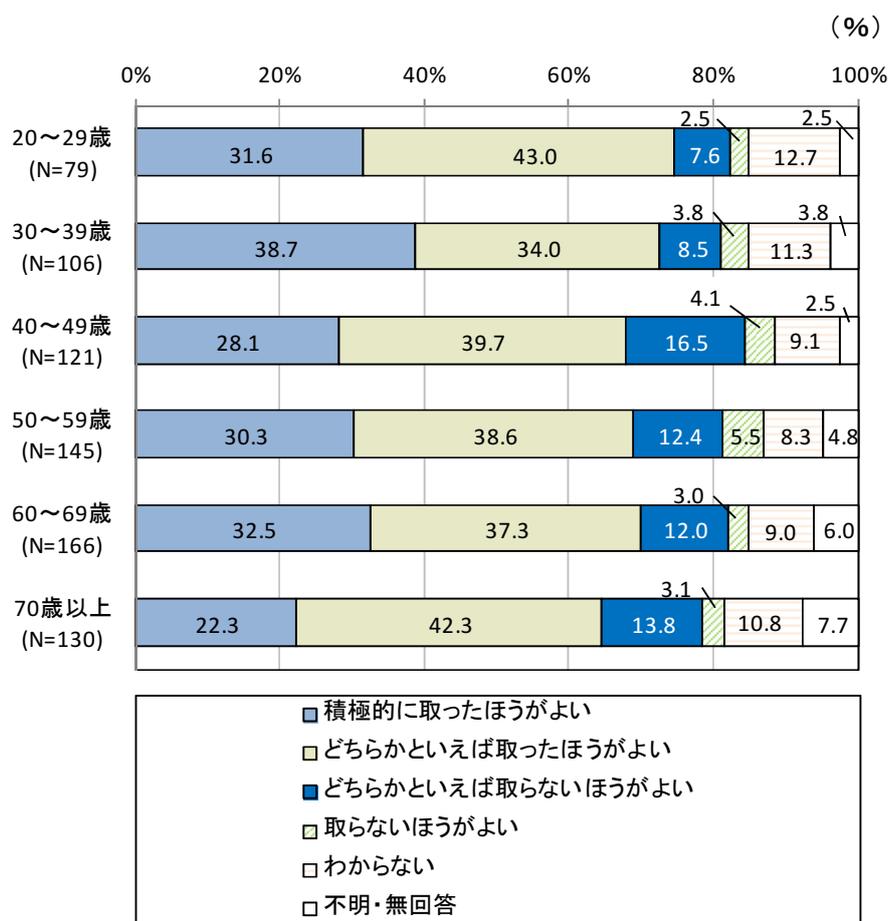
〈育児休業〉…「積極的に取ったほうがよい」が 2.1 ポイント増加しており、「どちらかといえば取ったほうがよい」が 5.5 ポイント減と最も減少しています。

〈介護休業〉…「積極的に取ったほうがよい」が 3.6 ポイント増と最も増加しており、「どちらかといえば取らないほうがよい」が 5.7 ポイント減と最も減少しています。

	育児休業			介護休業		
	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
積極的に取ったほうがよい	30.0	27.9	2.1	37.2	33.6	3.6
どちらかといえば取ったほうがよい	39.0	44.5	-5.5	43.2	48.9	-5.7
どちらかといえば取らないほうがよい	12.3	15.6	-3.3	5.5	9.5	-4.0
取らないほうがよい	3.9	5.6	-1.7	1.2	2.6	-1.4

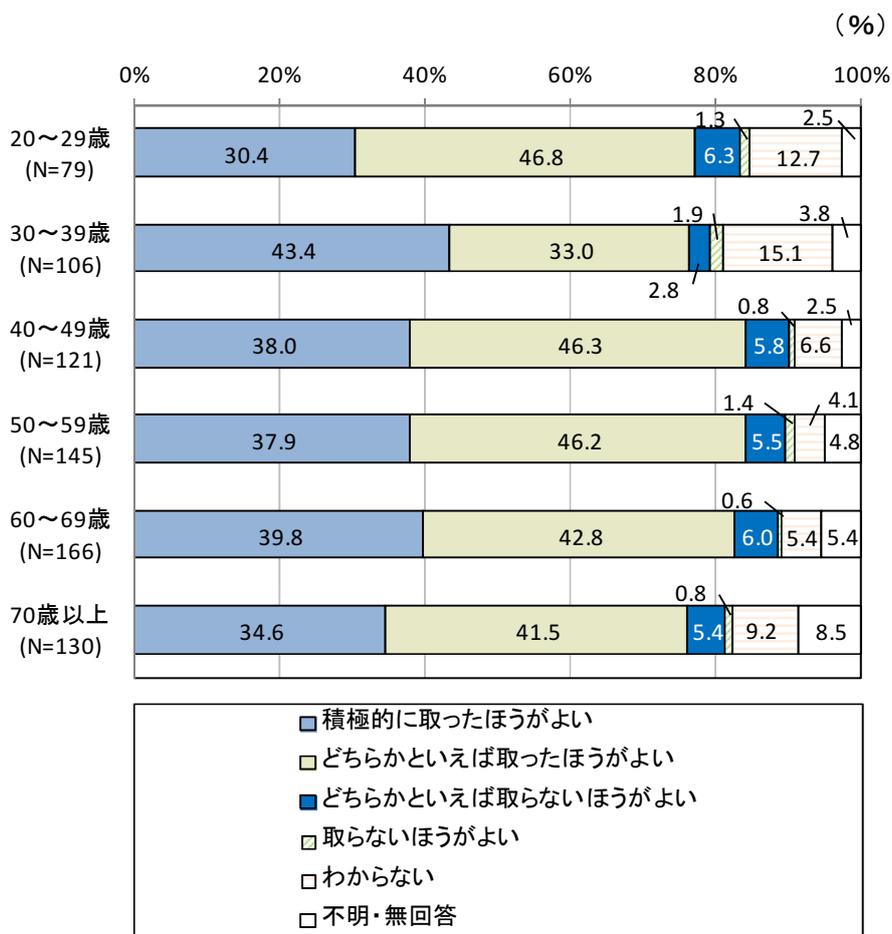
〈育児休業〉

年代別では、「20～29歳」と「40～49歳」から「70歳以上」までで「どちらかといえば取ったほうがよい」が、「30～39歳」までで「積極的に取ったほうがよい」が、それぞれ最も多くなっています。年代による大きな傾向の違いは見られませんが、「どちらかといえば取らないほうがよい」と「取らないほうがよい」を合わせた割合が、「40～49歳」でやや高めとなっています。



〈介護休業〉

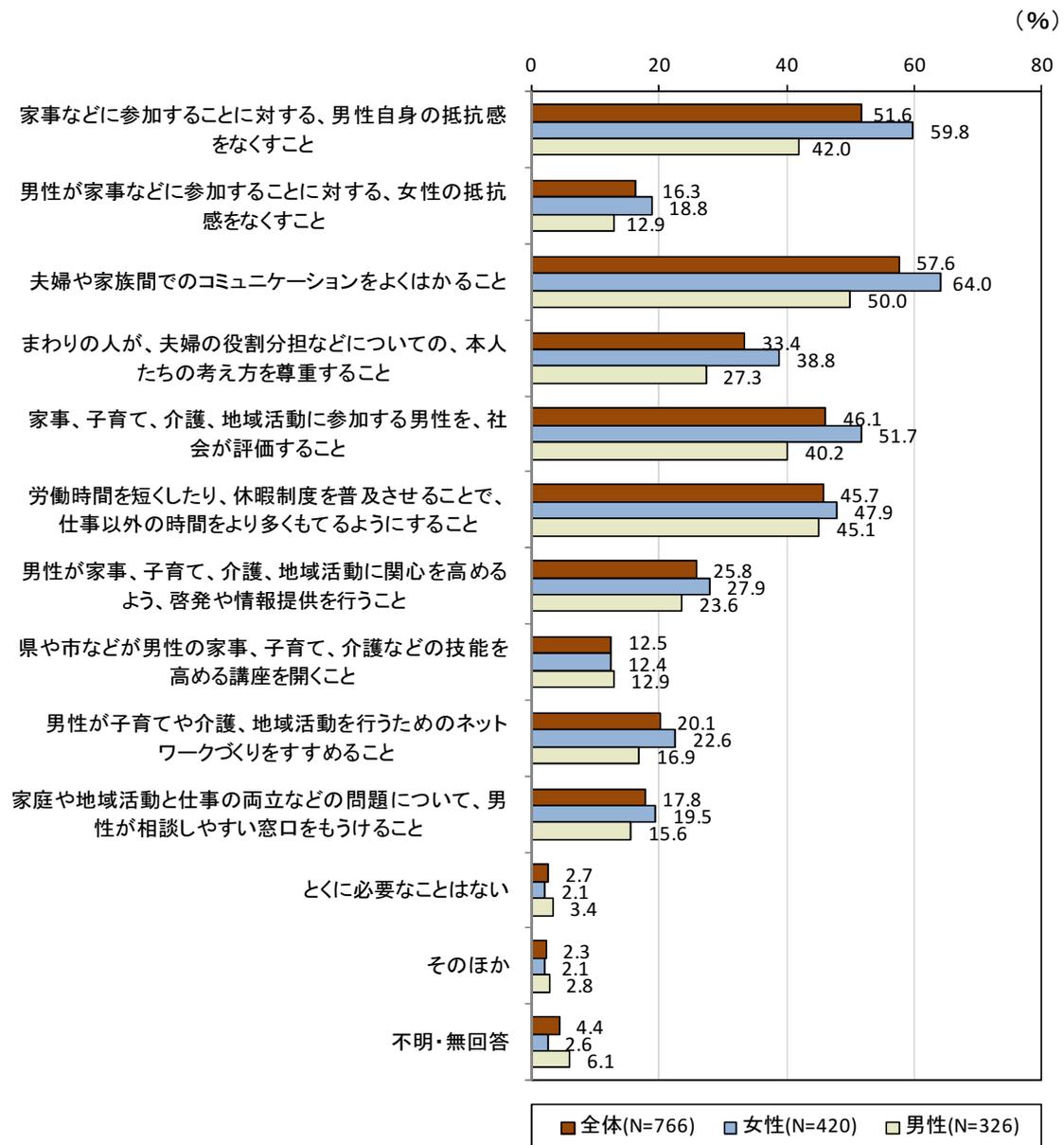
年代別では、「20～29歳」と「40～49歳」から「70歳以上」までで「どちらかといえば取ったほうがよい」が、「30～39歳」までで「積極的に取ったほうがよい」が、それぞれ最も多くなっています。年代別による大きな傾向の違いは見られませんが、「どちらかといえば取らないほうがよい」と「取らないほうがよい」を合わせた割合が、「20～29歳」でやや高くなっています。



**【Q13】 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、
なにが必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)**

全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が 57.6%と最も多く、次いで「家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」51.6%、「家事、子育て、介護、地域活動に参加する男性を、社会が評価すること」46.1%などとなっています。

女性では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が 64.0%と最も多く、次いで「家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」59.8、「家事、子育て、介護、地域活動に参加する男性を、社会が評価すること」51.7%などとなっています。男性では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が 50.0%と最も多く、次いで「労働時間を短くしたり、休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」45.1%、「家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」42.0%などとなっています。



年代別では、「20～29歳」と「50～59歳」から「70歳以上」までで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が、「30～39歳」で「労働時間を短くしたり、休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」が、「40～49歳」で「家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」が、それぞれ最も多くなっています。

(%)

	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)
家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと	43.0	51.9	62.0	51.7	50.6	50.0
男性が家事などに参加することに対する、女性の抵抗感をなくすこと	17.7	8.5	22.3	17.9	13.9	18.5
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	60.8	53.8	50.4	57.2	62.0	60.0
まわりの人が、夫婦の役割分担などについての、本人たちの考え方を尊重すること	38.0	35.8	33.9	34.5	31.3	30.8
家事、子育て、介護、地域活動に参加する男性を、社会が評価すること	41.8	49.1	51.2	46.9	47.0	42.3
労働時間を短くしたり、休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること	46.8	60.4	56.2	44.8	41.6	33.1
男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう、啓発や情報提供を行うこと	21.5	17.0	24.8	27.6	34.9	23.8
県や市などが男性の家事、子育て、介護などの技能を高める講座を開くこと	11.4	13.2	8.3	9.0	16.3	14.6
男性が子育てや介護、地域活動を行うためのネットワークづくりをすすめること	22.8	17.0	18.2	28.3	19.3	15.4
家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口をもうけること	17.7	15.1	18.2	17.9	16.9	20.0
とくに必要なことはない	5.1	2.8	0.8	2.1	3.6	3.1
そのほか	0.0	4.7	3.3	2.1	1.2	3.1
不明・無回答	2.5	3.8	1.7	3.4	4.2	9.2

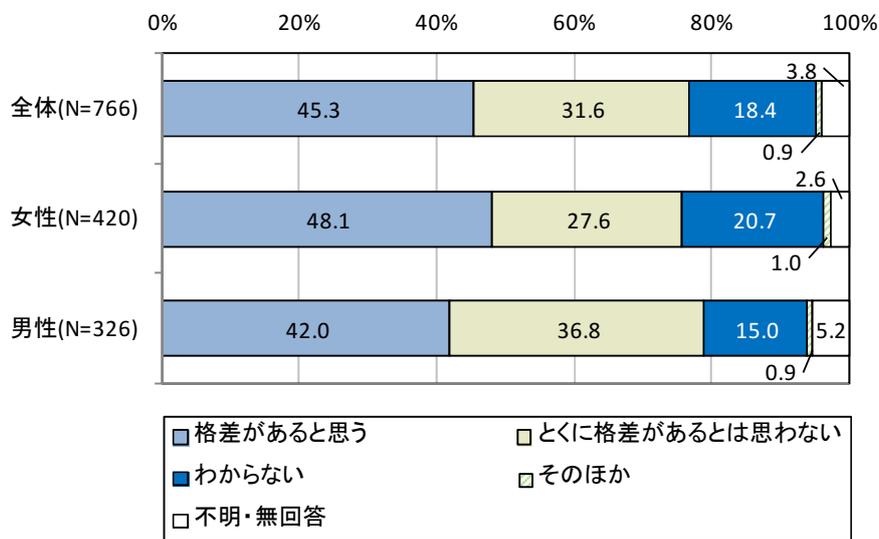
※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

【Q14】あなたは仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ、不当に格差があると思いますか。(〇は1つだけ)

全体では、「格差があると思う」が45.3%と最も多く、次いで「とくに格差があるとは思わない」31.6%、「わからない」18.4%などとなっています。

女性では、「格差があると思う」が48.1%と最も多く、次いで「とくに格差があるとは思わない」27.6%、「わからない」20.7%などとなっています。男性では、「格差があると思う」が42.0%と最も多く、次いで「とくに格差があるとは思わない」36.8%、「わからない」15.0%などとなっています。

「とくに格差があるとは思わない」は男性が女性より9.2ポイント上回っており、女性との意識の差が表れています。

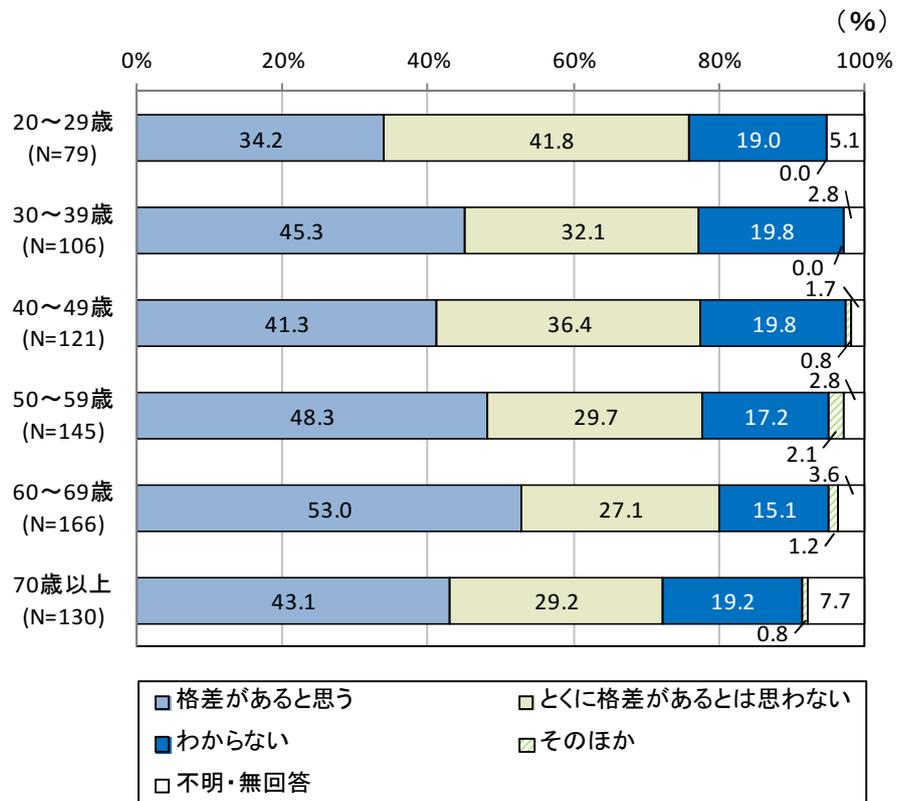


前回調査との比較では、全体で「わからない」が16.0ポイント増加し、「とくに格差があるとは思わない」が13.6ポイント減と最も減少しています。

「格差があると思う」と「とくに格差があるとは思わない」がともに減少しているものの、「とくに格差があるとは思わない」のほうがより大きく減少しています。

	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=624	経年比較 ①-② (ポイント)
格差があると思う	45.3	51.5	-6.2
とくに格差があるとは思わない	31.6	45.2	-13.6
わからない	18.4	2.4	16.0
そのほか	0.9	1.3	-0.4

年代別では、「20～29歳」で「とくに格差があるとは思わない」が、「30～39歳」から「70歳以上」までで「格差があると思う」が、それぞれ最も多くなっています。「格差があると思う」の割合が、「20～29歳」で最も低くなっています。

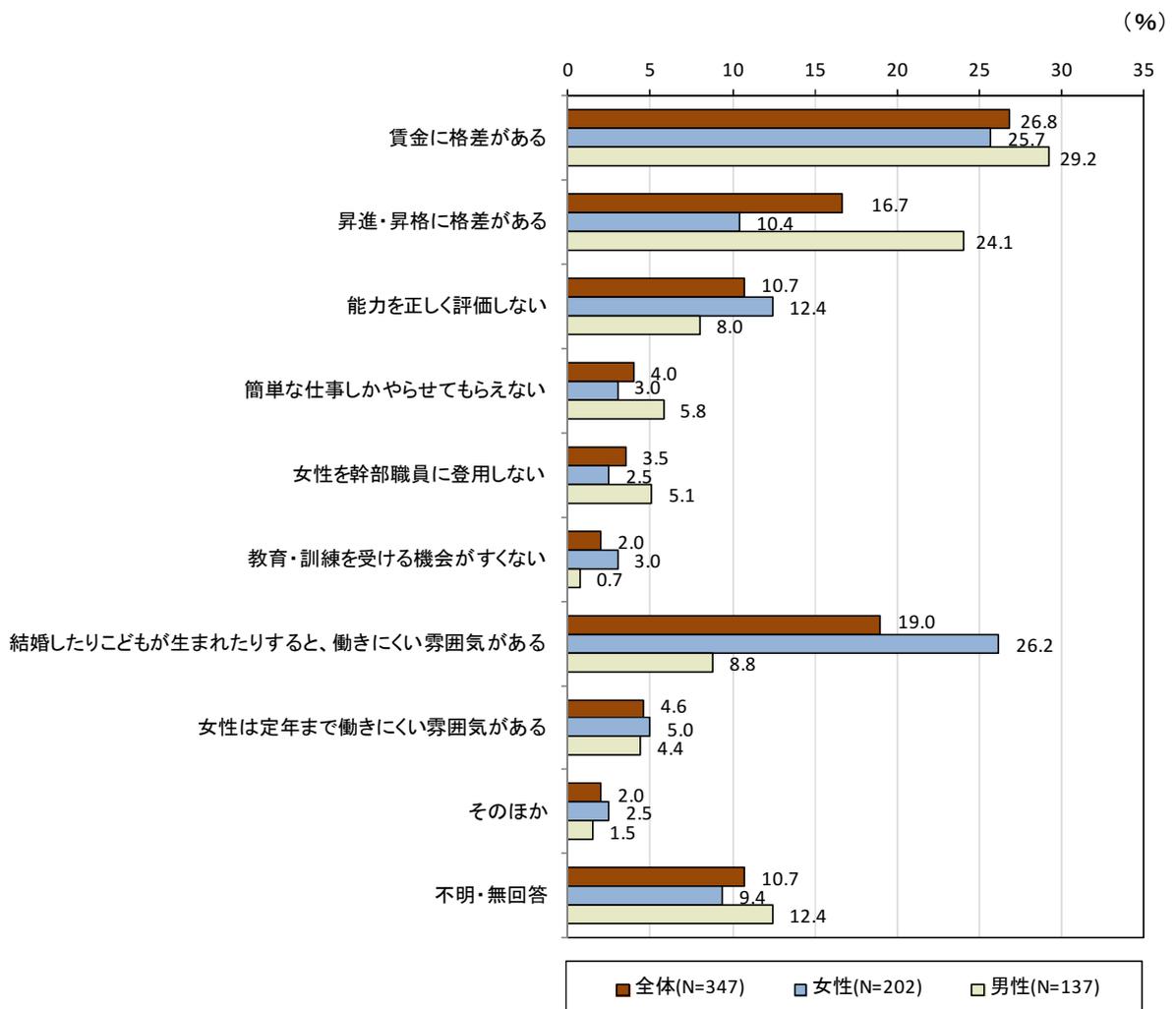


【Q15】 Q14で「格差があると思う」と答えた人におたずねします。具体的にどのような格差がありますか。(〇は1つだけ)

全体では、「賃金に格差がある」が26.8%と最も多く、次いで「結婚したり子どもが生まれたりすると、働きにくい雰囲気がある」19.0%、「昇進・昇格に格差がある」16.7%などとなっています。

女性では、「結婚したり子どもが生まれたりすると、働きにくい雰囲気がある」が26.2%と最も多く、次いで「賃金に格差がある」25.7%、「能力を正しく評価しない」12.4%などとなっています。男性では、「賃金に格差がある」が29.2%と最も多く、次いで「昇進・昇格に格差がある」24.1%、「結婚したり子どもが生まれたりすると、働きにくい雰囲気がある」8.8%などとなっています。

全体的に男女の意識の差が大きく、特に「昇進・昇給に格差がある」と「結婚したり子どもが生まれたりすると、働きにくい雰囲気がある」で顕著となっています。「(「不明・無回答」は除く)



前回調査との比較では、全体で「昇進・昇格に格差がある」が 0.1 ポイント増加し、「賃金に格差がある」が 11.8 ポイント減と最も減少しています。

	①今回 (%) N=347	②前回 (%) N=319	経年比較 ①-② (ポイント)
賃金に格差がある	26.8	38.6	-11.8
昇進・昇格に格差がある	16.7	16.6	0.1
能力を正しく評価しない	10.7	12.2	-1.5
簡単な仕事しかやらせてもらえない	4.0	5.3	-1.3
女性を幹部職員に登用しない	3.5	7.2	-3.7
教育・訓練を受ける機会がすくない	2.0	2.5	-0.5
結婚したり子どもが生まれたりすると、働きにくい雰囲気がある	19.0	19.4	-0.4
女性は定年まで働きにくい雰囲気がある	4.6	6.6	-2.0

(簡単な仕事しかやらせてもらえない⇒前回：補助的な仕事しかやらせてもらえない)

年代別では、「20～29歳」と「40～49歳」から「70歳以上」までで「賃金に格差がある」が、「30～39歳」で「結婚したり子どもが生まれたりすると、働きにくい雰囲気がある」が、それぞれ最も多くなっています。年代が上がるほど、「能力を正しく評価しない」の割合が増加し、「結婚したり子どもが生まれたりすると、働きにくい雰囲気がある」の割合が減少する傾向にあります。

	(%)					
	20～29歳 (N=27)	30～39歳 (N=48)	40～49歳 (N=50)	50～59歳 (N=70)	60～69歳 (N=88)	70歳以上 (N=56)
賃金に格差がある	29.6	18.8	26.0	25.7	30.7	28.6
昇進・昇格に格差がある	11.1	8.3	16.0	14.3	22.7	17.9
能力を正しく評価しない	3.7	6.3	10.0	11.4	11.4	17.9
簡単な仕事しかやらせてもらえない	0.0	4.2	6.0	7.1	2.3	3.6
女性を幹部職員に登用しない	7.4	4.2	2.0	5.7	1.1	3.6
教育・訓練を受ける機会がすくない	0.0	2.1	0.0	2.9	1.1	3.6
結婚したり子どもが生まれたりすると、働きにくい雰囲気がある	25.9	33.3	24.0	20.0	12.5	7.1
女性は定年まで働きにくい雰囲気がある	0.0	6.3	2.0	2.9	9.1	3.6
そのほか	0.0	2.1	6.0	0.0	1.1	3.6
不明・無回答	22.2	14.6	8.0	10.0	8.0	10.7

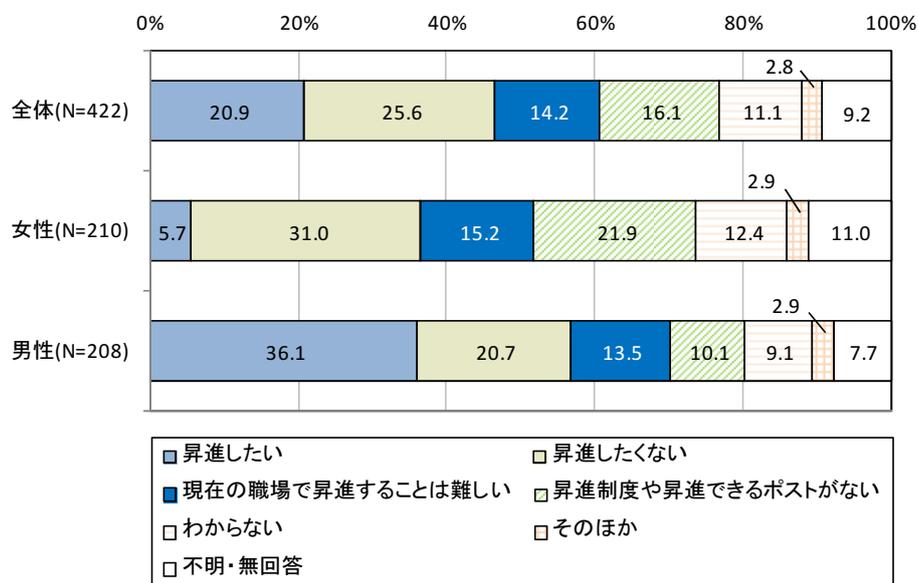
※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

【Q16】 正社員・正職員、パート、派遣社員の人におたずねします。あなたは、いまの職場で昇進したいと思いますか。(○は1つだけ)

全体では、「昇進したくない」が25.6%と最も多く、次いで「昇進したい」20.9%、「昇進制度や昇進できるポストがない」16.1%などとなっています。

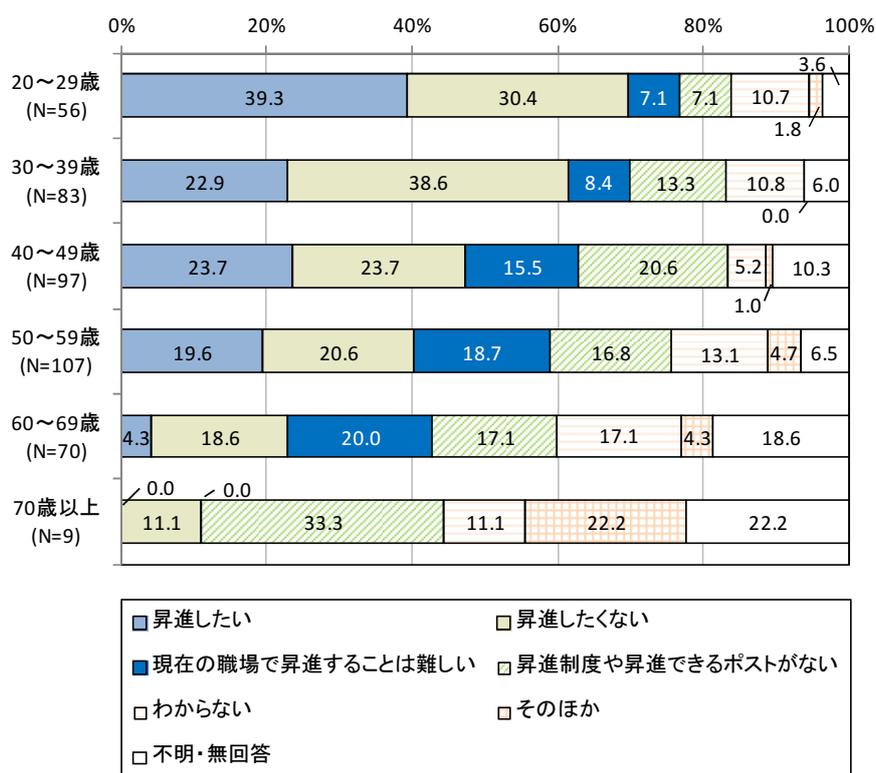
女性では、「昇進したくない」が31.0%と最も多く、次いで「昇進制度や昇進できるポストがない」21.9%、「現在の職場で昇進することは難しい」15.2%などとなっています。男性では、「昇進したい」が36.1%と最も多く、次いで「昇進したくない」20.7%、「現在の職場で昇進することは難しい」13.5%などとなっています。

「昇進したい」は女性で5.7%、男性で36.1%と、男女間の差が顕著となっています。「現在の職場で昇進することは難しい」と「昇進制度や昇進できるポストがない」を合わせた、いわば外的要因をあげた人は女性で37.1%、男性で23.6%と、男女間の差が大きくなっています。



年代別では、「20～29歳」で「昇進したい」が、「30～39歳」と「50～59歳」で「昇進したくない」が、「40～49歳」で「昇進したい」と「昇進したくない」が、「60～69歳」で「現在の職場で昇進することは難しい」が、「70歳以上」で「昇進制度や昇進できるポストがない」が、それぞれ最も多くなっています。年代が上がるほど「昇進したい」の割合が減少し、「昇進したくない」は「30～39歳」でいったん増加した後、減少に転じています。

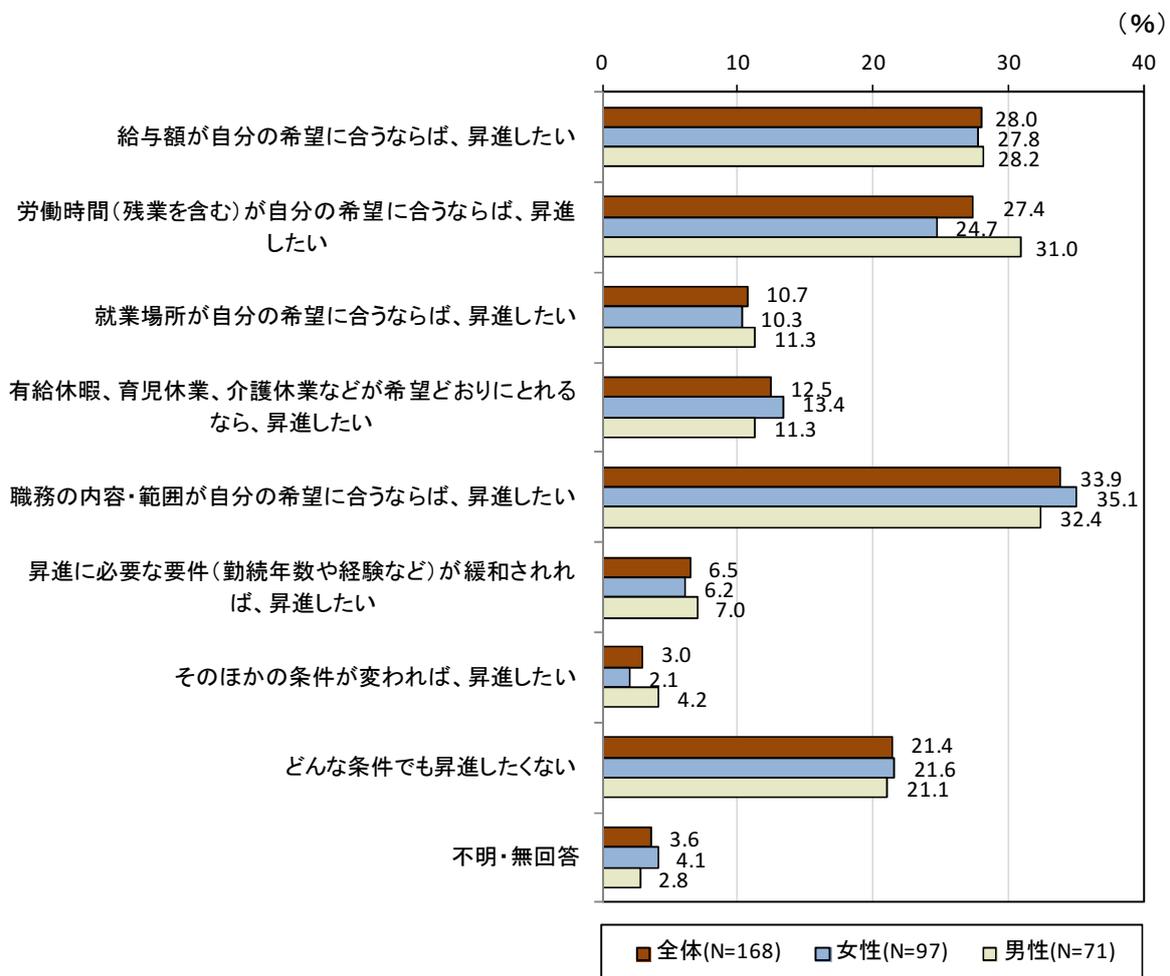
「現在の職場で昇進することは難しい」と「昇進制度や昇進できるポストがない」を合わせた、いわば外的要因をあげた人は「70歳以上」を除き、年代が上がるほど増加する傾向にあります。



**【Q17】 Q16 で「昇進したくない」「現在の職場で昇進することは難しい」を選んだ人におたずねします。以下の場合、あなたはいまの職場で昇進したいと思いますか。
(○は2つまで)**

全体では、「職務の内容・範囲が自分の希望に合うならば、昇進したい」が 33.9%と最も多く、次いで「給与額が自分の希望に合うならば、昇進したい」28.0%、「労働時間（残業を含む）が自分の希望に合うならば、昇進したい」27.4%などとなっている。

女性では、「職務の内容・範囲が自分の希望に合うならば、昇進したい」が 35.1%と最も多く、次いで「給与額が自分の希望に合うならば、昇進したい」27.8%、「労働時間が自分の希望に合うならば、昇進したい」24.7%などとなっています。男性では、「職務の内容・範囲が自分の希望に合うならば、昇進したい」が 32.4%と最も多く、次いで「労働時間が自分の希望に合うならば、昇進したい」31.0%、「給与額が自分の希望に合うならば、昇進したい」28.2%などとなっています。



年代別では、「20～29歳」と「40～49歳」で「給与額が自分の希望に合うならば、昇進したい」が、「30～39歳」で「労働時間が自分の希望に合うならば、昇進したい」が、「50～59歳」と「60～69歳」で「職務の内容・範囲が自分の希望に合うならば、昇進したい」が、「70歳以上」で「どんな条件でも昇進したくない」が、それぞれ最も多くなっています。「30～39歳」で、「労働時間が自分の希望に合うならば、昇進したい」と「有給休暇、育児休業、介護休業などが希望どおりにとれるなら、昇進したい」の割合が他の年代より高くなっています。

(※「70歳以上」の回答者数は1人)

	(%)					
	20～29歳 (N=21)	30～39歳 (N=39)	40～49歳 (N=38)	50～59歳 (N=42)	60～69歳 (N=27)	70歳以上 (N=1)
給与額が自分の希望に合うならば、昇進したい	42.9	17.9	34.2	23.8	29.6	0.0
労働時間が自分の希望に合うならば、昇進したい	33.3	41.0	21.1	21.4	22.2	0.0
就業場所が自分の希望に合うならば、昇進したい	14.3	17.9	2.6	11.9	7.4	0.0
有給休暇、育児休業、介護休業などが希望どおりにとれるなら、昇進したい	0.0	23.1	13.2	11.9	7.4	0.0
職務の内容・範囲が自分の希望に合うならば、昇進したい	38.1	38.5	28.9	31.0	37.0	0.0
昇進に必要な要件が緩和されれば、昇進したい	0.0	2.6	13.2	4.8	11.1	0.0
そのほかの条件が変われば、昇進したい	4.8	5.1	0.0	4.8	0.0	0.0
どんな条件でも昇進したくない	28.6	10.3	23.7	23.8	22.2	100.0
不明・無回答	0.0	0.0	0.0	9.5	7.4	0.0

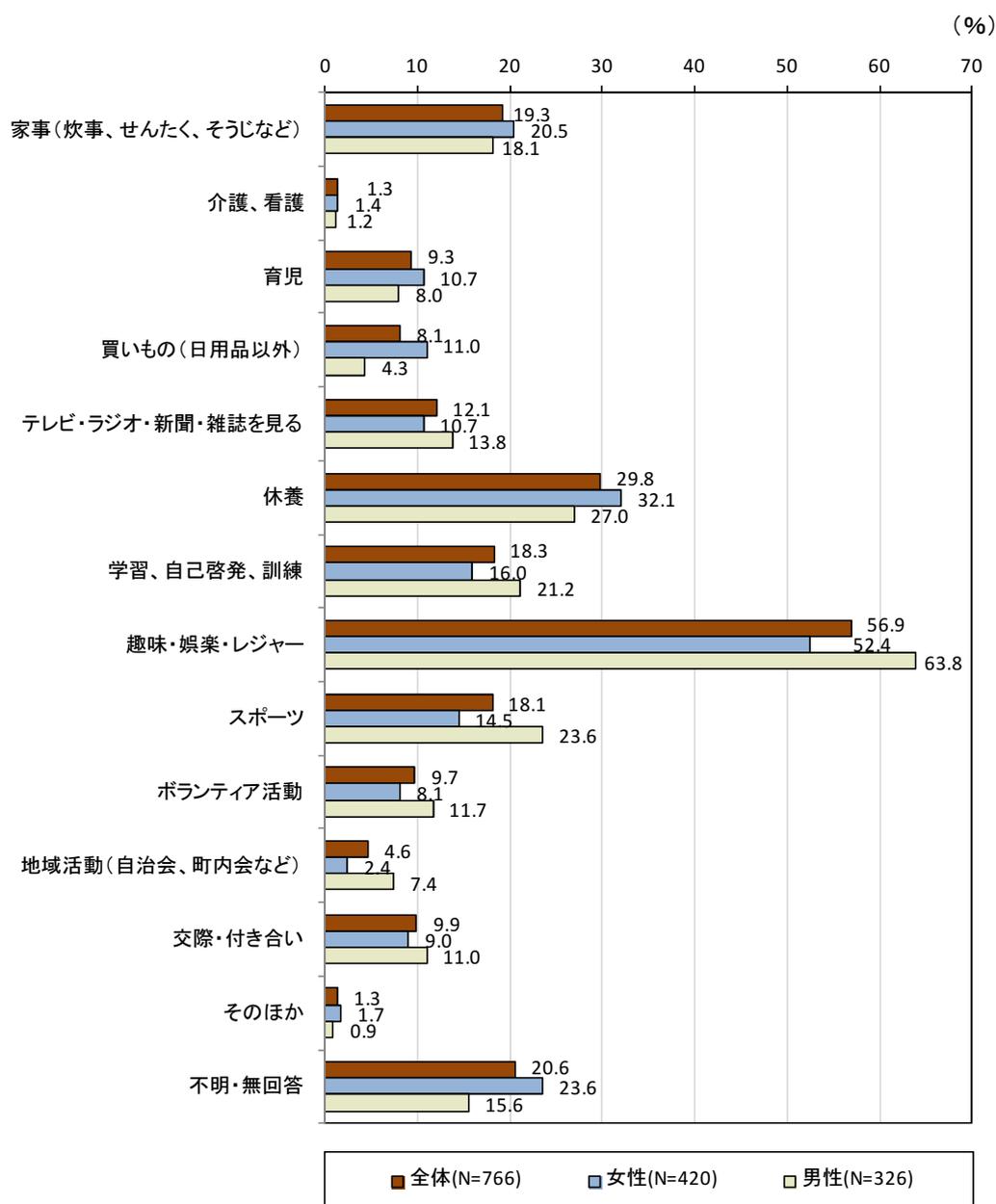
※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

4. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

【Q18】 就業時間が今より短くなったら、なにがしたいですか。（〇は3つまで）

全体では、「趣味・娯楽・レジャー」が56.9%と最も多く、次いで「休養」29.8%、「家事（炊事、せんたく、そうじなど）」19.3%などとなっています。

女性では、「趣味・娯楽・レジャー」が52.4%と最も多く、次いで「休養」32.1%、「家事」20.5%などとなっています。男性では、「趣味・娯楽・レジャー」が63.8%と最も多く、次いで「休養」27.0%、「スポーツ」23.6%などとなっています。（「不明・無回答」は除く）



年代別では、全ての年代で「趣味・娯楽・レジャー」が最も多くなっています。「20～29歳」で「交際・付き合い」、「30～39歳」で「育児」、「40～49歳」で「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌を見る」、「50～59歳」で「学習・自己啓発・訓練」、「60～69歳」で「ボランティア活動」と「地域活動」の割合が、それぞれ他の年代より高くなっています。

(%)

	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)
家事	31.6	33.0	30.6	15.2	8.4	10.0
介護、看護	0.0	0.9	2.5	1.4	0.6	2.3
育児	24.1	31.1	9.9	2.8	0.6	1.5
買いもの	10.1	11.3	10.7	10.3	3.6	4.6
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌を見る	10.1	10.4	20.7	13.1	12.0	5.4
休養	34.2	40.6	40.5	35.9	21.7	12.3
学習、自己啓発、訓練	19.0	19.8	19.0	24.8	17.5	10.0
趣味・娯楽・レジャー	64.6	56.6	68.6	71.0	53.0	32.3
スポーツ	22.8	16.0	24.8	22.8	14.5	12.3
ボランティア活動	3.8	2.8	6.6	11.7	16.3	10.8
地域活動	1.3	0.0	1.7	4.1	9.0	7.7
交際・付き合い	19.0	15.1	11.6	7.6	6.0	6.2
そのほか	2.5	0.0	3.3	0.7	0.6	1.5
不明・無回答	6.3	9.4	4.1	9.0	31.3	50.0

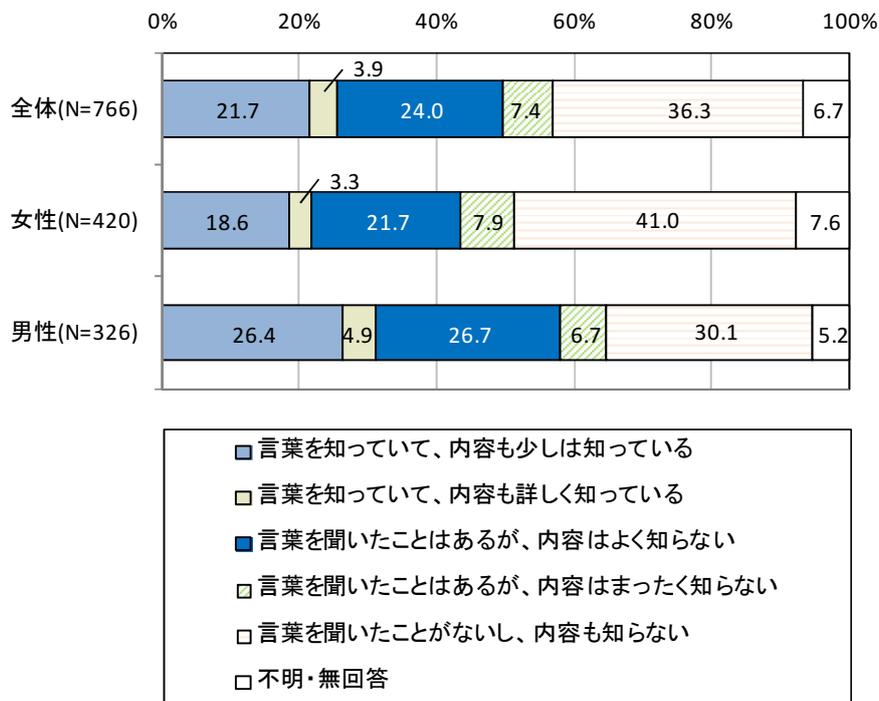
※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多いもの

【Q19】「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）

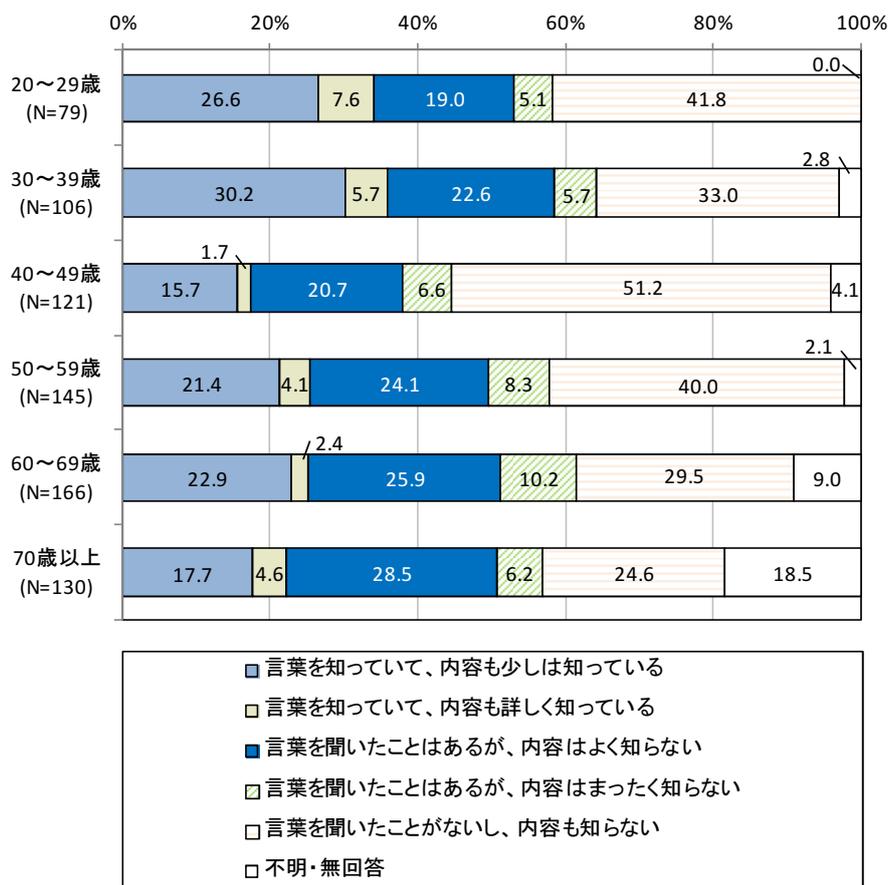
全体では、「言葉を聞いたことがないし、内容も知らない」が 36.3%と最も多く、次いで「言葉を聞いたことはあるが、内容はよく知らない」24.0%、「言葉を知っていて、内容も少しは知っている」21.7%などとなっています。

女性では、「言葉を聞いたことがないし、内容も知らない」が 41.0%と最も多く、次いで「言葉を聞いたことはあるが、内容はよく知らない」21.7%、「言葉を知っていて、内容も少しは知っている」18.6%などとなっています。男性では、「言葉を聞いたことがないし、内容も知らない」が 30.1%と最も多く、次いで「言葉を聞いたことはあるが、内容はよく知らない」26.7%、「言葉を知っていて、内容も少しは知っている」26.4%などとなっています。

「言葉を聞いたことはあるが、内容はよく知らない」「言葉を聞いたことはあるが、内容はまったく知らない」「言葉を聞いたことがないし、内容も知らない」の3つを合わせた割合は、女性で70.6%、男性で63.5%となっています。



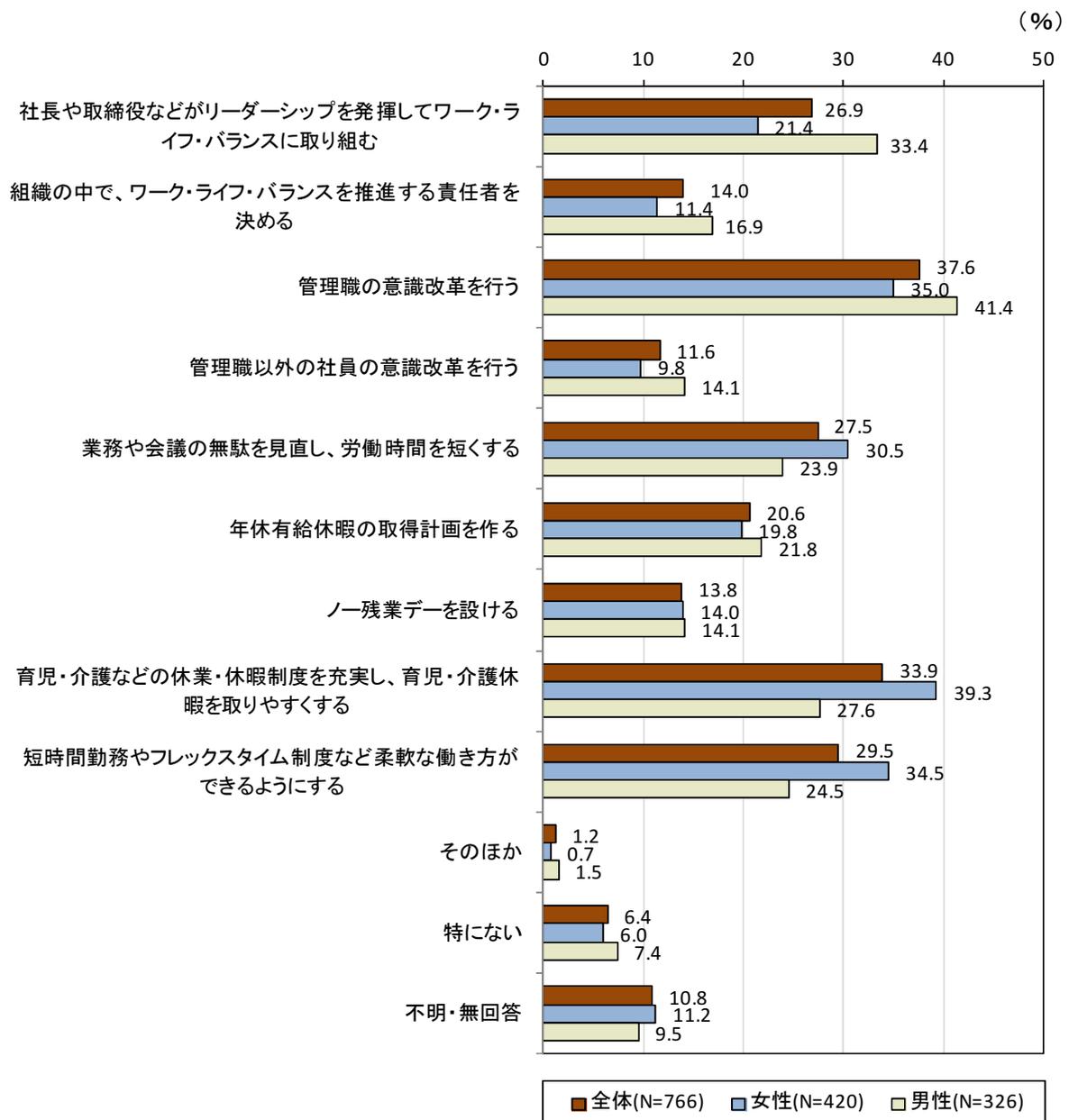
年代別では、「20～29歳」から「60～69歳」までで「言葉を聞いたことがないし、内容も知らない」が、「70歳以上」で「言葉を聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が、それぞれ最も多くなっています。「言葉を知っていて、内容も少し知っている」と「言葉を知っていて、内容も詳しく知っている」を合わせた割合は、「20～29歳」と「30～39歳」で他の年代より高くなっています。「言葉を聞いたことがないし、内容も知らない」の割合は「40～49歳」で最も高く、半数を超えています。



【Q20】ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、どのように取り組んでいくことがよいと思いますか。(〇は3つまで)

全体では、「管理職の意識改革を行う」が37.6%と最も多く、次いで「育児・介護などの休業・休暇制度を充実し、育児・介護休暇を取りやすくする」33.9%、「短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする」29.5%などとなっています。

女性では、「育児・介護などの休業・休暇制度を充実し、育児・介護休暇を取りやすくする」が39.3%と最も多く、次いで「管理職の意識改革を行う」35.0%、「短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする」34.5%などとなっています。男性では、「管理職の意識改革を行う」が41.4%と最も多く、次いで「社長や取締役などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」33.4%、「育児・介護などの休業・休暇制度を充実し、育児・介護休暇を取りやすくする」27.6%などとなっています。



年代別では、「20～29歳」で「業務や会議の無駄を見直し、労働時間を短くする」が、「30～39歳」から「60～69歳」までで「管理職の意識改革を行う」が、「70歳以上」で「育児・介護などの休業・休暇制度を充実し、育児・介護休暇を取りやすくする」が、それぞれ最も多くなっています。「20～29歳」で「業務や会議の無駄を見直し、労働時間を短くする」と「育児・会議などの休業・休暇制度を充実し、育児・介護休暇を取りやすくする」の割合が、「30～39歳」で「短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする」の割合が、他の年代より高くなっています。（「不明・無回答」は除く）

	(%)					
	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)
社長や取締役などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む	30.4	31.1	31.4	26.9	29.5	12.3
組織の中で、ワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決める	13.9	12.3	10.7	15.2	16.3	13.1
管理職の意識改革を行う	36.7	44.3	44.6	39.3	38.6	22.3
管理職以外の社員の意識改革を行う	11.4	8.5	15.7	13.1	11.4	9.2
業務や会議の無駄を見直し、労働時間を短くする	41.8	34.0	31.4	26.9	23.5	16.2
年休有給休暇の取得計画を作る	25.3	28.3	22.3	20.7	19.3	10.8
ノー残業デーを設ける	19.0	17.0	13.2	15.2	10.2	13.1
育児・介護などの休業・休暇制度を充実し、育児・介護休暇を取りやすくする	40.5	27.4	33.1	31.0	38.0	32.3
短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする	25.3	40.6	23.1	38.6	28.9	23.8
そのほか	0.0	0.9	0.8	0.7	2.4	0.8
特になし	10.1	1.9	5.8	9.0	4.8	7.7
不明・無回答	1.3	4.7	5.8	2.8	13.3	32.3

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

【Q21】生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域活動や個人の生活」の優先度について、あなたの理想に近いもの、あなたの現実（現状）に最も近いものを、つぎの中から選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

全体では、以下のようになっています。

「理想」… 『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が 35.4%と最も多く、次いで『家庭生活』を優先したい」21.3%、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動や個人の生活』をともに優先したい」18.4%などとなっています。

「現実」… 『仕事』を優先している」が 37.5%と最も多く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」20.1%、「『家庭生活』を優先している」18.9%などとなっています。

『仕事』を優先したい（している）」と『仕事』と『家庭生活』と『地域生活や個人の生活』を優先している（したい）」で、理想と現実の乖離が見られます。

女性では、以下のようになっています。

「理想」… 『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が 33.3%と最も多く、次いで『家庭生活』を優先したい」25.0%、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動や個人の生活』をともに優先したい」20.7%などとなっています。

「現実」… 『家庭生活』を優先している」が 27.1%と最も多くなっており、次いで『仕事』を優先している」26.9%、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」22.1%などとなっています。

『仕事』を優先したい（している）」と『仕事』と『家庭生活』と『地域生活や個人の生活』を優先している（したい）」で、理想と現実の乖離が見られます。

男性では、以下のようになっています。

「理想」… 『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が 38.0%と最も多く、次いで『家庭生活』を優先したい」と『仕事』と『家庭生活』と『地域活動や個人の生活』をともに優先したい」が 16.3%などとなっています。

「現実」… 『仕事』を優先している」が 51.8%と最も多く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」17.5%、「『家庭生活』を優先している」8.3%などとなっています。

『仕事』を優先したい（している）」と『家庭生活』を優先したい（している）」、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい（している）」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域生活や個人の生活』を優先している（したい）」で、理想と現実の乖離が見られます。

※表は次のページ

(%)

	全体(N=766)		女性(N=420)		男性(N=326)	
	理想	現実	理想	現実	理想	現実
「仕事」を優先したい(している)	3.4	37.5	1.9	26.9	5.5	51.8
「家庭生活」を優先したい(している)	21.3	18.9	25.0	27.1	16.3	8.3
「地域活動や個人の生活」を優先したい(している)	3.5	2.3	3.1	0.7	4.0	4.0
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい(している)	35.4	20.1	33.3	22.1	38.0	17.5
「仕事」と「地域活動や個人の生活」をともに優先したい(している)	3.3	3.0	1.9	1.9	5.2	4.6
「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先したい(している)	7.6	4.7	7.6	6.0	7.4	3.1
「仕事」と「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先したい(している)	18.4	1.7	20.7	2.6	16.3	0.6
そのほか	0.8	3.3	0.5	2.9	1.2	4.0
不明・無回答	6.4	8.5	6.0	9.8	6.1	6.1

※薄赤色の塗りつぶしは、各項目で最も回答数が多いもの

※選択肢の()内は、「現実」の選択肢

前回調査との比較では、全体で以下のようになっています。

「理想」…『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が 5.9 ポイント増と最も増加しており、『「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先したい』が 3.3 ポイント減と最も減少しています。

「現実」…『「仕事」を優先している』が 7.9 ポイント増と最も増加し、『「家庭生活」を優先している』が 8.6 ポイント減と最も減少しています。

【理想】

	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
「仕事」を優先したい	3.4	4.9	-1.5
「家庭生活」を優先したい	21.3	22.8	-1.5
「地域活動や個人の生活」を優先したい	3.5	4.4	-0.9
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	35.4	29.5	5.9
「仕事」と「地域活動や個人の生活」をともに優先したい	3.3	1.9	1.4
「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先したい	7.6	10.9	-3.3
「仕事」と「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先したい	18.4	16.3	2.1

【現実】

	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
「仕事」を優先している	37.5	29.6	7.9
「家庭生活」を優先している	18.9	27.5	-8.6
「地域活動や個人の生活」を優先している	2.3	3.8	-1.5
「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	20.1	16.1	4.0
「仕事」と「地域活動や個人の生活」をともに優先している	3.0	1.6	1.4
「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先している	4.7	7.1	-2.4
「仕事」と「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先している	1.7	4.3	-2.6

年代別では、以下のようになっています。

「理想」…全ての年代で「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も多くなっています。

「現実」…「70歳以上」を除く全ての年代で「『仕事』を優先している」が、「70歳以上」で「『家庭生活』を優先している」が、それぞれ最も多くなっています。（「不明・無回答」は除く）

(%)

	20～29歳 (N=79)		30～39歳 (N=106)		40～49歳 (N=121)		50～59歳 (N=145)		60～69歳 (N=166)		70歳以上 (N=130)	
	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実
「仕事」を優先したい(している)	7.6	50.6	2.8	47.2	0.8	47.1	3.4	45.5	3.6	27.1	3.1	18.5
「家庭生活」を優先したい(している)	27.8	16.5	27.4	18.9	31.4	17.4	17.9	17.9	14.5	21.1	14.6	20.8
「地域活動や個人の生活」を優先したい(している)	8.9	3.8	0.9	0.0	1.7	0.8	2.8	1.4	4.8	3.6	3.1	3.1
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい(している)	31.6	13.9	44.3	25.5	39.7	20.7	37.2	22.1	34.3	21.1	27.7	15.4
「仕事」と「地域活動や個人の生活」をともに優先したい(している)	2.5	5.1	2.8	2.8	1.7	4.1	4.1	1.4	3.6	3.6	4.6	2.3
「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先したい(している)	6.3	0.0	3.8	0.0	3.3	3.3	9.7	4.8	10.2	4.8	9.2	11.5
「仕事」と「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先したい	13.9	0.0	15.1	1.9	19.0	2.5	21.4	1.4	21.7	3.0	16.9	0.8
そのほか	1.3	7.6	1.9	2.8	0.0	0.8	1.4	2.8	0.0	4.2	0.8	3.1
不明・無回答	0.0	2.5	0.9	0.9	2.5	3.3	2.1	2.8	7.2	11.4	20.0	24.6

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

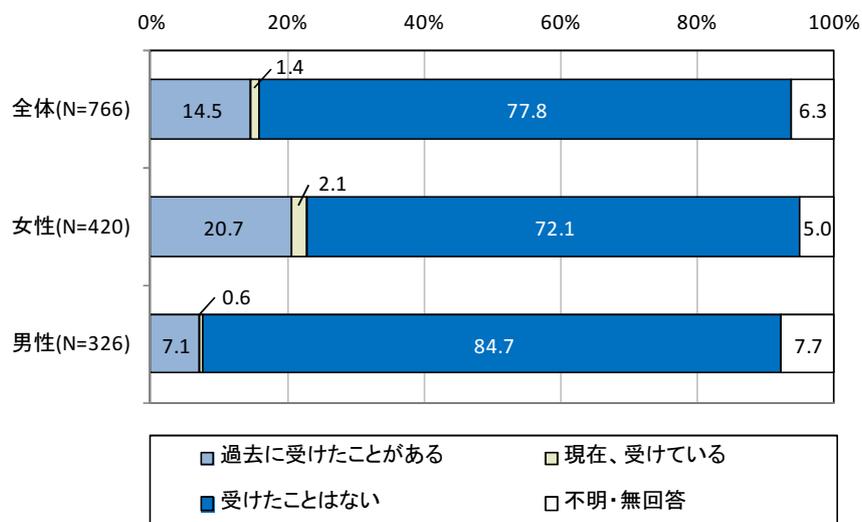
※選択肢の()内は、「現実」の選択肢

5. 女性に対する暴力について

【Q22】あなたは配偶者や親しい異性から一度でも肉体的、精神的な暴力を受けた経験がありますか。(〇は1つだけ)

全体では、「受けたことはない」が77.8%と最も多く、次いで「過去に受けたことがある」14.5%、「現在、受けている」1.4%となっています。

女性では、「受けたことはない」が72.1%と最も多く、次いで「過去に受けたことがある」20.7%、「現在、受けている」2.1%となっています。男性では、「受けたことはない」84.7%が最も多く、次いで「過去に受けたことがある」7.1%、「現在、受けている」0.6%となっています。(「不明・無回答」は除く)



前回調査との比較では、全体で「過去に受けたことがある」が1.5ポイント増と最も増加しており、「受けたことはない」が2.5ポイント減少しています。

男女ともに、「受けたことはない」が減少し、「過去に受けたことがある」と「現在、受けている」が増加しています。

【全体】

	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
過去に受けたことがある	14.5	13.0	1.5
現在、受けている	1.4	0.5	0.9
受けたことはない	77.8	80.3	-2.5
不明・無回答	6.3	6.1	0.2

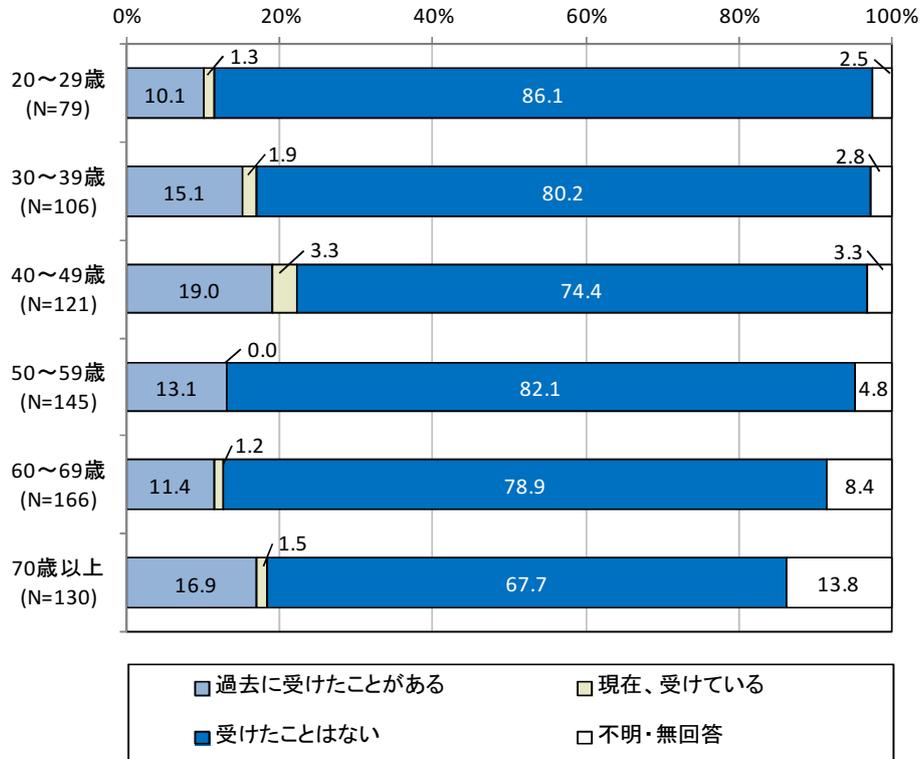
【女性】

	①今回 (%) N=420	②前回 (%) N=573	経年比較 ①-② (ポイント)
過去に受けたことがある	20.7	19.4	1.3
現在、受けている	2.1	0.9	1.2
受けたことはない	72.1	72.4	-0.3
不明・無回答	5.0	7.3	-2.3

【男性】

	①今回 (%) N=326	②前回 (%) N=488	経年比較 ①-② (ポイント)
過去に受けたことがある	7.1	5.3	1.8
現在、受けている	0.6	0.0	0.6
受けたことはない	84.7	90.6	-5.9
不明・無回答	7.7	4.1	3.6

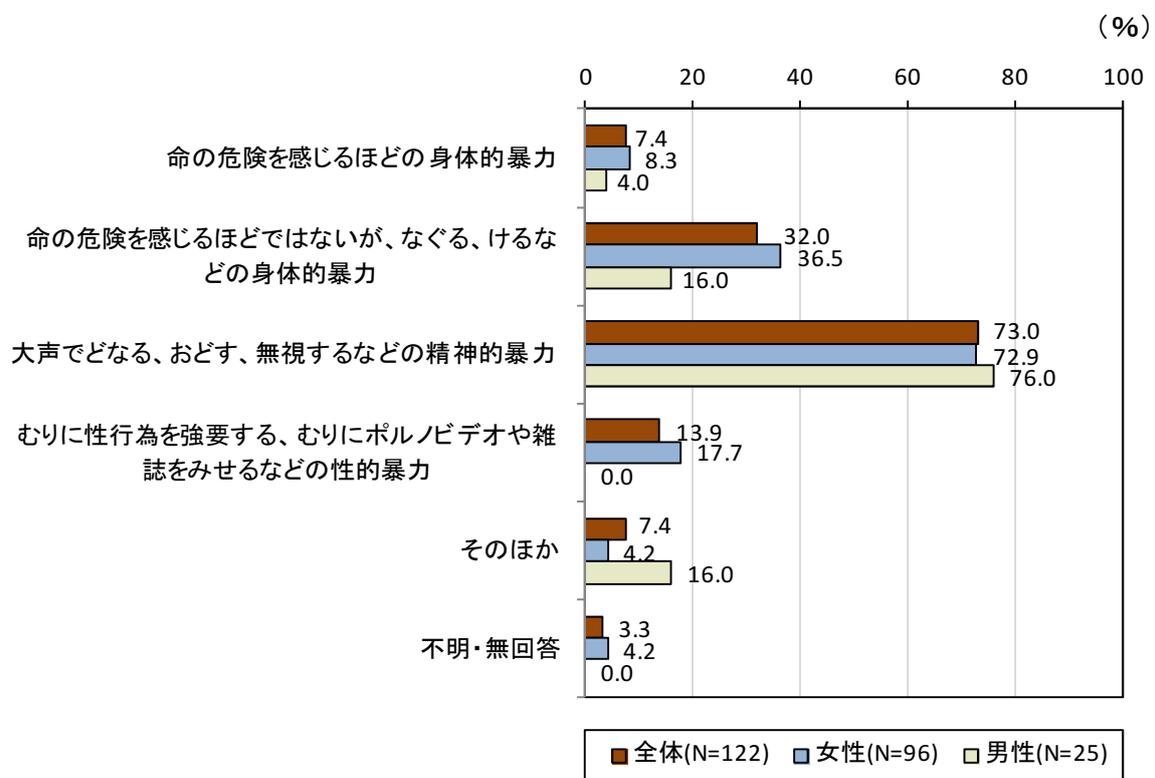
年代別では、全ての年代で「受けたことはない」が最も多くなっています。「40～49歳」では、「過去に受けたことがある」と「現在、受けている」の割合が、それぞれ他の年代に比べて最も高くなっています。



【Q23】 Q22 で「過去に受けたことがある」「現在、受けている」を選んだ人におたずねします。それはどのような内容ですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「大声でどなる、おどす、無視するなどの精神的暴力」が 73.0%と最も多く、次いで「命の危険を感じるほどではないが、なぐる、けるなどの身体的暴力」32.0%、「むりに性行為を強要する、むりにポルノビデオや雑誌をみせるなどの性的暴力」13.9%などとなっています。

女性では、「大声でどなる、おどす、無視するなどの精神的暴力」が 72.9%と最も多く、次いで「命の危険を感じるほどではないが、なぐる、けるなどの身体的暴力」36.5%、「むりに性行為を強要する、むりにポルノビデオや雑誌をみせるなどの性的暴力」17.7%などとなっています。男性では、「大声でどなる、おどす、無視するなどの精神的暴力」が 76.0%と最も多く、次いで「命の危険を感じるほどではないが、なぐる、けるなどの身体的暴力」と「そのほか」が 16.0%などとなっています。



年代別では、全ての年代で「大声でどなる、おどす、無視するなどの精神的暴力」が最も多くなっています。「30～39歳」では、「命の危険を感じるほどの身体的暴力」と「命の危険を感じるほどではないが、なぐる、けるなどの身体的暴力」が、それぞれ他の年代に比べて最も高くなっています。

(%)

	20～29歳 (N=9)	30～39歳 (N=18)	40～49歳 (N=27)	50～59歳 (N=19)	60～69歳 (N=21)	70歳以上 (N=24)
命の危険を感じるほどの身体的暴力	0.0	16.7	7.4	5.3	4.8	8.3
命の危険を感じるほどではないが、なぐる、けるなどの身体的暴力	33.3	55.6	29.6	36.8	23.8	25.0
大声でどなる、おどす、無視するなどの精神的暴力	55.6	72.2	88.9	68.4	66.7	70.8
むりに性行為を強要する、むりにポルノビデオや雑誌をみせるなどの性的暴力	22.2	11.1	14.8	10.5	14.3	16.7
そのほか	22.2	5.6	0.0	15.8	9.5	0.0
不明・無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	12.5

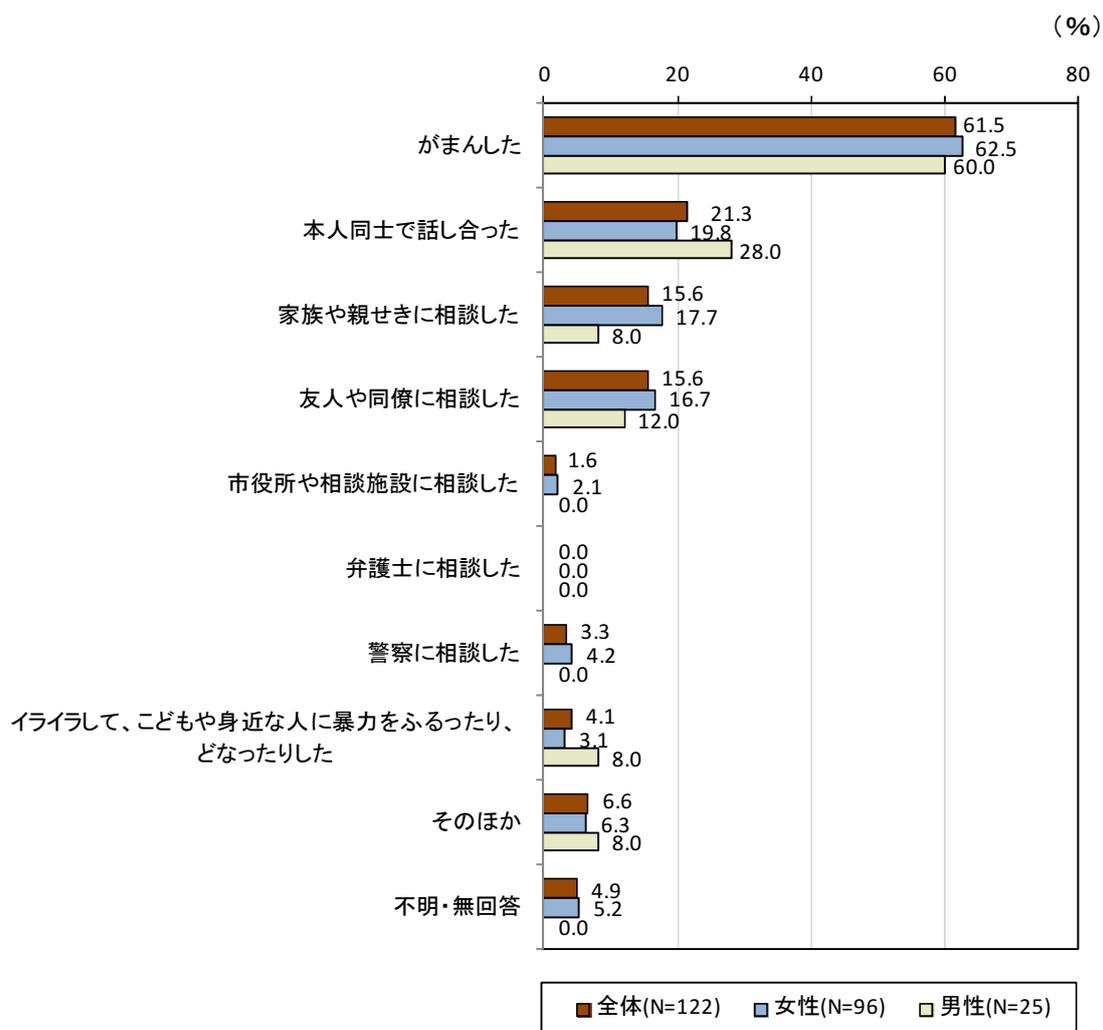
※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

【Q24】 Q22 で「過去に受けたことがある」「現在、受けている」を選んだ人におたずねします。あなたは、暴力を受けたとき、どのように対処しましたか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「がまんした」が61.5%と最も多く、次いで「本人同士で話し合った」21.3%、「家族や親せきに相談した」と「友人や同僚に相談した」が、それぞれ15.6%などとなっています。

女性では、「がまんした」が62.5%と最も多く、次いで「本人同士で話し合った」19.8%、「家族や親せきに相談した」17.7%などとなっています。男性では、「がまんした」が60.0%と最も多く、次いで「本人同士で話し合った」28.0%、「友人や同僚に相談した」12.0%などとなっています。

男女ともに、がまんする、または公にせず解決しようという姿勢がみえますが、特に男性では「市役所や相談施設に相談した」「弁護士に相談した」「警察に相談した」がいずれも0.0%でした。一方で「イライラして、子どもや身近な人に暴力をふるったり、どなったりした」が女性を大きく上回っています。



年代別では、全ての年代で「がまんした」が最も多くなっています。「50～59歳」だけで、「市役所や相談施設に相談した」という回答がありました。

(%)

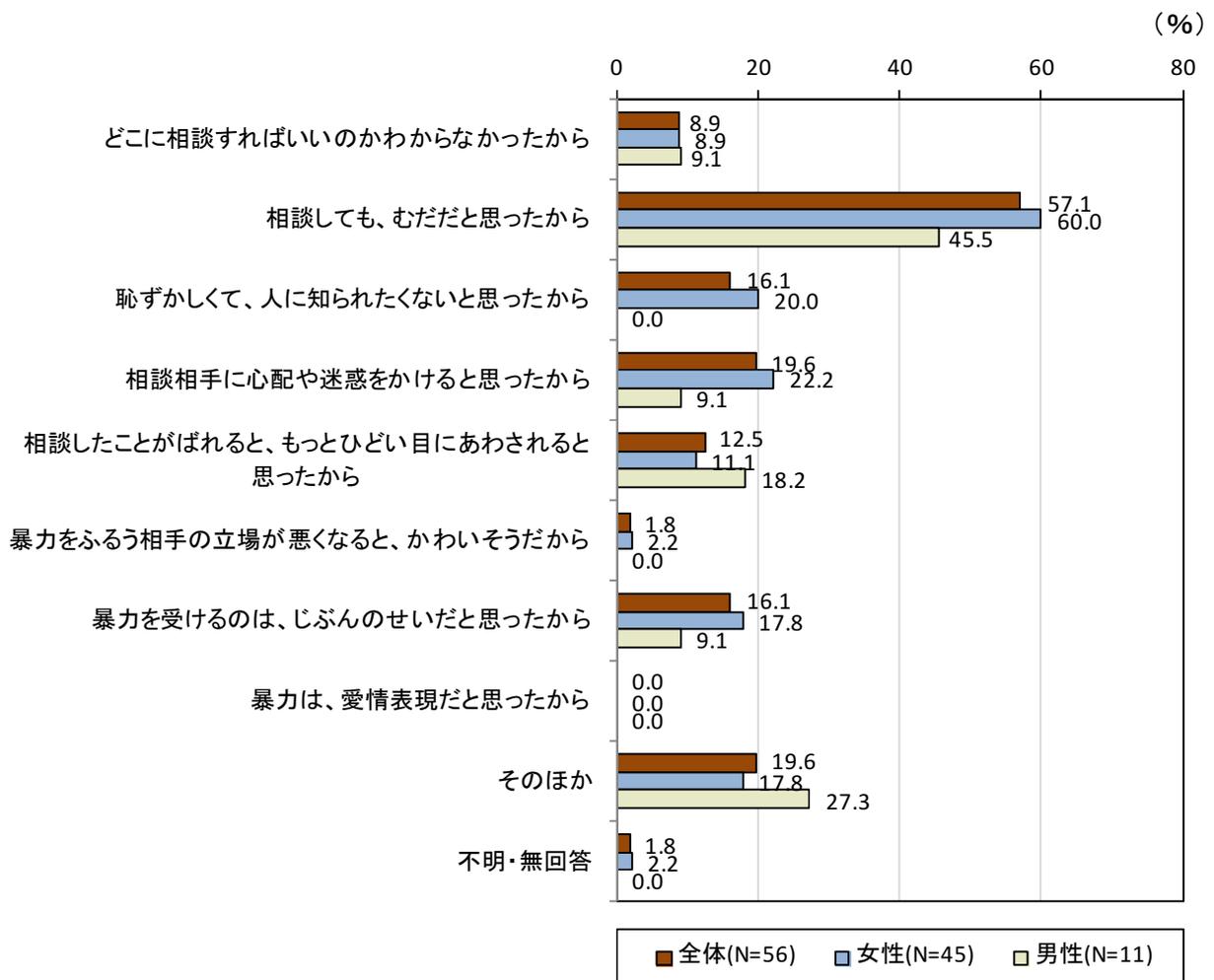
	20～29歳 (N=9)	30～39歳 (N=18)	40～49歳 (N=27)	50～59歳 (N=19)	60～69歳 (N=21)	70歳以上 (N=24)
がまんした	66.7	55.6	77.8	47.4	52.4	70.8
本人同士で話し合った	33.3	50.0	14.8	15.8	14.3	16.7
家族や親せきに相談した	22.2	16.7	14.8	21.1	9.5	12.5
友人や同僚に相談した	33.3	22.2	25.9	10.5	9.5	0.0
市役所や相談施設に相談した	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	0.0
弁護士に相談した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
警察に相談した	0.0	11.1	3.7	5.3	0.0	0.0
イライラして、こどもや身近な人に暴力をふるったり、どなったりした	11.1	5.6	3.7	5.3	0.0	4.2
そのほか	11.1	5.6	11.1	5.3	4.8	0.0
不明・無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5	12.5

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

【Q25】 Q24で「がまんした」を選んだ人におたずねします。がまんしたのはなぜですか。
 (あてはまるもの全てに○)

全体では、「相談しても、むだだと思ったから」が57.1%と最も多く、次いで「相談相手に心配や迷惑をかけると思ったから」と「そのほか」が19.6%などとなっています。

女性では、「相談しても、むだだと思ったから」が60.0%と最も多く、次いで「相談相手に心配や迷惑をかけると思ったから」22.2%、「恥ずかしくて、人に知られたくないと思ったから」20.0%などとなっています。男性では、「相談しても、むだだと思ったから」が45.5%と最も多く、次いで「そのほか」27.3%、「相談したことがばれると、もっとひどい目にあわされると思ったから」18.2%などとなっています。



年代別では、「20～29歳」と「40～49歳」から「70歳以上」で「相談しても、むだだと思ったから」が、「30～39歳」では「どこに相談すればいいのかわからなかったから」と「そのほか」が、それぞれ最も多くなっています。「40～49歳」と「70歳以上」で、「相談しても、むだだと思ったから」の数が、他の年代に比べて高くなっています。

(人)

	20～29歳 (N=5)	30～39歳 (N=5)	40～49歳 (N=13)	50～59歳 (N=8)	60～69歳 (N=11)	70歳以上 (N=13)
どこに相談すればいいのかわからなかったから	1	2	2	0	0	0
相談しても、むだだと思ったから	3	1	10	4	5	9
恥ずかしくて、人に知られたくないと思ったから	1	0	1	1	2	4
相談相手に心配や迷惑をかけると思ったから	2	1	2	1	2	3
相談したことがばれると、もっとひどい目にあわされると思ったから	0	0	1	1	2	2
暴力をふるう相手の立場が悪くなると、かわいそうだから	0	0	0	1	0	0
暴力を受けるのは、じぶんのせいだと思ったから	1	0	3	2	1	1
暴力は、愛情表現だと思ったから	0	0	0	0	0	0
そのほか	2	2	2	1	3	1
不明・無回答	0	0	1	0	0	0

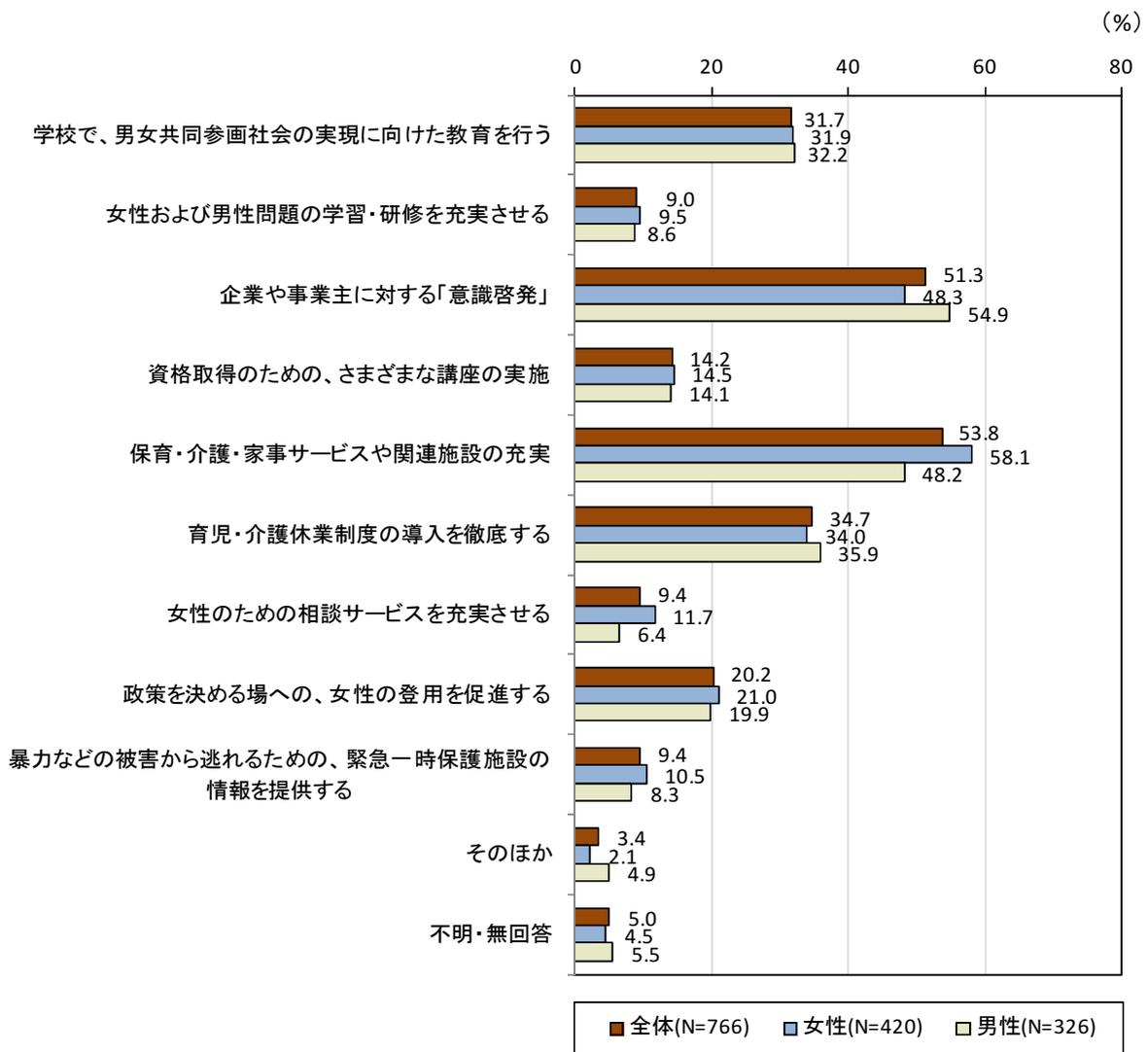
※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目
 ※N数が少ないため構成比(%)ではなく実数(人数)で表記

6. 男女共同参画社会について

【Q26】あなたは男女共同参画社会実現のために、湖南省はどのようなことに力をいれるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

全体では、「保育・介護・家事サービスや関連施設の充実」が 53.8%と最も多く、次いで「企業や事業主に対する『意識啓発』」51.3%、「育児・介護休業制度の導入を徹底する」34.7%などとなっています。

女性では、「保育・介護・家事サービスや関連施設の充実」が 58.1%と最も多く、次いで「企業や事業主に対する『意識啓発』」48.3%、「育児・介護休業制度の導入を徹底する」34.0%などとなっています。男性では、「企業や事業主に対する『意識啓発』」が 54.9%と最も多く、次いで「保育・介護・家事サービスや関連施設の充実」48.2%、「育児・介護休業制度の導入を徹底する」35.9%などとなっています。



前回調査との比較では、全体で「企業や事業主に対する『意識啓発』」が13.6ポイント増と最も増加し、「保育・介護・家事サービスや関連施設の充実」が9.4ポイント減と最も減少しています。

	①今回 (%) N=766	②前回 (%) N=1,091	経年比較 ①-② (ポイント)
学校で、男女共同参画社会の実現に向けた教育を行う	31.7	35.9	-4.2
女性および男性問題の学習・研修を充実させる	9.0	8.9	0.1
企業や事業主に対する「意識啓発」	51.3	37.7	13.6
資格取得のための、さまざまな講座の実施	14.2	21.4	-7.2
保育・介護・家事サービスや関連施設の充実	53.8	63.2	-9.4
育児・介護休業制度の導入を徹底する	34.7	33.5	1.2
女性のための相談サービスを充実させる	9.4	8.2	1.2
政策を決める場への、女性の登用を促進する	20.2	9.2	11.0
暴力などの被害から逃れるための、緊急一時保護施設の情報を提供する	9.4	11.6	-2.2
そのほか	3.4	1.9	1.5

年代別では、「20～29歳」と「30～39歳」と「70歳以上」で「保育・介護・家事サービスや関連施設の充実」が、「40～49歳」から「60～69歳」までで「企業や事業主に対する『意識啓発』」が、それぞれ最も多くなっています。年代が上がるほど、「学校で、男女共同参画社会の実現に向けた教育を行う」と「女性および男性問題の学習・研修を充実させる」の割合が高くなる傾向にあります。

(%)

	20～29歳 (N=79)	30～39歳 (N=106)	40～49歳 (N=121)	50～59歳 (N=145)	60～69歳 (N=166)	70歳以上 (N=130)
学校で、男女共同参画社会の実現に向けた教育を行う	17.7	23.6	29.8	36.6	38.0	36.2
女性および男性問題の学習・研修を充実させる	6.3	6.6	7.4	8.3	9.6	13.1
企業や事業主に対する「意識啓発」	39.2	50.9	62.8	53.8	54.8	40.8
資格取得のための、さまざまな講座の実施	13.9	17.9	14.9	16.6	12.0	11.5
保育・介護・家事サービスや関連施設の充実	53.2	58.5	54.5	50.3	54.2	51.5
育児・介護休業制度の導入を徹底する	41.8	38.7	33.1	33.1	36.7	27.7
女性のための相談サービスを充実させる	12.7	10.4	5.8	8.3	7.8	13.1
政策を決める場への、女性の登用を促進する	19.0	19.8	16.5	17.2	27.1	20.8
暴力などの被害から逃れるための、緊急一時保護施設の情報を提供する	19.0	7.5	7.4	11.0	8.4	6.9
その他	1.3	6.6	3.3	5.5	1.2	3.1
不明・無回答	5.1	1.9	1.7	4.8	4.2	12.3

※薄赤色の塗りつぶしは、各年代で最も回答数が多い項目

男女共同参画社会づくりに関する
事業所実態調査

第1章 アンケート調査の概要

1. 調査の目的

「湖南省男女共同参画アクション2007計画」を改定するにあたり、その基礎となる市内事業所の男女共同参画に関する実態を把握するために実施しました。

2. 調査概要

〈調査地域〉 湖南省全域

〈調査対象〉 湖南省内の事業所のうち、企業内同和問題研修窓口担当者設置事業所で、平成27年度に企業訪問を行う事業所（従業員数10人以上の事業所）

〈調査期間〉 平成28年（2016年）1月12日～3月31日

〈調査方法〉 調査票を企業訪問時に市の啓発推進班員が配布（一部郵送）、郵送により回収

配布数	回収数	回収率
212	123 (124)	58.0% (58.5%)

()内は、無効票含む

3. 調査結果の見方

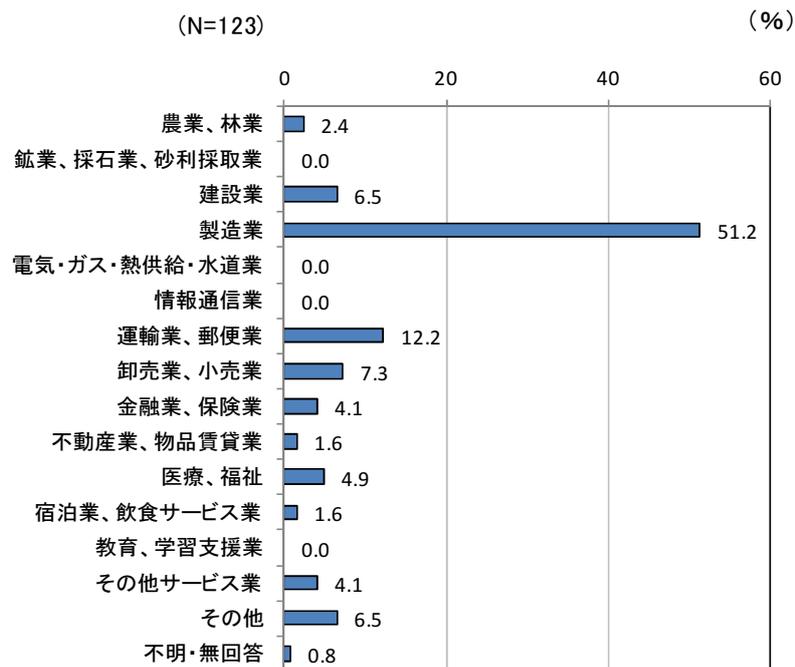
- 特に断りのない限り、平成27年4月1日の状況で回答してもらっています。
- グラフおよび表のN数（number of case）は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- 回答結果は、有効標本数に対して、それぞれの回答の占める割合を示しています。小数第2位を四捨五入しているため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合も、有効標本数に対して、それぞれの回答の占める割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 本文中の設問や選択肢の表記は簡略化している場合があります。

第2章 アンケート調査結果

1. 回答者の属性

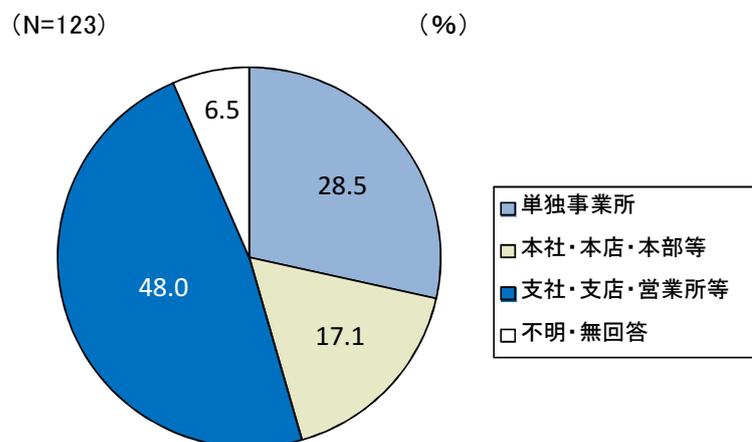
【1. 業種】

「製造業」が51.2%と突出して多く、次いで「運輸業、郵便業」12.2%、「卸売業、小売業」7.3%などと続いています。



【2. 事業所の性格】

「支社・支店・営業所等」が48.0%と最も多く、次いで「単独事業所」28.5%、「本社・本店・本部等」17.1%などとなっています。

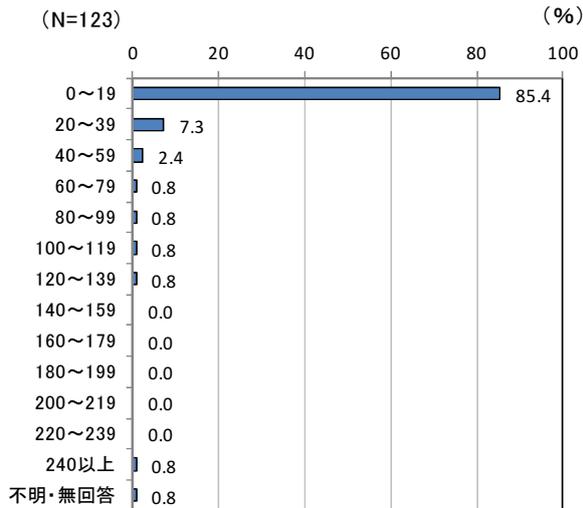


【3. 従業員数】

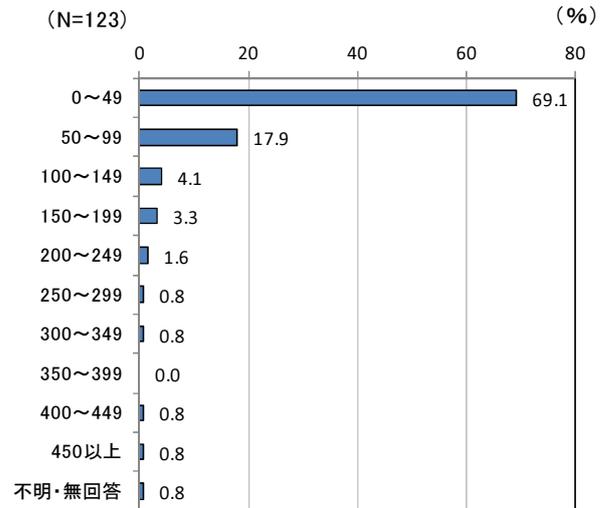
女性正社員（役員は除く）の数は「0～19（人）」が85.4%と最も多く、40人未満の事業所が9割以上を占めています。男性正社員の数は「0～49」が69.1%と最も多く、100人未満の事業所が9割近くを占めています。

正社員以外（パート、アルバイト、嘱託社員など。派遣社員は除く）の数は、女性では「0～49」が89.4%と最も多く、男性では「0～9」が73.2%と最も多くなっています。

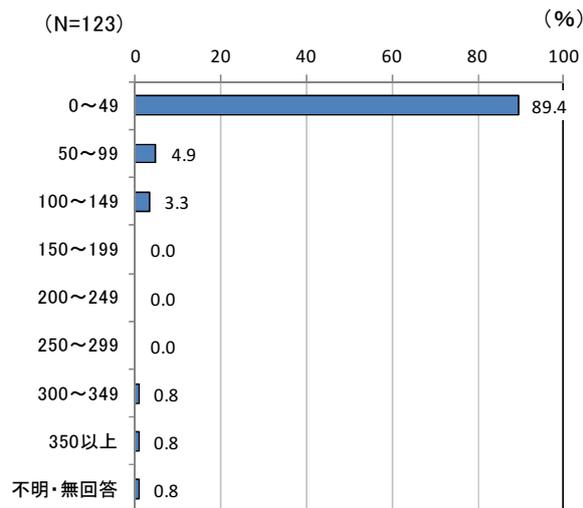
《正社員数（役員は除く） 女性》



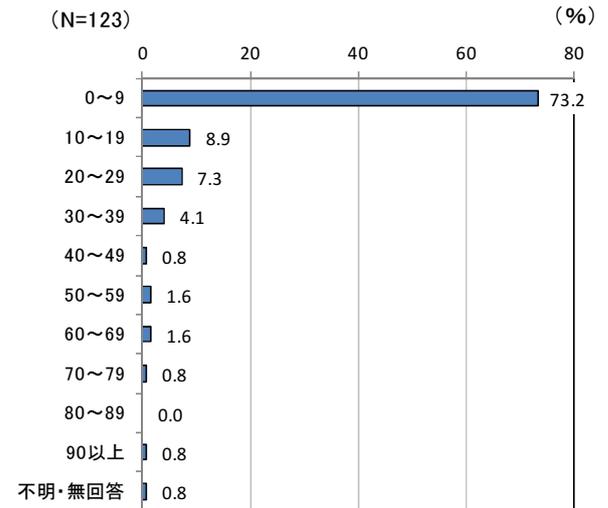
《正社員数（役員は除く） 男性》



《正社員以外の数 女性》



《正社員以外の数 男性》



女性従業員のうち正社員以外（パート、アルバイト、嘱託職員等。派遣社員は除く）で働く人の割合は 59.1%、男性従業員のうち正社員以外で働く人は 16.3%となっています。また正社員に占める女性の割合は 20.0%、正社員以外に占める女性の割合は 65.0%となっています。

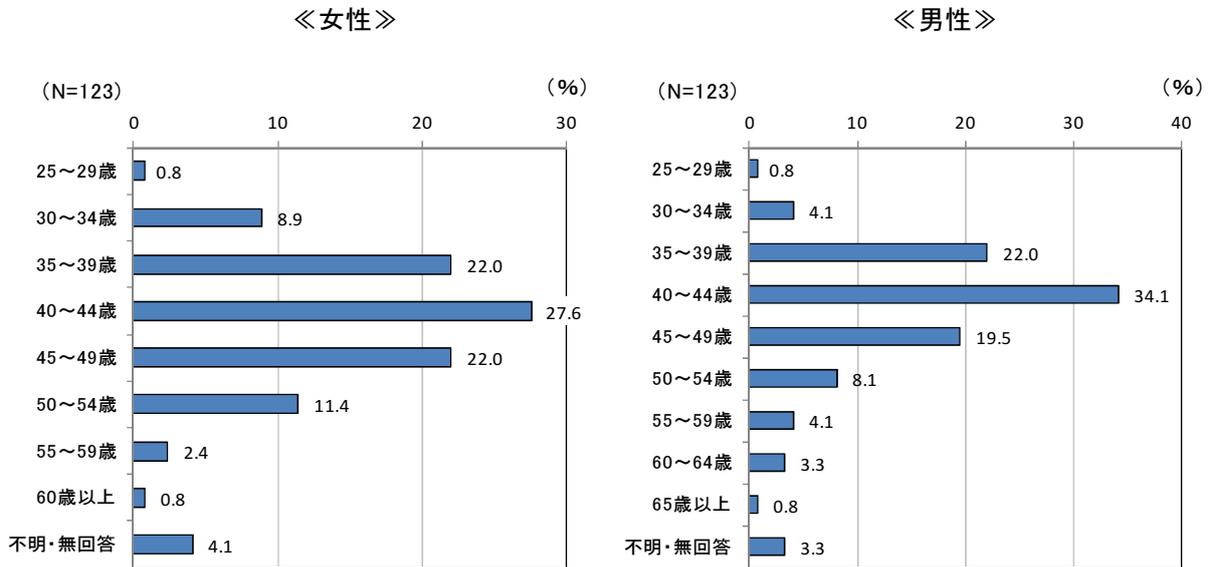
前回調査（平成 23 年）との比較では、女性従業員に占める正社員以外の割合は 18.5 ポイント増加し、男性従業員に占める正社員以外の割合は 4.6 ポイント増加しています。

雇用における女性の不安定さとその拡大が目立つのに加え、男性でも正社員以外の割合が増加しています。全体では従業員に占める正社員以外の割合は 30.8%と、前回より 11.1 ポイント増となっています。

	正社員 (役員は除く)	正社員以外 (パート、アルバイト、嘱託職員等。派遣社員は除く)	合計	正社員以外の 構成比	
				(今回)	(前回)
女性	1,549 人	2,242 人	3,791 人	59.1%	40.6%
男性	6,204 人	1,205 人	7,409 人	16.3%	11.7%
合計	7,753 人	3,447 人	11,200 人	30.8%	19.7%
女性の 構成比	20.0%	65.0%	33.8%		

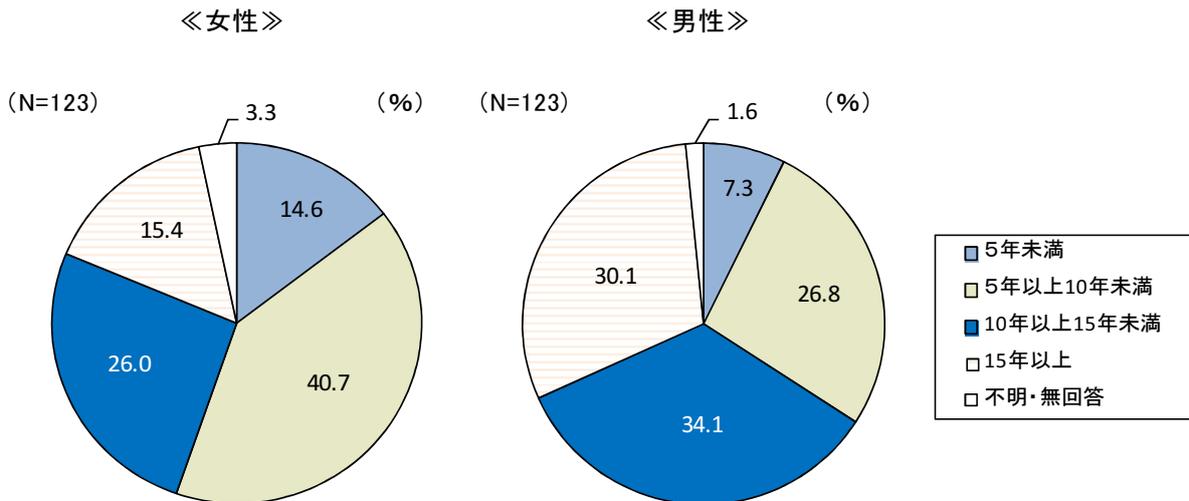
【4. 従業員の平均年齢】

従業員の平均年齢は、男女とも「40～44歳」の事業所が最も多くなっています。



【5. 従業員の平均勤続年数】

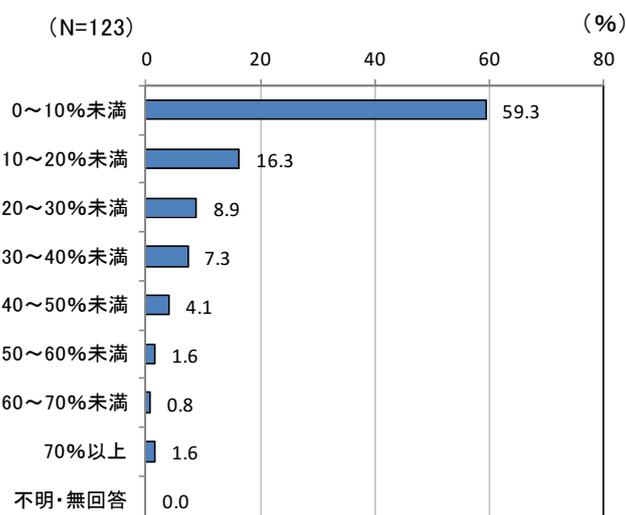
従業員の平均勤続年数は、女性は「5年以上10年未満」が40.7%と最も多く、男性は「10年以上15年未満」が34.1%と最も多くなっています。男性より女性のほうが勤続年数が短い傾向にあります。



2. 女性活躍推進のための取組について

【Q1】従業員のうち、女性の管理職は何人いますか。(数字を記入)

役員や管理職（課長・部長相当職、係長・主任相当職）のうち、女性が占める割合は「0～10%未満」が 59.3%と最も多くなっています。女性役員と管理職が 30%以上を占める事業所は 15.4%で、50%以上を占める事業所は 4.0%となっています。



123 事業所の合算では、女性が役員（代表者、事業主を含む）全体に占める割合は 10.4%、課長・部長相当職全体に占める割合は 4.8%、係長（主任）相当職全体に占める割合は 22.6%となっています。

	全体	女性	女性の構成比
役員(代表者、事業主を含む)	241人	25人	10.4%
課長・部長相当職	849人	41人	4.8%
係長(主任)相当職	1,046人	236人	22.6%
合計	2,136人	302人	14.1%

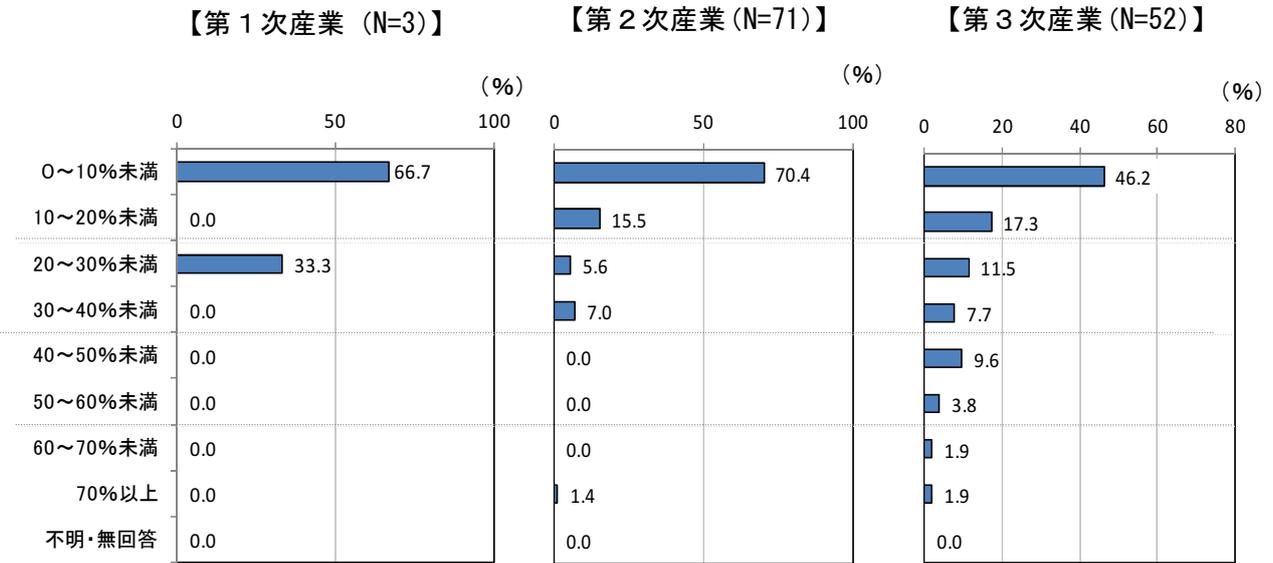
123事業所の合算

【参考／国が目標とする民間企業の各役職に占める女性の構成比（平成 32 年までに）】

部長相当職	10%程度
課長相当職	15%
係長相当職	25%

国の「第4次男女共同参画基本計画」における目標

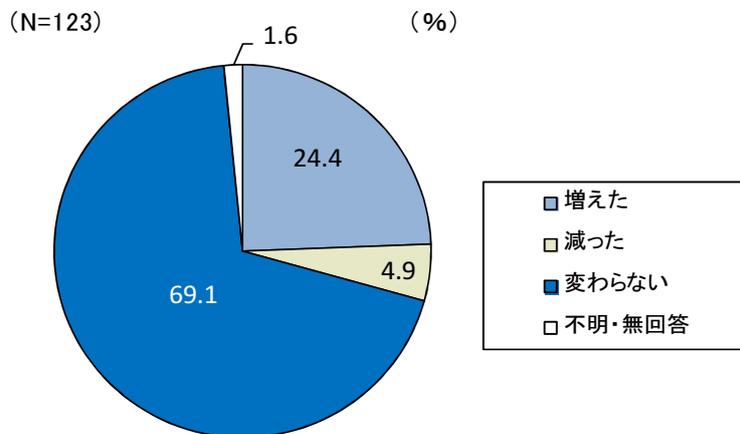
女性管理職の割合を業種別で見ると、第3次産業において比較的多くなっています。



※第1次産業…農業・林業。 第2次産業…鉱業・採石業・砂利採取業/建設業/製造業。
 第3次産業…電気・ガス・熱供給・水道業/情報通信業/運輸業・郵便業/卸売業・小売業/金融業・保険業/
 不動産業・物品賃貸業/医療・福祉/宿泊業・飲食サービス業/教育・学習支援業/その他サービス業。

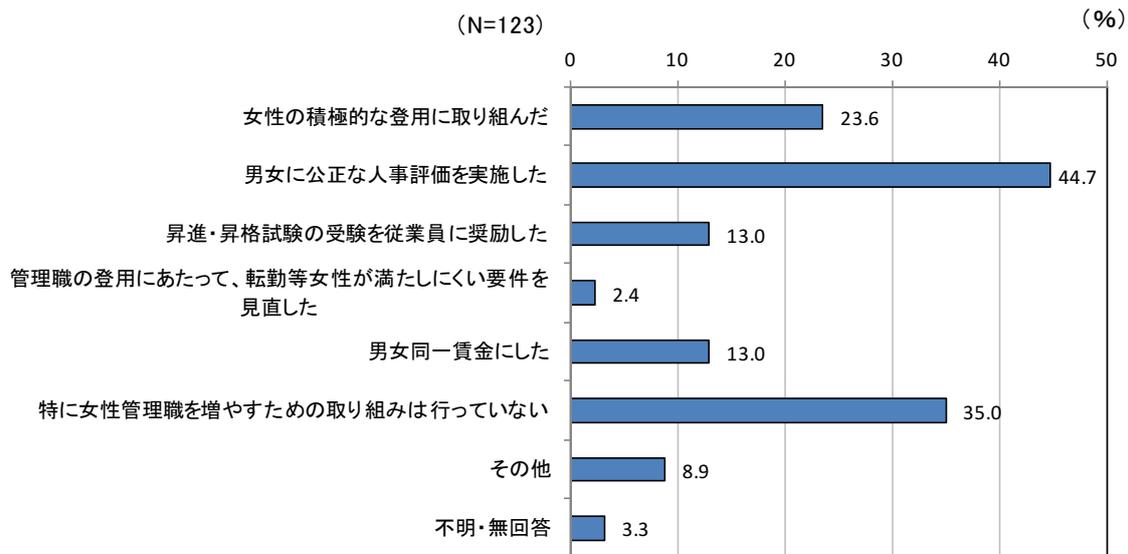
【Q2】5年前と比べて、女性の管理職は増えましたか。(〇は1つだけ)

「変わらない」が69.1%と最も多くなっています。「増えた」は24.4%で、「減った」は4.9%となっています。

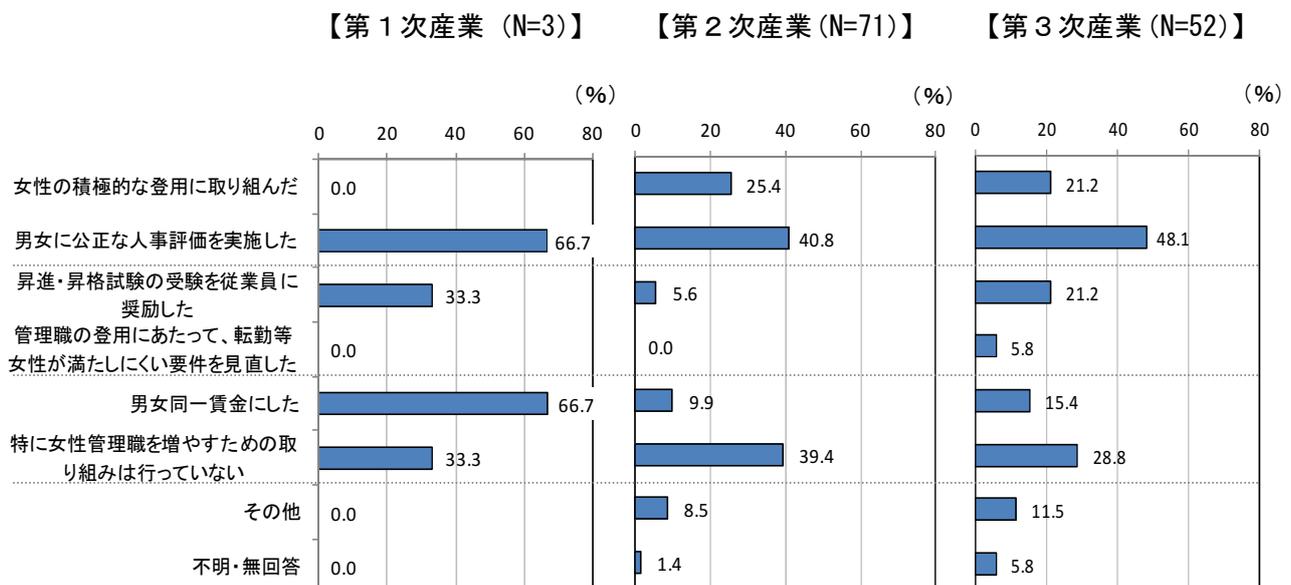


【Q3】女性管理職を増やすために、この5年間で取り組まれたことはありますか。
(〇はいくつでも)

女性管理職を増やすために取り組んだことについてみると、「男女に公正な人事評価を実施した」が44.7%と最も多く、次いで「女性の積極的な登用に取り組んだ」23.6%、「昇進・昇格試験の受験を従業員に奨励した」と「男女同一賃金にした」がそれぞれ13.0%となっています。一方、「特に女性管理職を増やすための取り組みは行っていない」は35.0%となっています。



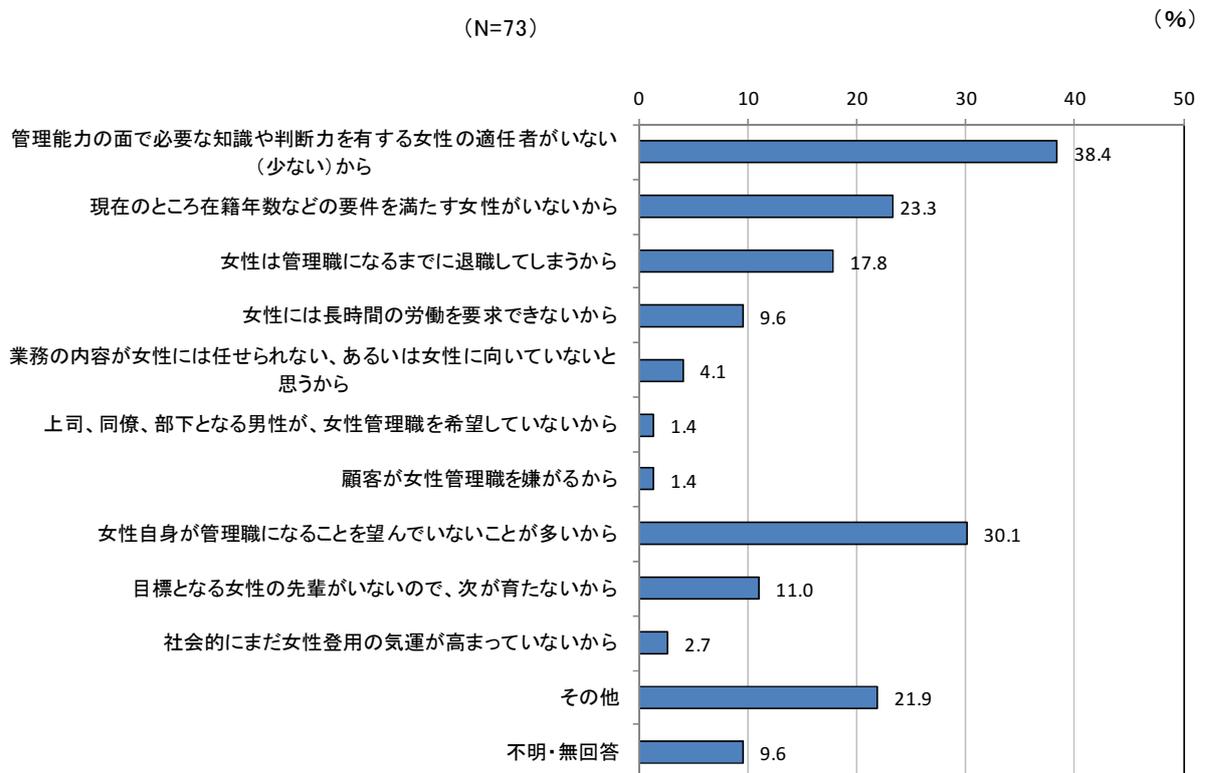
業種別でみると、第3次産業において比較的、積極的な取組が行われています。



【Q4】女性管理職の割合が低いのは、どのような理由からですか。（女性管理職の割合が10%未満であった事業所への質問。○はいくつでも）

「管理能力の面で必要な知識や判断力を有する女性の適任者がいない（少ない）から」が38.4%と最も多く、次いで「女性自身が管理職になることを望んでいないことが多いから」30.1%、「現在のところ在籍年数などの要件を満たす女性がいらないから」23.3%などとなっています。

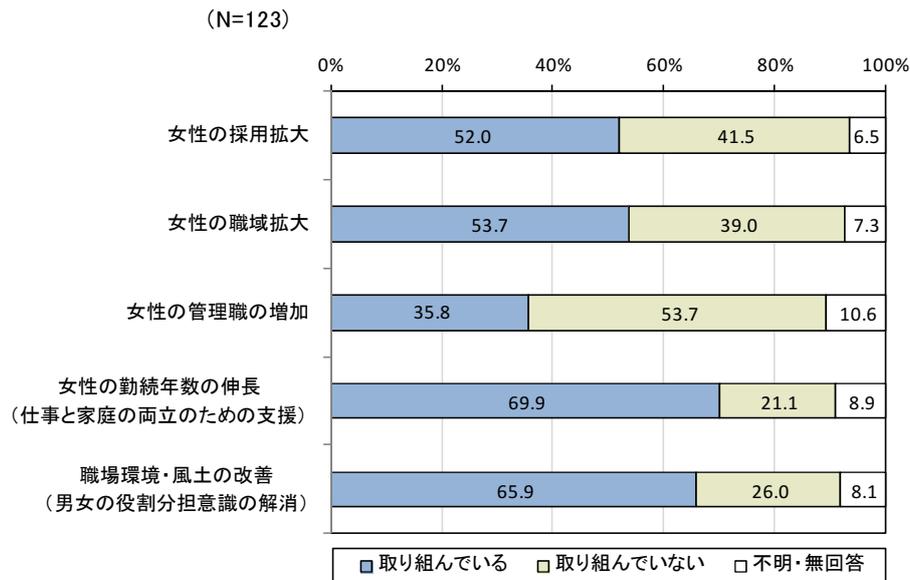
「上司、同僚、部下となる男性が、女性管理職を希望していないから」や「顧客が女性管理職を嫌がるから」といった、偏見が影響していると思われる回答もそれぞれ1.4%ありました。



【Q5】「ポジティブ・アクション」に取り組んでいますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

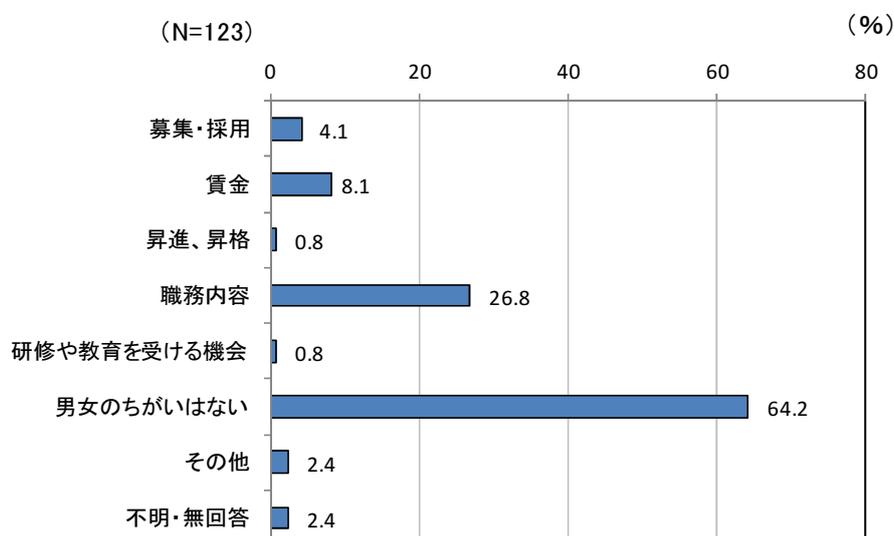
「取り組んでいる」と答えた事業所が最も多かったのは、「女性の勤続年数の伸長（仕事と家庭の両立のための支援）」の 69.9%で、次いで「職場環境・風土の改善（男女の役割分担意識の解消）」65.9%、「女性の職域拡大」53.7%などとなっています。

「取り組んでいない」と答えた事業所が最も多かったのは、「女性の管理職の増加」の 53.7%で、次いで「女性の採用拡大」41.5%、「女性の職域拡大」39.0%などとなっています。



【Q6】下記のいずれかで、基準や扱いなどに男女のちがいがありませんか。(〇はいくつでも)

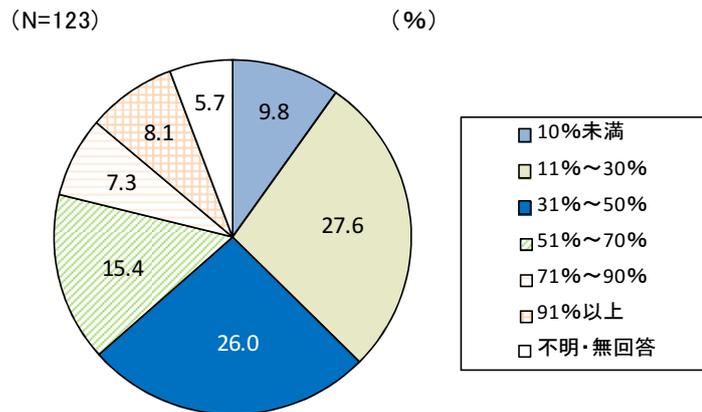
「男女のちがいはない」が 64.2%と最も多くなっています。一方で「職務内容」の 26.8%をはじめ、「募集・採用」「賃金」「昇進、昇格」「研修や教育を受ける機会」「その他」の全ての項目で「ちがいがあある」と答えた事業所があります。



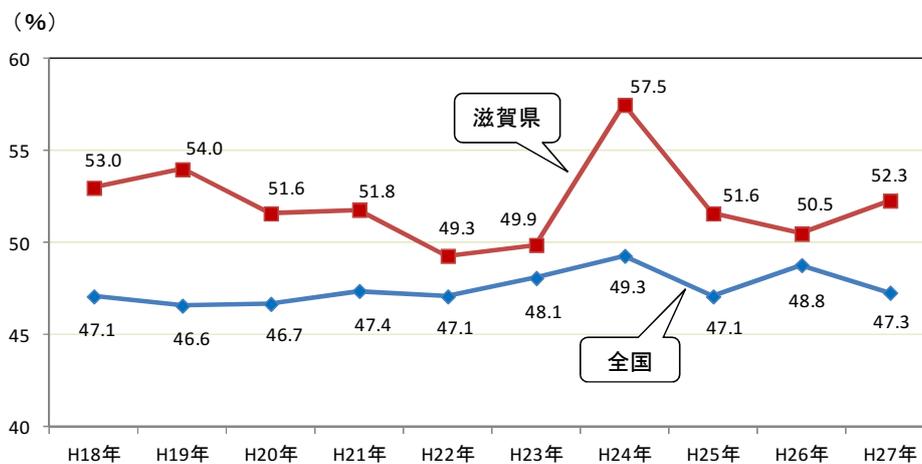
3. 従業員の休業制度について

【Q7】従業員の有給休暇取得率はどれくらいですか。(〇は1つだけ)

「11%～30%」が27.6%と最も多く、次いで「31%～50%」が26.0%、「51%～70%」が15.4%などとなっています。有給休暇取得率50%以下の事業所は63.4%となっています。



【参考／全国と滋賀県の年次有給休暇取得率の推移（企業規模 30人以上）】



資料／滋賀県「平成27年労働条件実態調査」

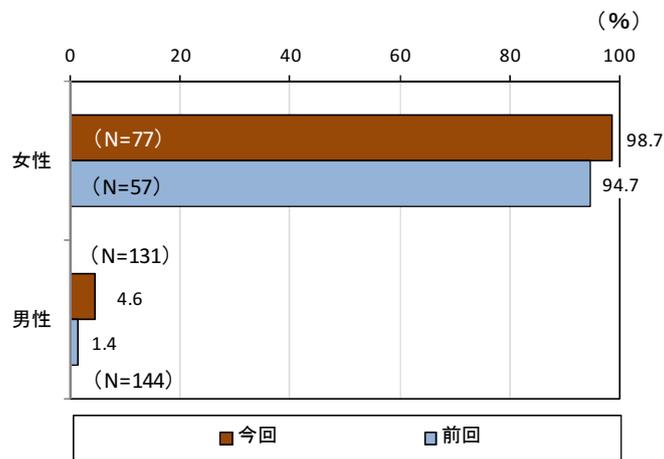
【Q8】育児休業の取得状況は？（平成27年1月1日～12月31日の状況）

女性はほぼ全員が育児休業を取得していますが、男性は4.6%しか取得していません。

女性		男性	
出産した従業員(A)	77人	配偶者が出産した従業員(A)	131人
うち育児休業を取得した従業員(B)	76人	うち育児休業を取得した従業員(B)	6人
育児休業を取得した従業員の割合(B/A)	98.7%	育児休業を取得した従業員の割合(B/A)	4.6%
平均取得(予定)日数	311日	平均取得(予定)日数	36日

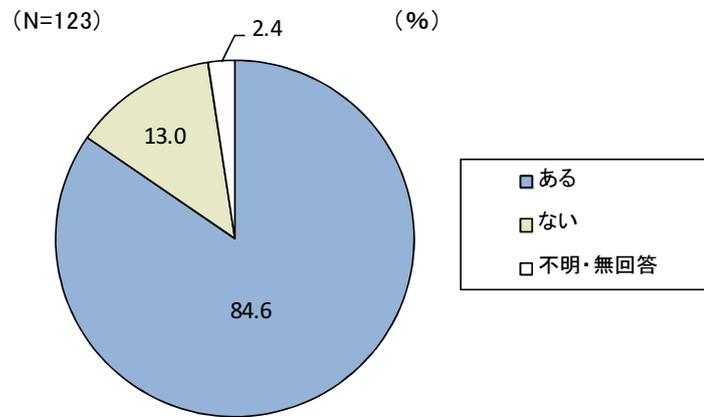
123事業所の合算

前回調査との比較では、女性、男性とも育児休業の取得率は増加しています。



【Q 9】 就業規則等に介護休業制度の定めがありますか。（〇は1つだけ）

「ある」が84.6%となっている一方で、「ない」も13.0%ありました。



【Q10】 介護休業の取得状況は？（平成 27 年 1 月 1 日～12 月 31 日までの状況）

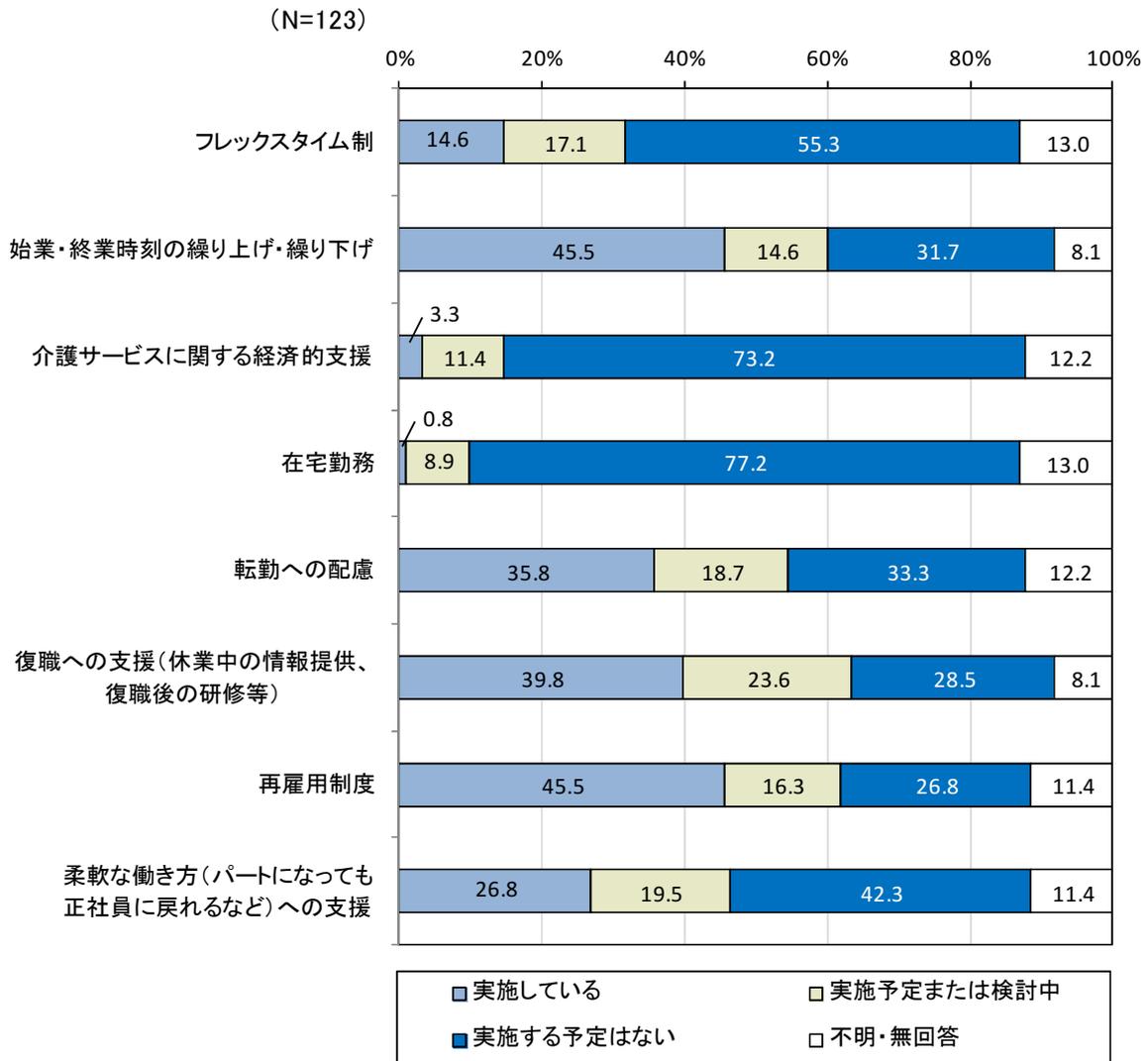
前回調査では取得者がいなかった男性で、今回は2人の取得者がいました。平均取得日数は、女性より男性のほうが多くなっています。

女性		男性	
介護休業を取得した従業員 (前回)	4人 (4人)	介護休業を取得した従業員 (前回)	2人 (0人)
平均取得日数	1日	平均取得日数	3日

123事業所の合算

**【Q11】 育児や介護を行う従業員を支援するために、休業以外の取組を行っていますか。
(〇はそれぞれ1つずつ)**

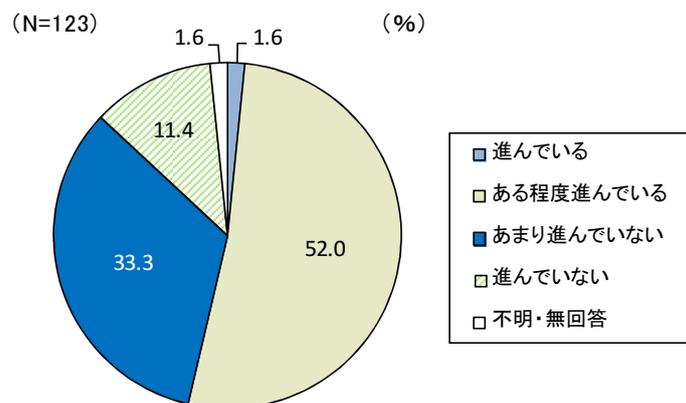
「実施している」が最も多かったのは、「始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ」と「再雇用制度」の45.5%で、次いで「復職への支援(休業中の情報提供、復職後の研修等)」39.8%、「転勤への配慮」35.8%などとなっています。一方で「実施する予定はない」が最も多かったのは、「在宅勤務」の77.2%で、次いで「介護サービスに関する経済的支援」73.2%、「フレックスタイム制」55.3%などとなっています。



4. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進について

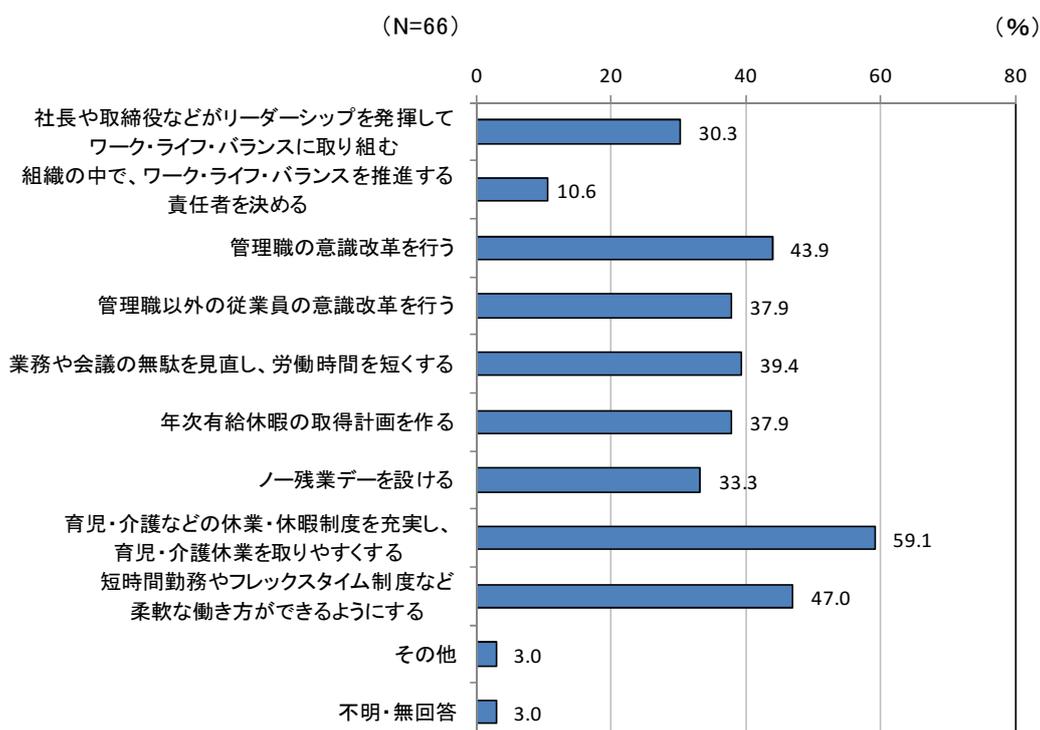
【Q12】ワーク・ライフ・バランスの取組が進んでいると思いますか。（〇は1つだけ）

「進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合わせると、53.6%と半数を超えています。はっきりと「進んでいる」と答えた事業所は1.6%となっています。



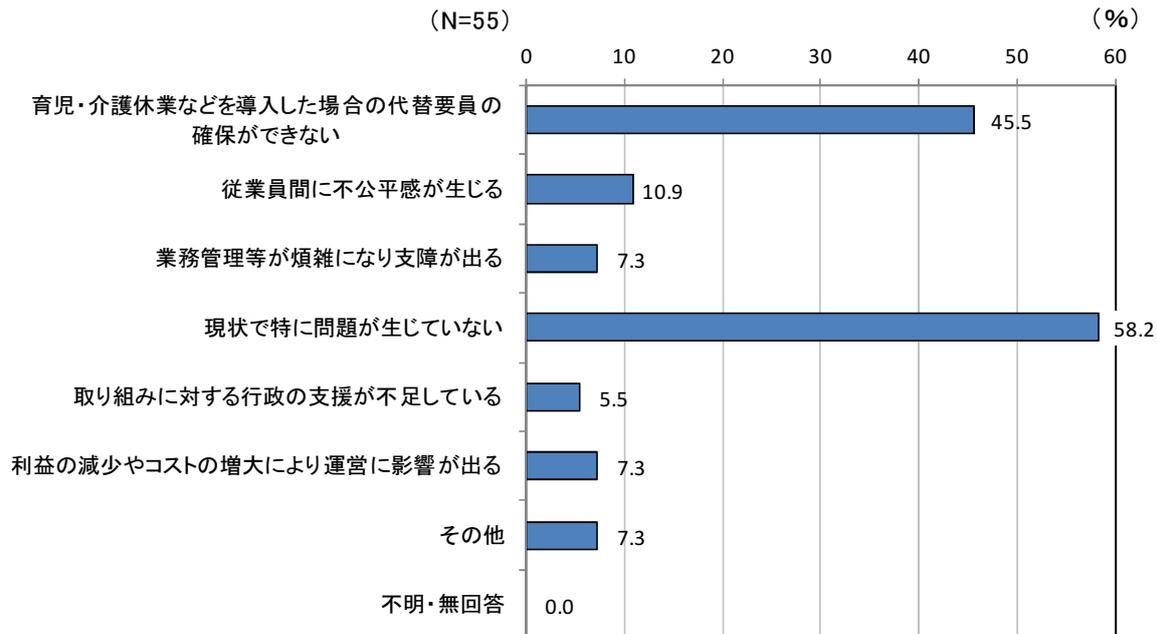
【Q13】ワーク・ライフ・バランスの実現に向けてどのような取り組みを行っていますか。（取り組みが「進んでいる」「ある程度進んでいる」と答えた事業所への質問。〇はいくつでも）

「育児・介護などの休業・休暇制度を充実し、育児・介護休業を取りやすくする」が59.1%と最も多く、次いで「短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする」47.0%、「管理職の意識改革を行う」43.9%などとなっています。



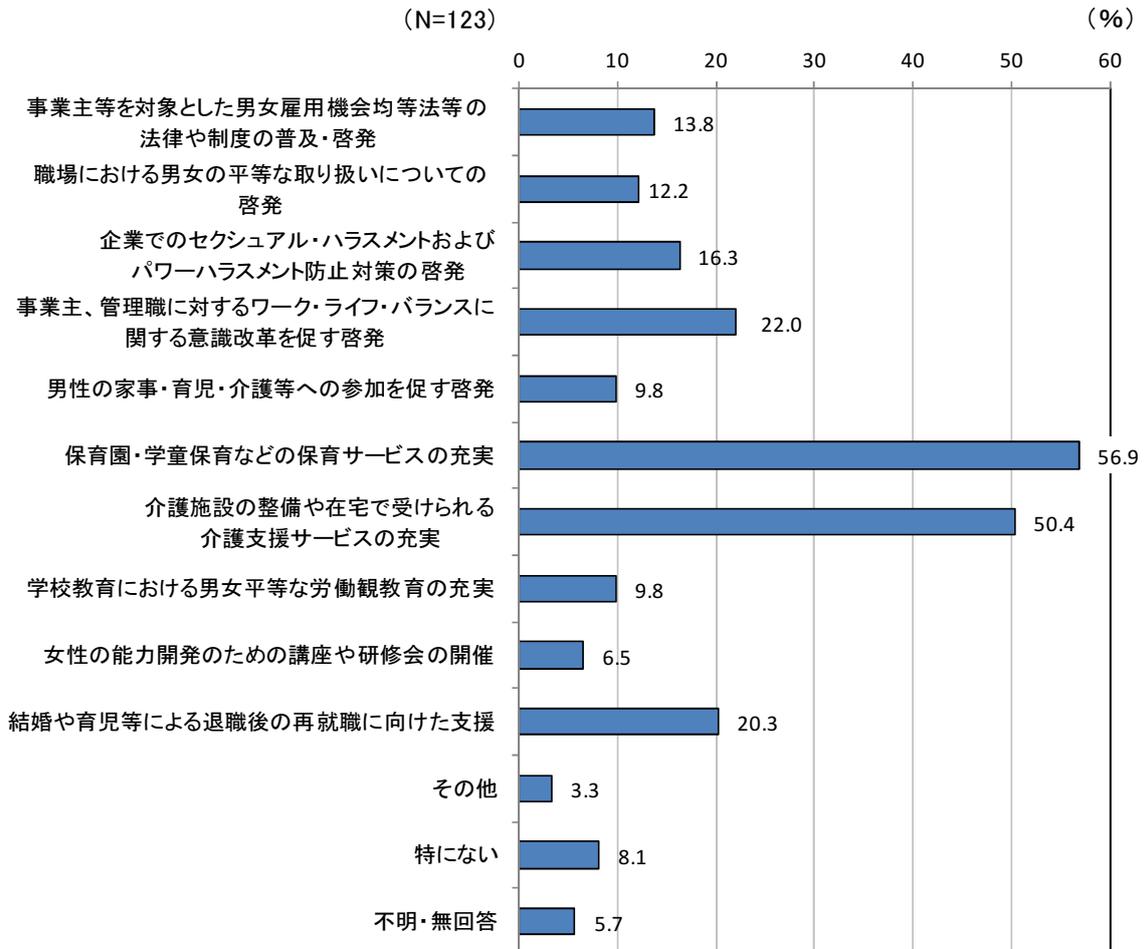
【Q14】ワーク・ライフ・バランスが（あまり）進んでいない理由は何ですか（取り組みが「あまり進んでいない」「進んでいない」と答えた事業所への質問。〇はいくつでも）

「現状で特に問題が生じていない」が58.2%と最も多く、次いで「育児・介護休業などを導入した場合の代替要員の確保ができない」45.5%、「従業員間に不公平感が生じる」10.9%などとなっています。



【Q15】男女が共に職場で活躍し、ワーク・ライフ・バランスを推進するために、行政にどのようなことを希望しますか。(〇はいくつでも)

「保育園・学童保育などの保育サービスの充実」が56.9%と最も多く、次いで「介護施設の整備や在宅で受けられる介護支援サービスの充実」50.4%、「事業主、管理職に対するワーク・ライフ・バランスに関する意識改革を促す啓発」22.0%などとなっています。

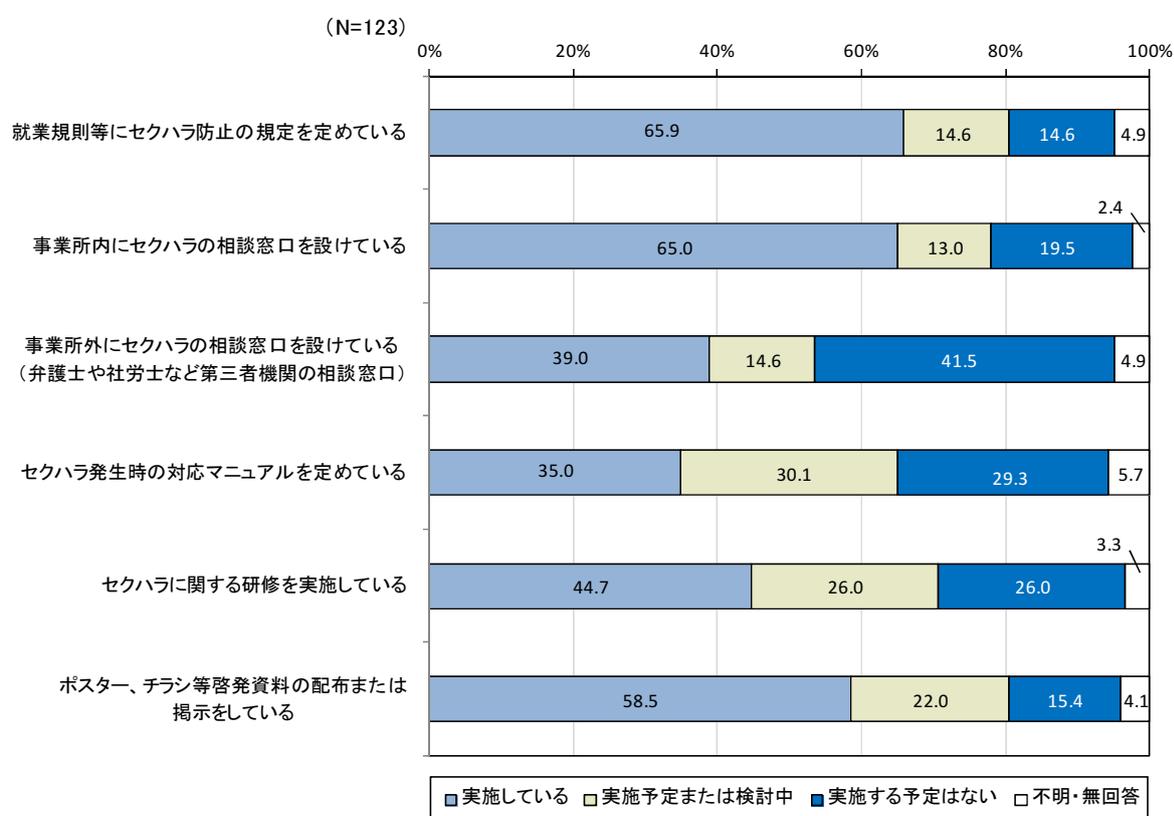


5. セクシュアル・ハラスメントおよびパワーハラスメント対策について

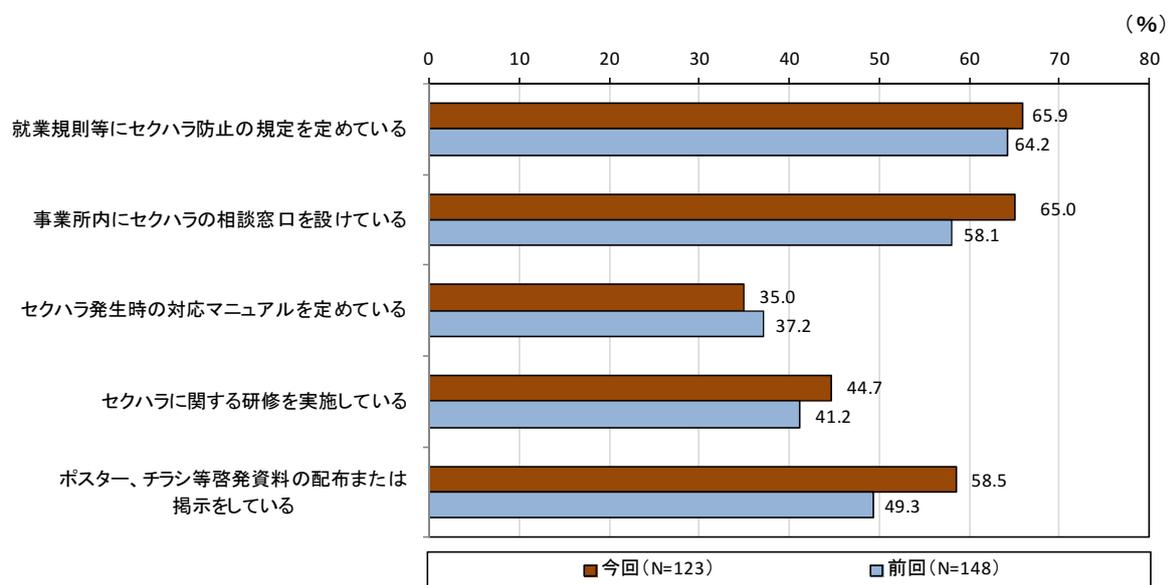
【Q16】セクシュアル・ハラスメント防止のための取組について。(〇はそれぞれ1つずつ)

「実施している」で最も多かったのは、「就業規則等にセクハラ防止の規定を定めている」の 65.9%で、次いで「事業所内にセクハラ相談窓口を設けている」65.0%、「ポスター、チラシ等啓発資料の配布または掲示をしている」58.5%などとなっています。

一方、「実施する予定はない」で最も多かったのは、「事業所外にセクハラ相談窓口を設けている（弁護士や社労士など第三者機関の相談窓口）」の 41.5%で、次いで「セクハラ発生時の対応マニュアルを定めている」29.3%、「セクハラに関する研修を実施している」26.0%などとなっています。



「実施している」と答えた事業所の割合を前回調査と比較してみると、「セクハラ発生時の対応マニュアルを定めている」を除く全ての項目で、前回より増加しています。セクハラ防止への取組が徐々に進展している様子がうかがえます。

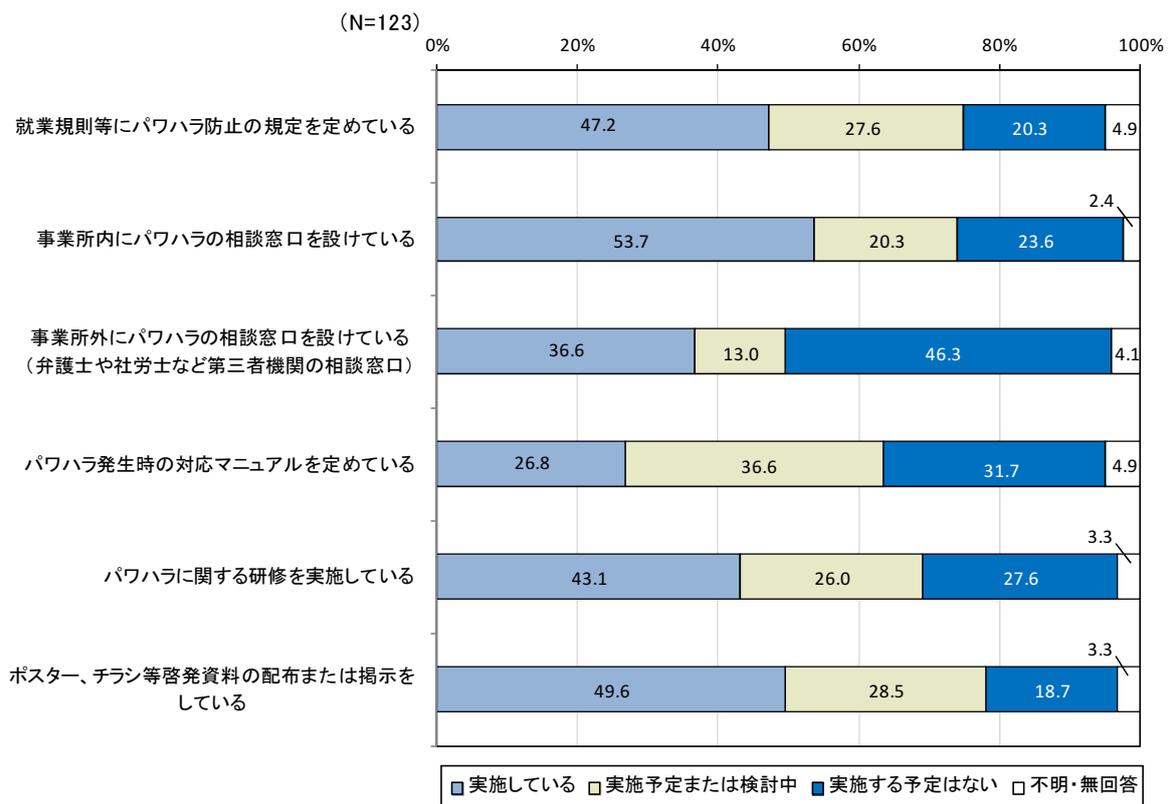


「事務所外にセクハラの相談窓口を設けている」は今回新たに設けた項目であるため、前回との比較はない。

【Q17】 パワーハラスメント防止のための取組について。(〇はそれぞれ1つずつ)

「実施している」で最も多かったのは、「事業所内にパワハラ相談窓口を設けている」の53.7%で、次いで「ポスター、チラシ等啓発資料の配布または掲示をしている」49.6%、「就業規則等にパワハラ防止の規定を定めている」47.2%などとなっています。

一方、「実施する予定はない」で最も多かったのは、「事業所外にパワハラ相談窓口を設けている（弁護士や社労士など第三者機関の相談窓口）」の46.3%で、次いで「パワハラ発生時の対応マニュアルを定めている」31.7%、「パワハラに関する研修を実施している」27.6%などとなっています。



**湖南省男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査
湖南省男女共同参画社会づくりに関する事業所実態調査
結果報告書**

平成 28 年（2016 年）5 月

発行／湖南省 人権擁護課

〒520-3195 滋賀県湖南省石部中央一丁目 1 番 1 号[西庁舎]

TEL: (0748) 77-8512 FAX: (0748) 77-4101

E メール : jinken@city.shiga-konan.lg.jp